

## AAR 設立の背景となつた世界の動き

1975（昭和 50）年

- |    |  |
|----|--|
| 4月 | ・ ポル・ポト派、カンボジア全土を制圧。                           |
| 5月 | ・ 北ベトナムが南ベトナム全土を制圧。                            |
| 8月 | ・ 日本にも“ボート・ピープル”が来着。日本政府、受け入れを拒否。              |
| 7月 | ・ ラオスのビエンチャンにパテト・ラオ軍入場。<br>・ 第2回設立準備会開催（私学会館）。 |

1976（昭和 51）年

- |  |   |
|--|---|
|  | ・ 南ベトナムで社会主義化が急速に進められ、多数が“ボート・ピープル”として国外脱出。 |
|--|---|

1978（昭和 53）年

- |    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 4月 | ・ 国内に一時滞在しているベトナム難民についての定住許可につき閣議了解。 |
| 9月 | ・ 上記3人のベトナム難民に初の定住許可。                |

1979（昭和 54）年

- |    |  |
|----|--|
| 1月 | ・ ポル・ポト派、カンボジア中心部を追われ、それまで抑圧されていたカンボジア人が多数タイに脱出。 |
|----|--|

# 40年のあゆみ

役職などは当時のもの。敬称略  
細字は時代背景のヒント

## 1979（昭和 54）年

米中国交正常化／東京で初の先進国首脳会議／ホメイニ師らによるイラン革命／米ソ、第二次戦略兵器制限条約（SALT II）に調印／マザー・テレサにノーベル平和賞／ソ連、アフガニスタンに軍事介入

- |         |  |
|---------|--|
| 4月      | <ul style="list-style-type: none"><li>相馬雪香会長にカナダの友人から手紙。「タイの難民キャンプに日本人ボランティアがおらず、日本政府は難民を受け入れない。日本人は冷たい」。前年（1978年）秋に受け取ったカナダの友人からの手紙をきっかけとして、相馬雪香会長、「こんなことでは日本は世界に孤立する」と、<b>民間の難民支援団体の設立を発起</b>。</li></ul>   |
| 3日      | <ul style="list-style-type: none"><li>アジア諸国に滞在中のインドシナ難民について、500人枠で日本定住許可の閣議了解。なおこの年、国内の一時滞在者2人に定住許可、および海外キャンプ滞在者92人にも定住許可。</li></ul>   |
| 6月      | <ul style="list-style-type: none"><li>第1回設立準備会開催（私学会館）。</li></ul>  |
| 7月      | <ul style="list-style-type: none"><li>第2回設立準備会開催（私学会館）。</li></ul>  |
| 10月     | <ul style="list-style-type: none"><li>第3回設立準備会開催（TBRビル）。</li><li>発起人は相馬雪香、村井資長、柳瀬眞、麻生和子、荒川あや、安藤勇、岩田喜雄、江上フジ、大地兼香、小笠原日英、鹿島卯女、金森茂一郎、川端正雄、公江喜市郎、木村清子、黒川光博、紅露みつ、小松秀子、相良惟一、佐々木米子、J・ピタウ、末次一郎、関嘉彦、高橋展子、高瀬正二、滝田実、殿岡昭郎、友松諦道、西川四郎、花柳寿楽、弘津恭輔、平塚益徳、星島節子、堀越克明、本郷富士子、松平頼明、三神美和、三木睦子、村松剛、吉田忠雄。</li><li>事務局を、東京都目黒区平町1-5-3 国際積善協会内に開設。</li></ul>  |
| 11月 24日 | <ul style="list-style-type: none"><li><b>インドシナ難民を助ける会（英語名称：ASSOCIATION TO AID INDOCHINESE REFUGEES）設立総会開催</b>（日本青年館国際会議場）。平塚益徳議長（国立教育研究所長）のもとに約300人が参加、<b>相馬雪香を会長に、村井資長（早稲田大学総長）を副会長に、柳瀬眞を理事・事務局長に選出</b>。理事に麻生和子、江上フジ、川端正雄、黒川光博、佐々木米子、J・ピタウ、末次一郎、高橋展子、弘津恭輔、三木睦子（50音順）を選出。吹浦忠正、升本順子ほか若干名を幹事として日常業務担当の任に当たらせる。また難民の中からカンボジア人 メアス・チャン・リープ、ラオス人 ウドム・ラタナボン、ベトナム人 ブー・ダン・クエ、グエン・ミ・トアンも参画した。</li></ul> |
| 12月 16日 | <ul style="list-style-type: none"><li>相馬雪香会長、羽田孜衆議院議員（のちの首相）、原文兵衛参議院議員（のちの参議院議長）、原不二子（同時通訳者）らから成る調査団をタイ、マレーシアに派遣。タイ／カンボジア国境のカオイダン難民キャンプほかを訪問。</li><li>都内3カ所の駅前で設立記念街頭募金。</li></ul>   |

## 1980（昭和 55）年

自主管理組合「連帯」誕生（ポーランド）／イラン・イラク戦争勃発／光州事件（韓国）／ジョン・レノン暗殺／モスクワ五輪ボイコット／定住枠を1,000人に拡大（定住者493人）

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「難民救援を考える」を開催（日本青年館）。シンポジストは近衛忠輝日本赤十字社外事部次長、井川一久朝日新聞編集委員、今川瑛外務省人権難民課長。司会は代表幹事の吹浦忠正。</li> <li>外務省、難民救援官民合同懇談会を開催。</li> <li>青年ボランティア約40名をタイ／カンボジア国境地帯などの難民キャンプへ派遣。</li> </ul>
2月 13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>寛仁親王殿下のご来臨を仰ぎ、チャリティ・パーティ（ホテル・オークラ）開催。</li> <li>バンコクで設立された日本奉仕センター（現・NPO法人日本国際ボランティアセンター）に活動資金として2000万円を助成。以後11月までに28人のボランティアを派遣し、同センターの以下のプロジェクト実施において中心的な役割を担った。自動車整備、日本語学校、トランジット・センターでのレクリエーション指導、井戸掘り、食塩の緊急配布、カンボジアの歌の入ったテープとテープレコーダーの提供、ボランティア宿泊所の開設・運営、事務局用のマイクロバス・冷蔵庫・文具の提供、難民の製作した手工芸品の日本への紹介など。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>NGOのネットワークである「インドシナ難民救援連絡会（イ難連）」発足。東京で「幼い難民を考える会」が設立され、活動資金として200万円を助成。</li> <li>タイで活動するSeventh-Day Adventist World Service (SADWS) の活動への恒常的な協力を開始し、以後、井戸掘り機や織機の提供、同機の使用訓練、浄水器の提供、外科手術機器の提供、そのほかの人的物的協力を開始した。</li> <li>赤十字国際委員会 (ICRC) を通じ、タイ／カンボジア国境付近のカオイダン難民キャンプに、毛布400枚、食器1,000点など退院患者用生活必需品を提供。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>マレーシア赤新月社からの要請により、クアラルンプールの難民トランジット・センターやベトナム難民のキャンプのあるビドン島に看護師を派遣（以後88年までのべ11名を継続派遣）。医療活動と医薬品、医療機器の提供を行った。</li> <li>三菱鉛筆株式会社から寄贈された鉛筆10万本をタイ各地の難民キャンプほかで配布。</li> <li>在日ラオス難民と日本人女性の婚姻とラオス式結婚式の世話。日本では定住が認められず、カナダへ移住。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>在日インドシナ難民を救う法律家の会に83万円の助成。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドシナ流民に連帯する市民の会との協力で、保釈金を分担（220万円）。</li> <li>第三国へ定住する難民子女への恒常的な支援を実施。</li> <li>ポル・ポト派退去後のカンボジアに、代表幹事 吹浦忠正を調査のため派遣。日本のNGOとしては初めて。</li> <li>浩宮殿下（現・天皇陛下）をお招きし、社団法人東京青年会議所との協力でチャリティ映画会を開催。「スターウォーズ」を上映。</li> <li>カンボジア赤十字社の要請によりカメラ1台を提供。</li> </ul>
7月 7日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>事務局長 柳瀬 真逝去。柳瀬房子（現会長）が後任に。</b></li> <li>東京都からバキュームカーを譲り受け、輸送費を負担し難民キャンプにおくる。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイの難民キャンプ用給水車を購入し、Refugees Internationalと共同で供与。</li> <li>タイ難民キャンプでCAREとの協力で、ヘリコプターによる米穂まき作業を支援。</li> <li>アジアの医学生の協力推進にあたる団体（後のNPO法人AMDA）の発足を支援。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本赤十字社などと協力し、カンボジア赤十字社へ貨物船一隻分の物資提供を分</li> </ul>

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>担。炊事セット 4,000 点、裁縫用具 4,000 点、製薬原料 500 kg など。</li> </ul>
11月 20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の香港難民救援活動センターに運営費 100 万円を供与。</li> <li>1980 年度総会(日本青年館)。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピンのベトナム難民キャンプで正月用の餅を配るための資金協力(5 万円)。</li> </ul>

### 1981 (昭和 56) 年

エジプトのサダト大統領暗殺／ポーランドで軍政始まる／アメリカでエイズ、初めて報告／北炭夕張炭坑で火災／中国残留孤児が初来日／定住枠を 3,000 人に拡大(定住者 1,696 人)／国会で難民条約を承認(発効は 82 年 1 月 1 日)

3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>Seventh-Day Adventist World Service (SAWS)との協力で、タイ／カンボジア国境付近の難民キャンプにいるカンボジア難民に、東京の眼鏡組合をはじめ日本中からの提供による眼鏡 6,400 個を配布。米国の眼科医 2 名も参加。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイ／カンボジア国境付近での救援活動のため、米軍提供の X 線装置の輸送に協力。外科手術用器具、三菱各社からの提供で救援活動用車両 3 台を難民キャンプに供与。</li> <li>国際家族計画連盟ならびに日本家族計画協会から寄贈を受け、マレーシアのビドン島で家族計画プロジェクト機材を配布。</li> <li>日本赤十字社からビドン島に派遣の X 線チームに、語学面などで継続的に協力。</li> <li>ケニアのトゥルカナ地方に難民救援のため看護師の斎藤昌子を派遣。カクマ病院で活動。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国の救援団体 Volunteer International に活動資金 200 万円を助成。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表幹事 吹浦忠正をアフリカ 3 カ国に派遣。</li> <li>タイ／カンボジア国境のソクサン難民キャンプに大工道具数組を提供。</li> <li>梶 利一医師の協力で義眼 15 個を難民キャンプの医師に提供。</li> </ul>
29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1981 年度総会(日本青年館)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科巡回診療用特殊車両の運営資金として 250 万円を SADWS に助成。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケニアにおける CRS(アメリカのカトリック系救援団体)の活動に看護師 1 名を派遣(以後 3 年間に 2 名)。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケニアのトゥルカナ地方カクマ病院への医療機器の提供。</li> <li>北トゥルカナのカイコル地区で深井戸掘削に成功。3 本。風車設置で常時汲水。</li> </ul>

### 1982 (昭和 57) 年

ブレジネフ書記長が死去／イスラエルがレバノンに侵攻／フォークランド紛争／ホテル・ニュージャパンで火災／日航機、羽田沖に墜落

2月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>皇太子殿下、同妃殿下(現・上皇陛下、上皇后陛下)、三笠宮容子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、立正佼成会の協力で、Refugees International との共催により、「82 難民に愛の手を! ショスタコビッチ父子によるチャリティ・コンサート」を開催(普門館)。同時に、イ難連加盟 NGO の活動展をロビーで開催。</li> <li>アフガニスタン難民のために 5,000 ドル(子ども用下痢止 8,000 人分)を、来日中のトリアライ・ナッセリ医師を通じて提供。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 月のコンサートの純益で<b>難民救援奨学金</b>(委員長 相良惟一聖心女子大学学長)<b>制度が発足</b>。10 人の在日難民学生に支援開始。以後、1992 年の姉妹団体 社会</li> </ul>

	21日	福祉法人さぼうと 21 設立まで、のべ約 920 人を 1 人平均 6 年間支援。
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際アフガン難民救援デー記念街頭募金を実施。</li> <li>・在日インドシナ人系緊急救援活動センターに運営資金 30 万円を助成。</li> <li>・米国の救援団体 Volunteer International との協力で、タイのバンサンゲ地区で井戸 5 本の掘削に成功。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフガニスタンでの病院建設計画のため同国のトリアライ・ナッセリ医師に 256 万円提供。同じく全身麻酔器、血液保冷庫を提供。</li> </ul>
7月 30日	-8月 2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本赤十字社、アンリ・デュナン教育研究所、建設大学校の協力で、<b>第 1 回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催</b>（河口湖畔）。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケニアのトルカナ難民キャンプで干ばつ被災者への支援活動を実施。カクマ病院へ変圧機、顕微鏡、尿分離器などを提供。</li> </ul>
10月 13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンソン歌手の石井好子さん出演によるチャリティ・パーティと活動展を開催（ホテル・オークラ）。</li> </ul>
11月 8日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニューヒンさん出演による奨学基金集めのヴァイオリン・コンサート開催（草月会館ホール）。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本への定住が決定しているが、受け入れ施設の都合でフィリピンに待機しているベトナム難民への指導のため、日本語教師 2 名を派遣。</li> </ul>

#### 1983 (昭和 58) 年

アキノ上院議員暗殺（フィリピン）／大韓航空機、サハリン沖で墜落／韓国要人爆殺テロ（ビルマ）／戸塚ヨットクラブのシゴキ事件で校長逮捕／定住枠を 5,000 人に拡大（定住者 2,827 人）

1月 14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ヴァイオリニスト佐藤陽子さん出演によるチャリティ・コンサート開催</b>（日比谷公会堂）。浩宮殿下（現・天皇陛下）ご来臨。</li> </ul>
3月 31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストレーター・歌手の水森亜土さん、童謡歌手の大和田りつ子さんの出演により、チャリティ・ショウ「みんななかよし世界のこども」を開催（虎ノ門ホール）。在日難民 3 団体、東京韓国学校が協力。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在日インドシナ難民奨学金給付学生文集『私の始まり』を刊行。代表幹事 吹浦忠正が編集を担当。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画家の池田満寿夫、佐藤陽子ご夫妻の参加と木村屋の協力により、銀座の「歩行者天国」で、池田満寿夫さんデザインによるサイン入り特製チャリティ T シャツ頒布会を実施。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難民子弟へ教科補完教育をする<b>「難民塾」を開設</b>。</li> </ul>
8月 4-7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>第 2 回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催</b>（銚子市）。銚子青年会議所の協力。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「難民に愛の衣料を！」キャンペーンを実施。全国から 1,330 トンの衣料と 602 台の足踏みミシンを集め、タイ／カンボジア国境地帯のフィリピン難民の各キャンプに提供した。Project Asia、日本通運株式会社、トナミ運輸株式会社の協力。</li> </ul>
12月 30日 -1月 3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省体育局、長野県上田市、上田青少年友の会、美津濃スポーツ、青年海外協力隊 OB 会の協力により、<b>第 3 回「がんばれ難民学生！ はじめての雪、はじめてのスキー、はじめての正月」冬期合宿を開催</b>（文部省菅平体育研究施設）。</li> </ul>

#### 1984 (昭和 59) 年

アフリカで大干魃、飢餓広がる／ガンジー首相暗殺（インド）／ロサンゼルス五輪／新語流行語大賞金賞「まるきんまるび」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>相馬雪香会長、幹事 藤田幸久（のちに国会議員）を伴いタイ／カンボジア国境の難民キャンプを訪問。</li> <li>國士館大学の中島博行学生主事を中心に横浜に「難民塾ひまわり」を開設。また、各地に居住する在日難民のために、教科補完教育を開始。43名のボランティアが72名の難民子女の指導に当たるようになった。森 喜朗文相（のちに首相）が看板を揮毫。1991年12月、所期の目的を達成して終了。</li> </ul>
2月 9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「'84 難民に愛の手を！菅原洋一チャリティ・ショウ」を開催（都ホテル東京）。東京豊新ライオンズクラブのご協力。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム出身のトラン・ゴク・ラン、在日難民で初の医学生に。入学を祝う会を開催。在日難民3団体、ランちゃん友の会、マリオ小林さんの協力。</li> </ul>
25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>在日インドシナ難民3団体ほかとの協力でサッカー親善試合。荒川区教育委員会、東京青少年赤十字の協力。以後、各方面の協力で95年までに21回開催したほか2003年5月にも開催。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回「難民オリンピック」、難民サッカー大会開催（荒川区立第七中学校）。荒川区教育委員会、東京青少年赤十字と協力。</li> </ul>
6月 30日	<p>創立5周年記念総会を開催（日本青年館）。創立5周年記念日にあたる11月24日を期して、<b>会の名称を「難民を助ける会」（英語名称：ASSOCIATION TO AID THE REFUGEES）に変更することが決議され、以下の設立趣意書の確認が行われた。</b></p> <p>1975年インドシナ3国では永い間続いた戦争が終結し、爾来、150万を超える人々が住み慣れた故国を捨て世界に離散した。わが国にも7,000人を超える難民が救いを求めて来航し、官民相携えての援助を得て3,000名に近い人々が定住しつつある。しかしながら、タイ国内、タイ／カンボジア国境地帯をはじめ東南アジア諸国にはまだ数十万のインドシナ難民が安住の地を求めて苦難の日々を送っている状況が続いている。</p> <p>翻って世界に目を転ずれば、アフガニスタン、パレスチナ、東アフリカなどから隣国に逃れて幸せを求める人々が数多く存在している。</p> <p>1979年、カンボジアから新たに大量の難民がタイに逃れて来たとき、遺憾ながら、われわれは「日本人は冷たい」との批判を受けたが、その後、わが国では青少年、婦人、労働者、教育、宗教関係者らをはじめ多数の人々が立ち上がって、稀に見る海外救援活動の盛り上がりを見せ、今日に至っている。</p> <p>われわれは1979年11月24日、逸早く難民救援のための市民団体「インドシナ難民を助ける会」を組織し、満5周年を迎えるにあたり、難民問題の世界的規模への拡大と支援する国民各位の期待に応え、同会を発展的に解消し、救いを求める援助を必要とするすべての難民に対して、古来、日本人の心に流れる善意を基調とし、愛の手を差し伸べようとして「難民を助ける会」を設立する。</p> <p>「難民を助ける会」は、政治や宗教や地域の如何を問わず、日本人の持つ善意と人的、技術的、資金的な力を広く結集し、世界が期待している日本人としての役割を担っていきたいと考える。</p> <p>それが、人類の共存・共栄という理想の実現に寄与することであり、ひいては、日本人一人ひとりに求められている「心の開国」につながるものだからにはかならない。</p> <p>また、理事が改選され、麻生和子、アンセルモ・マタイス、石井公一郎、大来寿子、小笠原日英、金森茂一郎、黒川光博、相良惟一、佐々木米子、J.ピタウ、末次一郎、高橋展子、滝田 実、弘津恭輔、堀越克明、三木睦子、柳瀬ユキ子となる。代表幹事に吹浦忠正、幹事に石井多摩子、緒方璋子、藤田幸久、升本順子、</p>

- 柳瀬房子を選出。
- 7月
- 心室中隔欠損症のカンボジア難民児童ユ・カンナラちゃん（4歳）とその家族の受け入れを日本政府に強く働きかけて実現。東京都と日赤医療センターの協力で、以後、本人が満20歳になる2000年まで、家族を含め、医療と毎月の生活、進学、就学を支援。カンナラちゃんが重度の障がいを持つため、日本政府が家族とともに受け入れを拒否。国際的にも問題になりかけた難民受け入れ問題を解決した。
- 14日
- 「マリオ小林チャリティ・ピアノ・サロン 難民学生とともに」を開催（ホテル・オークラ）。
  - 第4回「がんばれ難民！のつどい」夏期合宿を開催（国立磐梯青年の家）。帰路、足尾町で民泊を体験。町の「難民定住センター構想」につき話し合う。
  - 「アフリカの子どもに水とミルクを」キャンペーン開始。派遣ボランティアに284人が応募。
- 9月
- ザンビアのメヘバ難民キャンプ（首都ルサカの北西約700km、主にアンゴラ難民が定住）とジンバブエのトンゴガラ難民キャンプ（首都ハラレの南西約600km）での活動調査のため、藤田幸久幹事など3名を派遣。
  - 財団法人三菱銀行国際財団の助成、外務省、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の後援、日赤中央女子短大の協力で、翌年12月まで毎月第3土曜に「難民問題フォーラム」を開催。ボランティアや研究者、在日難民など毎回多数が参加した。
- 13日
- 10月 14日
- ユ・カンナラちゃんの心臓手術成功。
  - 外務省提唱の「アフリカ月間」に呼応して、数寄屋橋で街頭「節食ランチ」を実施。株式会社木村屋、日本酪農業共同組合、公益財団法人日本相撲協会、ミス東京が協力。
- 24日
- 皇太子殿下、同妃殿下（現・上皇陛下、上皇后陛下）のご臨席を仰ぎ、在日難民学生の奨学金のための「'84難民に愛の手を！ 清水和音チャリティ・ピアノ・リサイタル」を開催（昭和女子大学人見記念講堂）。
- 11月
- 14日
- 相馬雪香会長、勲三等瑞宝章を叙勲。
  - ザンビア北西部州メヘバ難民キャンプとジンバブエ マニカランド州トンゴガラ難民キャンプに向け、第一次派遣ボランティア14名が出発。  
ジンバブエには合計27人を派遣し、現地のNGOジンバブエ女性クラブ連合（AWC）との協力のもと、モザンビーク難民支援事業を実施。農業、木工指導、裁縫指導、栄養改善、医療・保健などの分野で。85年11月まで活動。
- 12月
- 外務省とNGOとの協力により、「アフリカに毛布をおくる会」を設置。会長森繁久弥、実行委員長吹浦忠正。
  - 年末までに、タイ／カンボジア国境の難民キャンプ・アンピルに「東京村」として200戸のカンボジア式住宅を建設、難民1,100人を収容し、生活用品などを提供した。

### 1985（昭和60）年

ゴルバチョフ政権誕生／コロンビアで噴火、死者2万以上／日航ジャンボ機、御巣鷹山に墜落（520人死亡）／新語流行語大賞金賞「イッキイッキ」／定住枠10,000人に拡大（定住者4,536人）

- 1月
- 「アフリカに毛布をおくる会」が本格的に活動を展開。毛布171万枚と10億円の資金を集め、同年秋までに8カ国で配布。AARからは、9名をエチオピア、スーザン、ガーナ、モザンビーク、マリ、ニジェール、ジブチ、ザンビアに派遣。

- ・ エルサルバドルの心臓病児童ウェンディ・グアダルベちゃん（3歳）を日本に受け入れ医療支援。
- 2月
- ・ タイ／カンボジア国境の難民キャンプ・アンピルにカンボジア唯一のアマチュア無線局 X1SS を開設。林義雄、横田光弘を中心に。
  - ・ 全日本労働総同盟からの毛布 5,000 枚をフィリピンの難民キャンプで配布。
  - ・ ザンビアでの活動（医療、水利、食料、職業訓練、井戸掘りなど）が本格化。
  - ・ 外務省の委嘱を受け、小林ゆりほか 6 人が、仏語圏を中心としたアフリカ 8 カ国に医薬品の供与と毛布の配布。8 月まで。
- 3月
- ・ 在日インドシナ難民奨学生文集第 2 集『私の十年』刊行。財団法人日本宝くじ協会の助成。清水廣美が編集を担当。
  - ・ タイ／カンボジア国境の難民キャンプ・オボクに「日本村」を開設。300 戸のカンボジア式住宅を建設。難民 1,500 人を収容し、生活用品などを提供した。また、退避壕、給食場、クリニックを建設。採卵用鶏 656 羽を提供。周辺のカンボジア、ラオス難民キャンプに衣料 1,200 トンを配布。
- 4月
- ・ 「アフリカの子どもに水とミルクを！応演歌'85」を開催（日本武道館）。大川栄策、千 昌夫、細川たかし、前川 清、森 進一、森 昌子（50 音順）が無料出演。以後 2002 年の第 18 回まで、毎年 1 回、普門館、NHK ホールを会場に、「じゅかいもの会」（森 進一代表）としてチャリティ・コンサートを主催。
  - ・ 在日難民学生や生徒の在籍する教育機関に対し、授業料など学校納付金の減免、奨学金の優先給付などを働きかけ、昭和女子大、聖心女子大、明治薬科大、聖マリアンナ医科大学などで特別の処遇を実現していただいた。また、代々木ゼミナル、猶興学館など各地の予備校でも同様の協力をいただけるようになった。
- 5月
- 11日
- ・ 大村レセプションセンター（長崎県）に日本語教師 2 名を派遣。
  - ・ インドシナ難民来日 10 周年記念シンポジウム「難民問題－世界と日本」を開催（日本青年館）。パネリストに緒方貞子上智大学教授（のちに国連難民高等弁務官）、神谷不二慶應義塾大学教授、内藤健三大和難民定住促進センター所長、相馬雪香会長。司会は代表幹事 吹浦忠正。
  - ・ アフリカ協会、アフリカへ毛布をおくる会との共催で「85 アフリカ救援活動展」を開催（日本青年館）。
  - ・ **バングラデシュ南部を襲ったサイクロンによる洪水被災者に、乳児用食料、飲料水、医療など 10,000 ドル強の緊急支援を実施。**
  - ・ ジンバブエでの活動にブラジルからマルコス豊橋が参加。ポルトガル語での活動が必要なことから。
  - ・ 第 2 回難民サッカー大会開催（東京 小金井 国鉄グラウンド）。
- 7月
- 6日
- ・ インドやネパールに滞在するチベット難民児童 25 人に奨学金給付を開始。マンツーマン方式で 91 年 2 月まで。
  - ・ **ザンビアのメヘバ難民キャンプで作業所の指導者を務めていた古賀 繁さん、急性脳性マラリアで逝去。**
- 8月
- ・ 総理府青少年対策本部の主催する第 1 回国際青年の村行事に、在日ベトナム難民 6 人が参加できるよう斡旋。
- 2-5 日
- ・ 第 5 回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催（青年海外協力隊駒ヶ根訓練所）。
- 10-23 日
- 20日
- ・ 歌手の菅原やすのりさんがジンバブエの難民キャンプへ。
  - ・ **ジンバブエ派遣ボランティアの荒井久治さん（木工指導）が交通事故で急逝。** 乗っていた自動車が飛び出してきたトラックを避けようとして立木に激突した。

- ・在日カンボジア難民女性に、浦和市と共同で電動式車いすを贈呈。
  - ・このころ、在日難民児童のための絵本、玩具、衣類、靴などの提供を盛んに行う。また、在日インドシナ難民を救う法律家の会の活動に助成。在日インドシナ難民に連帯する市民の会との協力で、必要な保釈金を準備して協力した。さらに、在日インドシナ系人緊急救援活動センターの活動を支援するなど、教育、カウンセリングなどの活動を実施した。第三国の定住受け入れを待つ在日インドシナ難民に英語学習機材や生活用品、当時入手困難だったベトナムの調味料ニヨクマムなどを提供。
- 9月
- ・ザンビアのモンゴ地区ウエネラ集落で近藤晴次らが「**上総掘り**」に成功。以後、メヘバ難民キャンプを中心に数十本の井戸を掘削。全国地域婦人団体連絡協議会と国際青年の年推進協議会の助成。
- 12月
- ・「21世紀を考えるチャリティ・カレンダー」(1986~2001年までの16年間を全紙大の特殊な紙に印刷したもの)を発行。この間に予想されるできごと(1986年ハレー彗星大接近など)や記念日を記入した。日本通運株式会社とブリヂストンサイクル株式会社の協力。
- 12月29日  
-1月2日
- ・文部省体育局、上田青少年友の会、上田市ボーアスカウト、真田町観光協会ほかの協力により、第6回「がんばれ!難民のつどい」冬期合宿を実施(文部省菅平体育研究施設)。ベトナム、ラオス、カンボジアからの難民82名と、日本人ボランティア22名が参加。

#### 1986(昭和61)年

チェルノブイリ原発事故(ソ連) / アキノ政権誕生(フィリピン) / スペースシャトル空中爆発事故 / 三原山が噴火(209年ぶり) / 新語流行語大賞金賞「新人類」

- 1月
  - ・タイ / カンボジア国境のカンボジア難民キャンプ「サイト2」ほかを藤田幸久幹事が調査のため訪問。
- 2月
- ・**タンザニアのコワク病院**(ダルエスサラームから西に900km)に森里美看護婦を派遣。
  - ・パソコン、ワープロの積極的導入開始。筑波大学情報学類在学中の在日ベトナム難民のトラン・トルエン・カップ、同トラングの兄弟と吉田敦(東工生)が中心となって。
- 3月
- ・じゃがいもの会「応演歌'85」の純益でザンビアのメヘバ難民キャンプに「**じゃがいもクリニック**」が完成。このほかジンバブエのトンゴガラ難民キャンプに2,000万円相当の医薬品と医療器具、タンザニアのコワク病院に太陽熱利用の医療用冷蔵庫とベッド26台を寄贈。
- 17日
- ・三笠宮殿下、同妃殿下をお迎えし、「アフリカの子どもに水とミルクを! 第2回じゃがいもの会 応演歌'86」開催(普門館)。
- 4月
- ・心室中隔欠損症の在日難民児童ユ・カンナラちゃん、元気に杉並区立永福小学校に入学。
  - ・「在日インドシナ難民を救う法律家の会」(伊藤和夫会長)の要請により、アフガニスタンからの留学生ハビブラ・クラビヤール(東北大学大学院博士課程)を奨学生に。
  - ・ミニ募金箱を製作、3万個を全国に配る。
  - ・トラン・トルエン・カップさんが筑波大学情報学類を卒業して、日本IBM株式会社に就職するなど、難民救援奨学金(委員長 加藤一郎成城学園学園長、元東京大

- 学学長）給付生、相次いで卒業、就職へ。
- 5月
- ・池田満寿夫さん、3作目のAARオリジナルTシャツを制作。
  - ・新宿西口のマンション（最大時3室）を借用し、**難民塾「太陽」を開設**（野沢美智子塾長）。1対1の日本語指導を中心に、400名以上の日本語教師ボランティアが在日難民やその他の外国人1,000人以上に日本語を指導。93年に品川区上大崎に移り2000年12月まで実施。
- 11日
- ・インドシナ難民連帯委員会、麗澤大学との協力で、難民サッカーワールド大会開催（麗澤大学）。ラオスの球技マッカトゥも楽しむ。
- 24日
- 6月
- ・1986年度総会（日本青年館）。
  - ・横浜収容所に収監されているモハメッド・サメーさんはじめ3人のアフガニスタン難民青年への援助を開始。3人は、偽造旅券でアフガニスタンを脱出、マレーシアを経由して来日したが、日本政府は身柄をマレーシアに移送、同国が上陸を拒否したため、再び日本に移し、同収容所に収監しているもの。「在日インドシナ難民を救う法律家の会」からの要請による支援。
  - ・難民奨学生が相次いで大学に合格。AARの働きかけで、明治薬科大、東海大、育英高など工業高専が特待生待遇を付与。
- 7月
- ・タンザニアのコワク子ども病院建設のため、加藤安孝（のちに日本赤十字社国際部に所属し、同社の海外活動の中心的な存在として活躍）、森里美看護師、宮嶋信雄（協力隊OB、建設の専門家）を派遣。小松博史 鹿島建設ダルエスサラーム駐在員（のちに理事）の協力も。
- 8月 7-26日
- ・東京都、財団法人三菱銀行国際財団、国立オリンピック記念青少年総合センターなどの協力により、同センターでAAR「上総塾」（諸岡青人塾長）の第1回合宿（20泊21日）が開催された。参加したのは、菅沼智之（のちに公認会計士）など日本人9人とケニアのジョン・カルメ牧師。昼は隣接する森林公园（東京代々木）で実技研修、夜は理論と英会話などを学んだ。
- 9月 15-18日
- ・第7回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿開催（野辺山高原）。
  - ・ザンビアに向けて、上総掘りチームが相次いで出発。
- 14日
- ・難民オリンピックと銘打って、インドシナ難民運動会を開催（日赤中央女子短大グラウンド）。300人のインドシナ難民が参加。昼食は、カンボジア料理の弁当。
- 20日
- ・「じゃがいもの会」からザンビアでの活動のためにと患者輸送車が寄贈される。歌手の大川栄策さんが横浜の埠頭で引渡し。
  - ・6月からザンビア、ジンバブエ、ボツワナ、ケニア、ウガンダの5カ国を訪れ、難民キャンプや周辺の村落を回って音楽交流を続けつつ、アフリカの草の根レベルの音楽収集にあたっていた吉田礼子、正木貴が帰国。ソニー株式会社とキングレコード株式会社の協力で、25曲を選んで音楽テープ「アフリカのあ」を87年4月に完成。チャリティ発売開始。
- 10月
- ・新宿で行っている難民塾「太陽」が大盛況で、マンションの借り上げが3室となるも、連日超満員。
  - ・池内吉克がザンビアでリヤカーの製作を指導し64台が完成。現地で大きな反響。リヤカーは大正時代に日本で発明されたもので、同国にはなく、「石油燃料がなかなか手に入らないザンビアでは、穀物、雑貨、水から果ては遺体の運搬にも最適」と現地紙に報道され、Japanese Cart（日本車）と命名された。日本大使も推奨。贈呈式でザンビアの高官が「私たちは池内さんの活動を末長く感謝の気持ちで思い続けるでしょう」と挨拶。若いメンバーたちも「胸が熱くなりました」。リヤカー貸し出しは、2004年3月のメヘバ事務所閉鎖まで続く。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>この月の集計で、チベット難民への奨学金支援は 35 人（組）。女優の木内みどりさんも 5 人に支援。</li> </ul>
11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>エルサルバドルで大地震。</b> 同国出身のサラ・マルガリータ山際を緊急派遣。前年 1 月、AAR の招きで来日し、心臓病の診察を受けたウェンディちゃんへの支援で協力関係にあった、首都サンサルバドルのブルーン・ベンハミン記念国立病院からの要請に応え、抗生物質を段ボール 8 個分と強心剤を届けた。この後、引き続き電解質輸液 5,000 本（大鵬薬品株式会社の協力）、抗生物質（日本ケミファ株式会社の協力）を同病院に贈った。</li> </ul>
24 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>東海大学サッカーチーム、相模原国際交流協会、インドシナ難民連帯委員会との協力で在日難民サッカー試合（東海大学）。</li> </ul>
12 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのメヘバ難民キャンプでの活動盛んに。井戸掘削、既存井戸の改善・整備、患者輸送、車両整備、保育園の運営、クリニックの運営、巡回診療、医薬品の提供などに拡充。</li> <li>この年、難民奨学生が生徒会長に選ばれたり、作文コンテスト、写真コンクールなどで最優秀賞を授与されたり留学生試験に合格するなど、活躍が相次いだ。</li> </ul>

### 1987（昭和 62）年

米ソ、INF 全廃条約に調印／ブラックマンデー（NY の株大暴落）／国鉄が解体し、JR 各社へ／NTT 株上場騒ぎ／新語流行語大賞金賞「懲りない…」

1 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>難民受験生の進学に適切な助言をするため、全国の 130 国立大学にアンケート調査を実施、67 大学から回答を得た。</li> </ul>
2 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>マレーシアのビドン島（ベトナムからの“ボート・ピープル”を常時 2~7 万人収容）での活動が続く。宇野いづみ看護師は 4 年目となった。</li> </ul>
3 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR の働きかけで東北福祉大も在日難民学生を学費無償で受け入れ。</li> </ul>
4 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアで「上総掘り」チーム、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）から 40 本の井戸掘削を要請され、活動を開始。</li> </ul>
22 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>在日インドシナ難民奨学生文集第 3 集『私と日本』を発行。小林ゆりが編集を担当。</li> </ul>
6 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>在日難民の進学就職を祝う会'87 を開催。難民塾「太陽」の活動。</li> </ul>
27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>第 3 回じゃがいもの会「応演歌'87」を開催（普門館）。皇太子殿下、同妃殿下（現・上皇陛下、上皇后陛下）ご来臨。</li> </ul>
8 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>NHK の「上総掘り」についての教育番組の制作に協力。</li> </ul>
9 月 15 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界の医療団」が南シナ海上で救出した“ボート・ピープル”的日本での受け入れを要請。AAR が日本政府に強く働きかけるが、「ベネチア・サミット」直前という理由で、約 600 人がフィリピンに上陸、フランスが引き取った。</li> </ul>
10 月 4 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>1987 年度総会（霞山会館）。</li> </ul>
11 月 8 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>第 8 回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催。三原山の噴火直後の伊豆大島で。</li> </ul>
22 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「難民運動会」開催（日赤看護大学グラウンド）。</li> <li><b>第 1 回「難民日本語スピーチコンテスト」を開催</b>（日本青年館）。以後、毎年開かれ、「スピーチ大会」と名を変えて 2000 年まで継続した。</li> <li>難民サッカー大会開催（麗澤大学）</li> <li>「難民奨学生のための音楽会」開催（サッポロビールファクトリー2）。昼の部“マリオ小林ピアノサロン”、夜の部“鈴木勲とソウル・ファミリー・ジャズコンサー</li> </ul>

ト”。

## 1988（昭和 63）年

イラン・イラク戦争終結／リクルート事件起こる／ソウル五輪／新語流行語大賞金賞「ペレストロイカ」

1月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ ザンビアの経済事情悪化で日本の政府開発援助でできた中学校に生徒が就学できないため、奨学生給付を開始。初年度 20 人に。2001 年 9 月まで実施。</li></ul>
3月	28 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ タンザニアのタリメ地区においてコワク子ども病院が完成。社団法人全国子ども連合会（全子連）の助成。全子連の末吉裕郎常務理事と子どもの代表などの参加で、竣工式を行った。</li><li>・ 難民を助ける会事務所が目黒区下目黒 3-7-32 へ移転。</li></ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 母国語を理解できない在日カンボジア難民子女が増えているため、在日カンボジア人協会（メアス・チャン・リープ会長 和平後カンボジアで国会議員となり、のちに院内で自決）との協力で、カンボジア語教室を開講。難民塾「太陽」に。受講生は 25 人。</li></ul>
	20 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第 4 回じゃがいもの会「応演歌'88」を開催（普門館）。</li></ul>
5月	28 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 難民サッカー大会開催（麗澤大学）。</li></ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ AAR の遠藤義雄が政府のアフガニスタン難民調査団のメンバーに。</li></ul>
	25 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1988 年度総会（霞山会館）開催。</li></ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>AAR、外務大臣表彰</b>を受ける。</li><li>・ タイ／カンボジア国境のカンボジア難民キャンプ「サイト 2」（約 17 万人収容）に藤田幸久幹事を調査に派遣。</li></ul>
8月	5-8 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第 9 回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催（東海大学嬬恋研修センター）。</li></ul>
	29 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ザンビアのメヘバ難民キャンプ（当時アンゴラ難民など約 1.8 万人が定住）に、日本全国から寄せられた英語の本 5,800 冊などをもとに、図書館を開設。国立ザンビア大学図書館に次ぐ、蔵書数同国第 2 の図書館に。開館式には事務局長 柳瀬房子が参加。のちに蔵書数 10,000 冊を超えた。その後移動図書館の活動を展開。図書館事業は、2000 年 12 月まで。</li></ul>
9月	15 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「難民オリンピック（運動会）」開催（国立オリンピック記念青少年総合センター）。</li></ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 在日カンボジア人協会との協力で、タイ／カンボジア国境地帯の難民キャンプに車いすをおくる運動を実施。社団法人青少年育成国民会議の協力で、カンボジア仏教会のサム・ポリンさんを招聘。有限会社大分タキ（上野 茂社長）で基本技術の研修などを行う。在日難民の奨学生が通訳を担当。</li></ul>
	13 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ピアノの中村紘子さんとチェロの堤 剛さんのご協力で、「難民奨学生のためのチャリティ・デュオ」を開催（サントリーホール）。「希望者が多く、難民奨学生がピンチ」という報道をきっかけに。</li></ul>
	23 日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第 2 回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（東京 YMCA）。</li></ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 難民塾「ひまわり」、カンボジア難民子女を指導して 5 周年。</li></ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「ベトナム難民コンピューター愛好会（グエン・トルン・ハ会長）」が本格的に活動開始。急速に進む OA 機器のなかでも特にパソコンに習熟することで、就職活動に有利になるようにと自主的に発足。AAR は機器（EPSON、NEC などが協力）、場所の提供とボランティアによる技術支援。</li></ul>

## 1989（昭和 64／平成元）年

米ソ首脳、マルタ島で会談し、冷戦終結を宣言／「ベルリンの壁」崩壊／天安門事件（中国）／昭和天皇崩御／3%消費税スタート／美空ひばり死去／新語流行語大賞金賞「セクハラ」

2月	26日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 藤田幸久幹事ほかが、タイ／カンボジア国境のカンボジア難民キャンプ「サイト2」で、全国から寄せられた180台の車いすを配付。贈呈式。</li></ul>
4月	21日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第5回じゃがいもの会「応演歌'89」を開催（NHKホール）。</li></ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 関 正英がチャリティ・カレンダーを制作、アフリカの難民キャンプの現状を伝える。関 正英は計6年間もザンビアのメヘバ難民キャンプで活動したフリークリーマン。同キャンプの全難民の写真を撮影して配る。ほとんどが生まれて初めて見る自分の写真に驚いた。読売新聞編集手帳欄などで紹介される。</li></ul>
	3日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1989年度総会（霞山会館）。</li></ul>
8月	20-23日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第10回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催（山形市厚生年金休暇センター）。22日には、日大山形高校とサッカー交歓。</li><li>・ このころ、わが国の難民受け入れに「適材不適所」な点が目立ち、個々のケースの改善と進学・就学の相談に対応するため「難民相談室」（相良映子 初代室長）を設けるなどして一層積極的な取り組みを行う。</li></ul>
9月	29日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第3回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（千駄ヶ谷 更生保護会館）。</li></ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ タイ／カンボジア国境とアフガニスタンの難民キャンプにおくるための車いすの募集を本格的に始める。</li></ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>AAR創立10周年記念シンポジウムを開催</b>（全社協ホール）。テーマは「難民－世界と日本」。パネリストは井川一久朝日新聞編集委員（のちに理事）、角崎利夫外務省人権難民課長、斎藤千香子UNHCR広報官。コーディネーターは代表幹事 吹浦忠正。</li></ul>
12月30日		<ul style="list-style-type: none"><li>・ スキー合宿を開催（万座温泉スキー場）。</li></ul>
	-1月2日	

## 1990（平成2）年

ドイツ再統一／湾岸戦争勃発／バブル崩壊始まる／新語流行語大賞金賞「ファジー」

1月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 在日ベトナム難民トラン・グエン・ダット医師、ザンビアのメヘバ難民キャンプでの活動に出発。以後14ヶ月活動し、英連邦医師資格を取得。</li><li>・ ベトナム料理の名人グエン・ティ・ジャン、自立めざしてAAR事務局で勤務。</li></ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 在日インドシナ難民奨学生給付学生文集第4集『わが祖国、わが故郷』刊行。小山正篤と青島洋子が編集を担当。</li></ul>
3月	10日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 難民奨学生給付生でベトナム難民のトラン・ゴク・ランが聖マリアンナ医科大学を優秀な成績で卒業。理事長賞を受賞。聖路加国際病院に就職。</li></ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 皇太子殿下（現天皇陛下）のご臨席を仰ぎ、「海野義雄チャリティ・ヴァイオリン演奏会」を開催（サントリーホール）。NHK交響楽団室内合奏団との共演。</li></ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ コア・マルイチ社の協力で、新品の下着8,000枚を国際救援センター（東京都品川区）、大村トランジット・センター（長崎県大村市）、大村入国者収容所（同）に提供。</li></ul>
5月	9日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第6回じゃがいもの会「応演歌'90」開催（NHKホール）。寛仁親王殿下、同妃殿下ご来臨。</li></ul>
6月	21日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ イラン北部で死者5万人の大地震が発生。直後にイラン大使館を通じ300万円を提供。28日に沼畠和則、菅沼智之が現地に向け出発、7月8日まで滞在。被災</li></ul>

		者が冬までに住宅建設ができるよう「セメント 1 袋分を支援する運動」を開始。募金約 1,200 万円が集まる。
24 日		・ 第 10 回難民サッカー大会を開催（東京 小金井 三井物産総合運動場）。
30 日		・ 1990 年度総会（霞山会館）。「ランちゃん（難民医師）がんばれ」の会も同時開催。
7 月 5 日		・ じゃがいもの会外務大臣表彰。12 日、ザンビア大使公邸でのお祝い夕食会。
8 月 11-14 日		・ 第 11 回「がんばれ！難民の集い」夏期合宿を開催（静岡県御殿場市 YMCA 東山荘）。難民学生 90 人、初の富士登頂。
		・ 大正海上から三井海上への社名変更に伴い不要になった 6,000 着の女子用事務服を、財団法人海事国際協力センターの協力でザンビアに搬送、メヘバ難民キャンプで配布。
9 月		・ 91 歳の松平初太郎さんから、イラン地震の救援活動資金として 1,000 万円寄付される。
		・ 交換教授としてイラン滞在中の鈴木敏央拓殖大学助教授、AAR のボランティアとして活躍。
		・ 難民子弟への教科補完教育のための「ゆうあい塾」を開設（JR 五反田駅前）。以後場所を変え、2000 年 12 月まで。
22 日		・ 「サイト 2」カンボジア難民キャンプから、チア・ソティさんを招聘。社団法人青少年育成国民会議のプロジェクトに参加する形で。5 週間滞在。
10 月		・ 「難民運動会」開催（国立オリンピック記念青少年総合センター 前畠グランド）。
8 日		・ 難民サッカー大会開催（麗澤大学）。
11 月 5 日		・ 社団法人日本遊技関連事業協会（松岡英吉会長）から 3,000 万円の寄付。贈呈式に森 進一さんが出席。
18 日		・ 第 4 回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（更生保護会館）。
12 月 2 日		・ 難民サッカー大会開催（麗澤大学）。

### 1991（平成 3）年

ソ連軍、パト进入／米ソ、戦略兵器削減のための START 調印／ユーゴスラビアで構成国が分離、内戦へ／モスクワでクーデター未遂事件／パト 3 国独立し、国連に加盟／カンボジア和平のためのパリ協定／ゴルバチョフ・ソ連大統領来日／ソ連崩壊／新語流行語年間大賞「じゃあ～りませんか」／雲仙普賢岳大噴火

1 月	・ 「NHK 青春メッセージ'91」で、ベトナム難民奨学生ゲン・ティ・キム・タンが最優秀賞を受賞。
2 月	・ AAR 大阪事務所を大阪市天満橋に開設。周辺地区の在日難民への相談と日本語の指導。近畿日本鉄道株式会社の協力。98 年まで活動。
4 月	・ 「湾岸戦争子ども募金」開始。石けん 72,000 個をイランに逃れたイラクの人たち（クルド難民）に送付。ほかにトラック 4 台分の食料、衣料、テントなどの救援物資を西アゼルバイジャン州の難民キャンプで配布。イラン赤新月社を通じても、毛布や食料を配布。CARE と協力し、イラクに帰還したクルド難民に、2 万ドル分の医薬品、飲料水、テントなどを供与。
	・ タイ／カンボジア国境のカンボジア難民キャンプ「サイト 2」（人口 18 万人）に、日本語教師 2 名を派遣。キャンプ全体が、次代を担う人材の一大養成所の觀を呈し、教育関連の援助の要請があった。その後、ボランティア数名を継続的に派遣。日本語教育や写真技術などの職業訓練を中心に活動。92 年 11 月、活動終了。
	・ ザンビアのメヘバに木工職業訓練所を開設。

5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>イラン国境近くのクルド難民の子どもたちへ支援。</b> 下着や靴、防寒具、食料や毛布、大型テント、トイレ用水差しなど。藤原広人（のちに国連職員）が中心となって実施。</li> </ul>
9日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第7回じゃがいもの会「応演歌'91」開催（NHKホール）。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>イラン北部地震で倒壊したシャガジ小中学校とモジデヒ養護院（託児所）を再建。</b></li> </ul>
29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1991年度総会（霞山会館）。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上野 茂さん（有限会社大分タキ社長。自らも車いすを使用）ほか1名を、タイの「サイト2」に派遣。2年前に寄贈した車いすの補修、修理技術の指導、今後の障がい者支援計画立案の任にあたる。</li> </ul>
8月 14-17日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第12回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿開催（静岡県立三ヶ日青年の家）。</li> </ul>
21-28日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「サイト2」へのスタディツアーリーを行う。その際、車いす140台、車いす用のタイヤ200本、コンピューターなどを寄贈。</li> </ul>
9月 11日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>「中村絃子チャリティ・ピアノ・コンサート」開催</b>（東京芸術劇場）。</li> </ul> <p>高円宮殿下、同妃殿下ご来臨。アマコスト駐日米国大使夫人、フォーリー・フェルマン駐日アルゼンチン公使夫人、指揮者の小林研一郎さんがピアニストとして贊助出演。</p>
10月 30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベトナム赤十字社およびベトナム政府労働省に各10,000ドルを助成。障がい児のための職業訓練支援と車いす生産の資金援助として。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーゴスラビア紛争によりハンガリーに流出している難民支援のため「クロアチア子ども難民救援募金」を開始。</li> </ul>
13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在日難民初の医師になったトラン・ゴク・ランに第3回アジア太平洋賞特別奨励賞。</li> </ul>
17日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（更生保護会館）。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンガリーに西田昭子（のちに理事）、長（おさ）有紀枝（現理事長）を派遣。関榮次日本国大使立ち会いのもとに、主に<b>クロアチアからの難民に対する支援</b>として、難民の移送や支援物資の輸送のための4WD車2台をハンガリー内務省難民局に贈呈。また、国境付近の難民キャンプを訪れ、ナジャタトキャンプに剥き出しの床に敷くための防寒用カーペットを寄贈。</li> </ul>

## 1992（平成4）年

ソマリアに多国籍軍/UNTACが発足（カンボジア）/ボスニア紛争勃発/PKO協力法成立/バルセロナ五輪/毛利衛さんスペースシャトルで宇宙へ/新語流行語年間大賞「きんさん・ぎんさん」

1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インドシナ難民奨学生給付学生文集第5集『日本の人に言いたいこと』刊行。編集を野村英子が担当。このときまでに難民奨学生650人が卒業。</li> </ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイ/カンボジア国境の「サイト2」難民キャンプから、車いす修理の技術を学んでもらうため、オム・サバット、オム・ソピエップ両研修生を日本へ招聘。有限会社大分タキで実地研修。</li> </ul>
3月 26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹団体として「社会福祉法人さぼうと21」設立。厚生省より認可が下りる。相馬雪香 AAR会長が理事長に就任（2015年現在は吹浦忠正理事長）。在日外国人などへの相談と支援が主な活動。</li> </ul>

	29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「難民奨学生のためのチャリティ・コンサート 山形由美フルートリサイタル」開催（サントリーホール）。</li> </ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・和平が成立した<b>カンボジア</b>に代表幹事 吹浦忠正、鈴木剛史を派遣。活動協定交渉（8月7日に同国外務省との協定に署名）。以後、<b>事務所を開設</b>し、障がい者支援事業を実施。2006年に現地法人を設立し、2019年現在も支援を継続している。</li> </ul>
5月	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回じゃがいもの会「応演歌'92」開催（NHKホール）。秋篠宮殿下（現皇嗣殿下）、同妃殿下（現皇嗣妃殿下）がご来臨。</li> </ul>
6月	20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1992年度総会（日本青年館）。相馬雪香会長の傘寿（さんじゅ）の祝いと社会福祉法人さぼうと21設立を記念する会を同時開催。</li> </ul>
	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在日難民初の医師になったトラン・ゴク・ランを描いたテレビドラマの放映。制作に協力。主役は斎藤由貴。</li> </ul>
7月	13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>相馬雪香会長、外務大臣表彰</b>を受ける。</li> <li>・在日カンボジア難民ミム・ソワンさんとの協力で、戦火が静まった<b>カンボジアで学校建設を始める</b>。以後、計22棟を各地に建設。</li> </ul>
	22-25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿を開催（宮城県伊具郡）。福島県相馬市で「相馬の野馬追い」など見学。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジブチへ相良映子、篠田英朗を派遣。アッサモ難民キャンプで<b>ソマリアやエチオピアからの難民を支援</b>。脱脂粉乳32トンとイワシの缶詰4.65トン、および石油コンロ2,463個を配布。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際平和協力法（PKO法）成立後初の海外派遣として、味田村太郎（のちにNHK）が、9月末に実施された<b>アンゴラにおける選挙監視要員</b>を務める。</li> <li>・カンボジアのプレイベン州ルビアスクールの校舎1つ目が完成。以後、築地ライオンズクラブ、ハチク会（写真芸術家の団体）、加商株式会社の協力で校舎建築。</li> </ul>
	13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回難民運動会開催（目白学園）。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ／カンボジア国境地帯の難民キャンプ「サイト2」での活動を、カンボジア難民の帰還に伴い終了。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアのメヘバ難民キャンプで第2の図書館が完成。</li> <li>・難民を助ける会とさぼうと21の事務所が雅叙苑マンション（品川区上大崎）へ移転。</li> </ul>

### 1993（平成5）年

エリツィン大統領、議会ビルを砲撃。一週間後に来日／イスラエルとPLOがパレスチナ暫定自治宣言に調印／GATT新ラウンドで日本、コメの自由化を受け入れ／細川護熙政権誕生／Jリーグ誕生／皇太子ご成婚／新語流行語年間大賞「Jリーグ」

1月	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難民奨学生のためのチャリティ・コンサート「和波孝禧リサイタル」を開催（カザルスホール）。高円宮妃久子殿下がご来臨。</li> </ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラン青年で違法入国者とされていたニカイン・ベルーズにつき政府当局と話合い、補完教育でも協力。信州大学理学部に合格。</li> </ul>
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本政府のカンボジアでの選挙監視団に篠田英朗、五味孝至（元カンボジア難民）など5人を派遣。篠田英朗は帰国後『日の丸とボランティア』（文藝春秋社）を出版し、大宅壮一ノンフィクション賞最終選考作品に。</li> <li>・カンボジアへ<b>「愛のポシェット」をおくる運動を開始</b>。株式会社電通のはからいで全五段広告を掲載して呼びかけることができた。また、日本通運株式会社の協</li> </ul>

- 力も。酒井直子を中心に実施。
- ・ザグレブ交響楽団指揮者の大野和士、ゆり子ご夫妻との協力で、緊張の続くクロアチアで救援活動を開始。長 有紀枝を中心に活動。ザグレブの国立小児病院への支援など。
  - ・在日ベトナム難民奨学生のホン・ミン・ニュットとレー・バン・トゥがベトナム語によるパソコン・ソフト開発に成功。
- 6月 6日
- ・第9回じゃがいもの会「応演歌'93」開催（NHKホール）。
  - ・「ソマリアに米をおくる会」（実行委員長：相馬雪香 AAR 会長）が発足。森 進一さん、黒柳徹子さんが呼びかけ人に。全国から寄せられた100トンの生米を国内で焙煎粉末加工処理し、輸送。モガデッシュ市内の病院などソマリア国内、およびケニア南部国境付近の難民キャンプなどで、赤十字国際委員会（ICRC）を通じソマリア難民に配布。日本通運株式会社、リブレフラワーの協力。全国地域婦人連絡協議会、日本青年団協議会、社団法人全国子ども会連合、社団法人アフリカ協会、ソロプチミストなどが協力。10月に、味田村太郎が現地で寄贈。94年2月にも味田村太郎を派遣し、モニタリングを実施。
- 7月 26日
- ・1993年度総会（日本青年館）。
- 7月 12日
- ・カンボジアの首都プノンペンに、キエンクリエン障がい者支援センター（KKC）を開設。開所式に柳瀬房子事務局長ほかが参加。2月からすでに部分開校し、識字教育のほか、当初は車いす修理・製造、革細工、籐細工の職業訓練を実施。
- 17日
- ・12日に発生した北海道南西沖地震に対応し、被災地の奥尻島に菅沼智之、大原麗子を派遣。老人ホームの方たちの避難場所に玄米全粒粉を寄贈。後日、奥尻福祉社会ほかにも送付。シガリオ・ジャパン株式会社の協力。
- 25日
- ・旧ユーゴのためのチャリティ・リサイタル「岡村喬生 世界を歌う」開催（カザルスホール）。高円宮殿下、同妃殿下がご来臨。
  - ・小松博史団長以下25名を派遣し、「愛のポシェット」約13万個をカンボジアで配布。プノンペン郊外のニックボーン小学校で配付開始式。
  - ・ジブチに篠田英朗、寺家村博を派遣し、ソマリアやエチオピアからの難民に対し、現地NGO ONARSとの協力のもと、粉ミルク缶24,000個と砂糖200トンを配布。郵政省ボランティア貯金の助成。
- 8月
- ・第14回「がんばれ！ 難民のつどい」夏期合宿を開催（山梨県高根町清里）。
  - ・難民運動会開催（目白学園）。
- 9月 11-14日
- ・チャリティ・コンサート「ピアノ三重奏のつどい」開催（Bunkamura オーチャードホール）。出演は、清水和音（ピアノ）、川田知子（ヴァイオリン）、安田謙一郎（チェロ）の皆さん。
- 10月 26日
- ・第13回「大分国際車いすマラソン」にカンボジアから3名が初めて参加。AARが費用を一部負担し招聘。
  - ・車いす製造技術指導に感謝のしるしとして、カンボジアから籐製の車いす3台が届く。
  - ・在日インドシナ難民奨学生文集第6集『二つの祖国、二つの故郷』完成。長 有紀枝が編集を担当。財団法人日本宝くじ協会の助成。
- 10月 24日
- ・『難民少女ランちゃん』刊行（吹浦忠正・著 大日本図書）。小児科医として活躍するベトナム出身のトラン・ゴク・ランのこれまでを子ども向けに。
- 31日
- ・相馬雪香会長、エイボン女性大賞を受賞。エイボン女性文化センターより。
  - ・難民サッカー大会開催（府中 三井物産運動場）。
- 11月 5日

- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 12月 11-19日 | ・創立15年目を記念し、救援活動写真展を開催（日本青年館）。  |
| 19日        | ・第7回「難民日本語スピーチコンテスト」を開催（日本青年館）。 |

### 1994（平成6）年

金日成主席、死去／ルワンダ内戦で大量の難民／マンデラ大統領就任（南ア）／英仏間にユーロトンネル開通／新語流行語大賞「同情するならカネをくれ」

- |           |   |
|-----------|---|
| 1月        | ・カンボジアのキエンクリエン障がい者支援センターにおいて車いす工房を開設。職業訓練校の卒業生を中心として運営。   |
| 2月        | ・「旧ユーゴ子ども募金」呼びかけ。2,000万円以上のご寄付が集まる。   |
| 24日       | ・関係各社とじゃがいもの会のご協力により、国内難民奨学金と海外の難民支援のためのチャリティ・バザーを開催（ホテル・ニューオータニ）。細川護熙首相の夫人である細川佳代子さんも来場。岸本由美子を中心に実施。   |
| 3月        | ・「旧ユーゴ子ども募金」により、クロアチアの首都ザグレブの国立小児病院とセルビアの難民局に医療機器や医薬品を届けた。  |
| 20日       | ・エルサルバドルの総選挙の監視要員として、元ザンビア駐在員の岩川 薫を派遣。  |
| 4月 14日    | ・相馬雪香会長がカンボジアを訪問。AARが運営するキエンクリエン障がい者支援センターを視察。  |
| 5月 2日まで。  | ・南アフリカで初めて行われる総選挙の監視に堀 真理子（現監事）ほかを派遣。   |
| 5月 13日    | ・ザグレブの国立小児病院との協力活発に。また、ボスニア・ヘルツェゴビナでの活動も本格化。  |
| 7月 2日     | ・メヘバキャンプで生活するアンゴラ難民奨学生アディルソン・ビリンガがザンビア大学に合格。  |
| 8日        | ・第2回「愛のポシェット」運動開始。カンボジアと旧ユーゴの子どもたちへ。  |
| 13日       | ・第10回じゃがいもの会「応演歌'94」開催（NHKホール）。秋篠宮殿下（現皇嗣殿下）、同妃殿下（現皇嗣妃殿下）ご来臨。  |
| 16日       | ・ルワンダ難民への緊急支援として、UNHCRに10,000ドルを贈呈。   |
| 8月 12-15日 | ・セルビア共和国の首都ベオグラードに事務所を開設。旧ユーグスラビア地域初の拠点。長 有紀枝と松永知恵子（のちに理事）が初代駐在。盲学校への教材支援などの障がい者支援、医薬品供与、難民収容センター支援を開始。   |
| 13日       | ・1994年度総会（雅叙園観光ホテル）。近衛忠輝日本赤十字社副社長による記念講演会を同時開催。   |
| 9月        | ・「チャリティ・コンサート 愛を世界に 安田祥子・由紀さおりデュオ」を開催。紀宮殿下ご来臨。ボスニア・ヘルツェゴビナ出身の歌手ヤドランカさんも贊助出演。  |
| 12-15日    | ・第15回「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿開催（愛知県立少年自然の家）。   |
| 13日       | ・ザンビアでの活動10周年を記念した2週間のスタディツアーを実施。20日、派遣メンバーにより、英国で篠田英朗が中心となって集めた本85,000冊を寄贈。AARの運営する図書館の蔵書としたほか、周辺の小学校にも寄贈。約10,000本の植林を目指した緑化促進事業開始を記念する植樹式も実施。 |
|           | ・ルワンダ難民のための井戸掘りに行くボランティア11人が、長野県原村で井戸掘削機の使用につき合宿研修。平林淳利ほかの参加。鉱研工業株式会社の協力。   |
|           | ・カンボジア事務所の現地スタッフ、デュオング・サリスを日本へ招聘。社団法人   |

		青少年育成国民会議のプロジェクトに参加する形で。
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>タンザニアにおけるルワンダ難民支援を開始。</b>事務所開設。国境付近ガラ地区（40万人の難民が避難生活をおくる）のベナコキャンプを皮切りに、サイト11キャンプほか、近隣の村落で。難民へ清潔な飲料水の確保のため、井戸の掘削計画を始める。ほかの給水プロジェクトも。小松博史団長を中心とする機械掘りチームと大野篤志を中心とする上総掘りチームを派遣。掘削機（19トン）は、防衛庁国際平和協力本部のご厚意により、政府派遣団の輸送機で運搬（NGOと自衛隊の初の協力）。チームは96年3月まで同地で活動。</li> <li>・ マケドニアにおける奨学金給付事業開始。孤児、難民の大学生を対象に初年度は5名を支援。2003年3月まで。</li> <li>・ 27-29日に実施されたモザンビークの大統領・議会統一選挙に、総理府派遣の国連選挙監視要員として、中谷純江が参加。</li> </ul>
19日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌手森 進一さんの外務大臣表彰受賞を祝い、「節食ランチ」（ホテル・ニューオータニ）。ホテル・ニューオータニ、株式会社虎屋、全酪連、株式会社木村屋などの協力。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AARのイメージキャラクター“うさちゃん（仮名、翌年3月公募により「サニーちゃん」と命名）”が誕生。デザインはAAR会員で、世界的絵本作家である葉祥明画伯。</li> <li>・ カンボジアのカンダル州ほかの小学校29校で「愛のポシェット」を配布。三浦規幹事を団長とする配布ボランティア15名を派遣。クロアチアにおいては、ザグレブの国立小児病院や、トゥラニ村で配布。合計約55,000個。</li> <li>・ ルワンダ難民のための井戸掘り事業実施のために、不要貴金属の募集を開始。株式会社トーコーメタルスの協力により換金。2月末まで。</li> </ul>
10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クロアチアのリピック小学校に、戦火で破壊されたピアノの代わりに、グランドピアノを寄贈。阪口めぐみさんの協力。</li> </ul>
14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難民奨学生のための「千住真理子ヴァイオリン・リサイタル」を開催（カザルスホール）。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第8回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（目黒区社会教育会館）。</li> </ul>

### 1995（平成7）年

ラビン首相暗殺（イスラエル）／地下鉄サリン事件／フランスが核実験を強行／「デイトン合意」でボスニアに和平／スチーヴ女史、自宅軟禁を解かれる／ウィンドウズ95発売／野茂大リーグで新人王／新語流行語大賞「無党派」「がんばろう KOBE」

1月	17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>午前5時46分阪神淡路大震災発生。</b>最大震度6、マグニチュード7.3。</li> <li>・ <b>罹災者支援のため大規模な活動を展開。</b>毛布、医薬品、食料、ビニールシート、紙オムツ、衛生用品、下着など約10億円相当の緊急支援活動を実施。全国からのボランティア約70人が宿泊できる施設を建設、給食を実施。ボランティアをソウルに派遣、大韓航空の協力でジャンボ機2機分の男女用下着30万組を伊丹空港へ。自衛隊の協力もあって即時配布。大川 功 株式会社CSK会長から多額の寄付。また、ジャニーズ事務所の有名タレント全員のサイン入りタオルを作成し、配布。大野商店、ロッテ、サントリーほか多くの企業や日本YMCA同盟などの協力をいただいた。藤 智江（のちに理事）、和田礼一郎を中心に実施。</li> <li>・ カンボジアのキエンクリエン障がい者支援センター職業訓練校にて、テレビ・ラジオなど修理コース、およびバイク修理コースを新設。従来のコースを見直し。</li> <li>・ 阪神・淡路大震災の被災者救援のためのチャリティ・バザーを実施。各企業やじ</li> </ul>
2月	27日	

		やがいものの会の協力で純益約1,360万円。岸本由美子を中心に実施。
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>在日インドシナ難民奨学生文集第7集総集編『明日への出発(たびたち)』刊行。財団法人日本宝くじ協会の助成。高橋喜美子（のちに理事）が編集を担当。</li> <li>阪神・淡路大震災被災児童にランドセル250個を寄付。</li> <li>阪神・淡路大震災被災外国人に対する「サニーちゃん基金」貸し付け開始。単身者20万円、家族のある人40万円。返済を求めず。児玉雅子と樋口静子（のちに理事）を中心に。</li> </ul>
4月 7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神・淡路大震災罹災者追悼と激励のためのコンサート「がんばってね神戸 音楽の夕べ パート1 中村 紗子ピアノリサイタル」（ホテル・オークラ神戸）。</li> </ul>
24-25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「がんばってね神戸 音楽の夕べ パート2」として、原田直之さんご夫妻が民謡で、淡路島と神戸市周辺の仮設住宅などを巡回。</li> </ul>
4月 27日 -5月 6日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム、カンボジアへスタディツアー。柳瀬房子事務局長を始め14名。</li> </ul>
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回「愛のポシェット運動」開始。12月に旧ユーゴとカンボジアで配布。</li> <li>ベトナムのポリオ児童収容施設「ポリオ・リハビリテーション・センター」への支援開始。</li> </ul>
2日		<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジア・プノンペン大学に日本と米国で収集した書籍を贈呈。スタディツアーのメンバーが贈呈式に参加。</li> </ul>
3日		<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジアのカンダル州で修復した小学校8校の落成式に、スタディツアーのメンバーが参加。メアス・チャン・リープさんの活動に協力。</li> </ul>
9日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「がんばってね神戸 音楽の夕べ パート3 島田祐子とテレマン室内管弦楽団コンサート」開催（ホテル・オークラ神戸）。</li> </ul>
14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>第11回じゃがいもの会「応演歌'95」開催（NHKホール）。</li> </ul>
26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジア人地雷被害者ウク・サルーン、ニム・タム両君を招聘し、車いす作りの技術研修を開始。有限会社大分タキで約3週間研修。</li> </ul>
6月 2-4日		<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局メンバー研修を実施（長野県四阿高原）。</li> </ul>
22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>『アフリカ大好き！』（日本図書館協会選定図書）を刊行。社団法人東京俱楽部の助成による自費出版。堀 真理子が編集を担当。アフリカの人々の生活・文化とともに10年の活動を記録した。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>メヘバ難民キャンプのために、新日鉄（株）よりスポーツシューズ20,000足を寄贈。</li> </ul>
1日		<ul style="list-style-type: none"> <li>1995年度総会（雅叙園観光ホテル）。五月女光弘 外務省民間援助支援室長による記念講演会を同時開催。</li> </ul>
7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「がんばってね神戸 音楽の夕べ パート4」として、ピアニスト中村紗子さんが被災半年目の追悼コンサート（ホテル・オークラ神戸）。秋篠宮殿下（現皇嗣殿下）、同妃殿下（現皇嗣妃殿下）がご来臨。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>クロアチア軍のクライナ地方進攻で20万人ものセルビア人が難民として流出したことに対応し、ボスニアのバニヤルカほかの病院や保健所に医薬品の緊急支援。</li> </ul>
8日		<ul style="list-style-type: none"> <li>メアス・チャン・リープさん逝去。在日カンボジア人協会会長として、設立以来、カンボジア難民支援やカンボジア国内での活動に協力。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>クロアチアで戦争により心的後遺症（トラウマ）に苦しむ子どもたちのため、カウンセリングルーム“スルツェ（クロアチア語で「心」）”を開設。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ザグレブ事務所の現地スタッフ、サーニャ・フライを日本へ招聘。社団法人青少年育成国民会議のプロジェクトに参加する形で、1ヶ月滞在。</li> </ul>

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルワンダ国内での活動を開始。井戸掘削ほかの事業を実施。</li> </ul>
15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地球を包む「愛のポシェット』刊行（柳瀬房子・著 大日本図書）。</li> </ul>
25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボスニア・ヘルツェゴビナのインシュリン依存型糖尿病患者3千余名のためにゴラジュデ地区を中心にインシュリン4種（10ミリリットル分1,000本）と注射器・針のセットを配布。日本のNGOが同国イスラム教徒支配地で活動するのは初めて。</li> </ul>
26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AAR、内閣総理大臣表彰を受ける。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルワンダにセーターをおくる運動」を開始。日本通運株式会社の協力。20万枚のセーターが集まる。</li> <li>・クロアチアのクブリエンスコ難民キャンプにおいて、下肢損傷者など負傷した元兵士のための生活用品を支援。</li> <li>・ザンビアのメヘバ事務所駐在員 早坂謙二をアンゴラのモシコ州カゾンボに派遣。96年6月から開始されるはずであった国連による帰還計画の帰還先の一つ。その後、帰還計画は無期延期に。</li> <li>・葉祥明画伯と旧ユーゴの子どもたちの絵画展「Love &amp; Peace "Little Santa Claus"」を開催（三木記念館）。</li> </ul>
19-26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹団体として<b>「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」を結成。</b> 会長 三木睦子、事務局長 吉田清美（のちに理事）。大洪水に見まわれた朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の子どもたちに鶏卵10,000個とリンゴ（冬季のためバナナの代わり）約25,000個を支援。25-30日にモニタリングを実施。その後、2002年まで10回に亘り支援。</li> <li>・「愛のポシェット」79,000個をカンボジアと旧ユーゴで配布。カンボジアには相馬雪香会長ほか配布ボランティアを派遣、キエンクリエン障がい者支援センターも訪問。旧ユーゴではJENとの協力。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（目黒区民会館）。</li> <li>・カンボジアのコンポンチュナム（プノンペン郊外）に建設した「メアス・チャン・リープさん記念スクール」の開校式にメアスさん夫人の令子さんと相馬雪香会長ほかが参加。</li> </ul>
17日	
26日	

### 1996（平成8）年

英国で狂牛病／ペルー日本大使公邸占拠事件／アトランタ五輪／新語流行語大賞「メークドラマ」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児玉欣也（太陽塾）、雅子（相談室）夫妻が、パレスチナにおける選挙監視に参加。</li> <li>・「ルワンダにセーターをおくる運動」により全国から集まったセーター20万着を配布。キブンゴ県の孤児院やカヨンザ地区帰還民受け入れセンターで配布したほか、UNHCRを通じ、帰還民などに配布。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へ鶏卵10万個を支援。第2回目の支援。</li> </ul>
26-30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「じゃがいもの会」原田直之さんがカンボジアを訪問。国立チャットモック劇場のこけら落とし公演に出演。カンダル州の「じゃがいもスクール」開校式にも出席。プノンペン大学でも公演。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボスニア・ヘルツェゴビナにサラエボ事務所開設。ゴラジュデ県での巡回歯科診療や、インシュリン供与などの支援を実施。</li> <li>・姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へ鶏卵10万個、バナナ10万本、および文房具を支援。第3回目の支援。13-17日にモニ</li> </ul>

		タリングを実施。
27日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回「愛のポシェット運動」開始。</li> </ul>
5月 12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページを開設。ボランティア団部 敬を中心に。</li> </ul>
15-22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第12回じゃがいもの会「応演歌'96」開催 (NHKホール)。</li> <li>・ 国際炭焼き協力会の広若 剛さんが、ザンビアのメヘバ難民キャンプにおける調査を実施。環境保全を目的に効率的な炭焼きの方法を広めるため。その後同じ目的で改良かまど普及活動を実施し、植林と併せた環境保全事業を2001年12月まで実施。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師の小野木 淳を巡回診療プロジェクトのため、サラエボに派遣。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AARの阪神・淡路大震災ボランティア活動記録『東京発神戸へ あの日から私たち』を刊行。</li> <li>・ 『楽しく NGO』刊行 (柳瀬房子・著 日本教育新聞社)。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1996年度総会 (雅叙園観光ホテル)。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へバナナ50,000本、ビスケット10,000箱、キャラメル6,000箱、および文房具を支援。第4回目の支援。23-31日にモニタリングを実施。</li> </ul>
23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事務局長 柳瀬房子、外務大臣表彰</b>を受ける。</li> <li>・ 海野義雄と東京ヴィルトゥオーゾによる「旧ユーゴの子どものためのチャリティ・コンサート」を開催。</li> </ul>
8月 16-18日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「がんばれ!難民のつどい」夏期合宿を開催 (国立オリンピック記念青少年総合センター)。</li> <li>・ リーボックジャパン社より寄贈の運動靴5,000足をクロアチアのブコバル周辺で配布。</li> </ul>
30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対人地雷撤去キャンペーン絵本『地雷ではなく 花をください』出版記念会開催。明石 康国連事務次長も参加 (朝日ギャラリー)。</li> <li>・ 対人地雷廃絶のための展覧会を開催 (朝日ギャラリー)。</li> </ul>
8月30日 -9月4日		
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーゴスラビアにおいて、ベオグラード自閉症児センターが完成。</li> <li>・ 全国紙、地方紙が相次いで対人地雷問題の啓発記事を掲載。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対人地雷撤去キャンペーン第1巻『地雷ではなく花をください』刊行 (絵・葉祥明、文・柳瀬房子、英訳・相馬雪香、発行・自由国民社)。</li> </ul>
20日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャリティ文楽を開催 (国立劇場)。常陸宮殿下、同妃殿下ご来臨。</li> <li>・ ボスニア・ヘルツェゴビナでの選挙監視に林 桂子 (のちに理事)、松永知恵子が参加。</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記絵本の純益により、<b>カンボジアで英国の地雷除去 NGOヘイロー・トラストと協力して地雷除去を開始</b>し、99年9月まで実施。</li> <li>・ 姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へ鶏卵61,000個、バナナ10,000本、ビスケット16,000箱、および文房具を支援。第5回目の支援。10月31日-11月5日にモニタリングを実施。</li> </ul>
5-14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛のポシェット 配布ボランティア10名を派遣。小学校を中心に92,000個をボスニア・ヘルツェゴビナで配布。JENと協力し、12月までに配布完了。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーゴスラビアにおいて、ベオグラード整形外科病院内に心理治療室を開設。</li> <li>・ 「アンゴラの子どもたちにTシャツをおくる運動」を開始。集まったTシャツ4,800枚とトレーナー約2,000枚、ポロシャツ約100枚を、UNHCRを通じて旧ザイールからの難民ほかに配布。1997年7月にモニタリング。</li> </ul>

10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分国際車いすマラソン大会に、AAR が運営するキエンクリエン障がい者支援センターで車いすを製作するシム・ハンさんが、選手として参加するため支援。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞鶴市のボランティアグループ「スィートポテト」が人形劇、地元管弦楽団のミニコンサート、小松原 俊さんのギター演奏によるクリスマス・チャリティ・コンサートを開催。AAR を通じ、ルワンダ国内のザイール難民の子どもに援助。鷲田マリ（現理事）を中心に企画。</li> </ul>
15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 10 回「難民日本語スピーチコンテスト」開催（目黒区民センター）。</li> </ul>

### 1997（平成 9）年

香港返還／ダイアナ元妃交通事故死／対人地雷禁止条約締結／「もののけ姫」「たまごっち」ほか流行語大賞トップ 10 入賞

1月 14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AAR ザンビア事務所の現地スタッフ、アウグスト・フェルナンドを日本に招聘。社団法人青少年育成国民会議のプロジェクトに参加する形で、1カ月の滞在。</li> <li>・雑誌『Foresight』で、副会長 吹浦忠正、世界の対人地雷問題の深刻さと早急な取り組みの必要性を訴える。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルワンダ難民に粉ミルクをおくる運動」により集まった寄付で、ルワンダのキンゴ県ムハジ市において、隣国ザイールから帰還した約 4,000 人の子どもたちに粉ミルクを配布。</li> <li>・『THIS IS 読売』で、副会長 吹浦忠正、対人地雷廃絶への世界的な取り組みに日本も参加することを求める論文を発表。</li> </ul>
2月 21日 -3月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボスニア問題への啓発のため、ボスニア・ヘルツェゴビナが生んだ現代ヨーロッパ画壇の最高峰メルサド・ベルベル画伯の展覧会を開催（朝日ギャラリー）。ボランティア岸本由美子を中心に実施。</li> <li>・「ボスニアの夕べ」を開催（朝日ホール）。ベルベルさん講演会と山口 修（ギタリスト）と小林純子（ソプラノ）ご夫妻による演奏。</li> </ul>
3月 28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）に加盟。」</li> </ul>
3月 3-13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷撤去キャンペーン「地雷なき大地への願い」（電通ギャラリー）展を株式会社電通と共に開催。</li> </ul>
6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読売新聞「論点」で副会長 吹浦忠正が対人地雷の廃絶に向けて政府の決断を迫る。</li> </ul>
8-9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「NGO 東京地雷会議'97」を開催（国立オリンピック記念青少年総合センター）。日本障害者協議会との共催。日本における地雷問題への関心と、地雷問題解決へ向けての世界的機運を高め、関連 NGO の提携を促進。同年 12 月にノーベル平和賞を受賞するジョディ・ウィリアムズさんや明石 康国連事務次長も出席。</li> </ul>
3月 30日 -4月 9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤由紀子（現常任理事）をミャンマー（ビルマ）に派遣。財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部主催の調査に参加。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 5 回「愛のポシェット運動」開始。</li> <li>・各地で対人地雷廃絶のための講演会や啓発展（自由国民社ほかの協力）。</li> <li>・写真家斎藤紀之さんの協力でカンボジアに小学校を建設。</li> </ul>
13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皇后陛下（現上皇后陛下）のご臨席を仰ぎ、対人地雷撤去のためのチャリティ・コンサート「中村絃子＆早慶オーケストラ夢の競演！」開催（オーチャードホール）。ボニー・アマコスト元駐日米国大使夫人も参加。純益でサラエボの盲学校で地雷 63 個などを除去。</li> </ul>
5月 7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 13 回じゃがいもの会「応演歌'97」開催（NHK ホール）。橋本龍太郎首相夫</li> </ul>

		妻が出席。
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤田幸久衆議院議員（対人地雷禁止推進議員連盟事務局長、元 AAR 幹事）が朝日新聞「論壇」で「対人地雷禁止へ政府は言行一致を」と訴える。</li> </ul>
21日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サラエボの盲学校での地雷除去作業中、セディン・カリッチさん（ボスニア・ヘルツェゴビナ国防相認定除去要員）が地雷のため殉職。21歳。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷の全面禁止に関するブリュッセル会議に、事務局次長 長 有紀枝が参加。</li> </ul>
7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷の全面禁止に関するマニラ会議に、事務局次長 長 有紀枝が出席。</li> </ul>
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1997年度総会（雅叙園観光ホテル）。</li> <li>・英国の地雷除去 NGO・MAG（マイinz・アドバイザリー・グループ）ほかが、ロンドンで開催したセミナー"Responding to Landmines: A Modern Tragedy and its Solutions"に事務局次長 長 有紀枝が参加。同セミナーで基調講演をされたダイアナ元英國皇太子妃に面会し懇談。翌年2月に予定されていた NGO 東京地雷会議への招待状と、地雷除去要員の防護服の模型を身に着けたサニーちゃんのぬいぐるみを直接手渡した。このぬいぐるみをダイアナ妃はたいそう気に入られ、同妃のケンジントン宮殿の執務室に飾られていたことが伝えられている。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へじゃがいも50トン、および文房具を支援。第6回目の支援。26-30日にモニタリングを実施。</li> </ul>
20日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷撤去キャンペーン絵本第2巻『サニー カンボジアへ 続・地雷ではなく花をください』刊行（絵・葉 祥明、文・柳瀬房子、英訳・相馬雪香、発行・自由国民社）。</li> </ul>
8日・30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対人地雷関連映画を見、語り合う会」を開催（カナダ大使館）。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北國新聞の第10回記念「ジャパン・テント」に協力して、絵本展、シンポジウムなどで対人地雷問題をアピール。ブトロス・ブトロス=ガリ前国連事務総長も参加。</li> <li>・東京都遊技場組合連合会からのご寄付1,300万円で、カンボジアでの地雷撤去に必要不可欠な地雷撤去用草刈機を購入。</li> <li>・「プリンセス・ダイアナ顕彰対人地雷被害児自立支援基金」を創設。</li> <li>・「がんばれ！難民のつどい」夏期合宿開催（清里高原）。</li> </ul>
20-22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷の全面禁止条約策定のためのオスロ会議に事務局次長 長 有紀枝が出席。</li> </ul>
9月		
6日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳瀬房子事務局長、ウェストミンスター寺院でのダイアナ元皇太子妃の葬儀に招かれて参列。日本人ではほかに藤井宏昭駐英大使のみ。</li> </ul>
13-14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボスニア市町村選挙の監視要員として、松永知恵子を派遣。</li> </ul>
10月 15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日新聞「論壇」で副会長 吹浦忠正が「地雷禁止条約への加入は日本の責務である」と訴える。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対人地雷撤去キャンペーン着ぐるみ行進」を銀座で実施。国連広報センター所長や在京の6大使館から幹部が参加。東京都遊技場組合連合会青年部ほか関係団体からも参加。</li> </ul>
28日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日新聞に<b>対人地雷廃絶をめざす全面意見広告</b>。元首相、軍事評論家、防衛問題の学者、音楽家、歌手、女優など100人の著名人の賛同者の名前を列挙し、対人地雷の廃絶が世論であることを訴えた。「対人地雷廃絶をめざすつどい」を開催（カナダ大使館）。</li> </ul>

11月 4-11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「愛のポシェット」配布ボランティアを派遣。その後も配布は続けられ、約92,000個をボスニア・ヘルツェゴビナの小学校で配布。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>長 有紀枝著 対人地雷廃絶キャンペーン書籍『地雷問題ハンドブック』と吹浦忠正監訳・注釈 対人地雷廃絶キャンペーン書籍『対人地雷・味方か？敵か？』（赤十字国際委員会）を自由国民社から刊行。</li> <li>対人地雷撤去キャンペーン絵本『地雷ではなく花をください』、毎日新聞社と全国学校図書館協議会主催による「'97年日本絵本大賞読者賞」受賞。</li> <li>長野オリンピックピースアピール実行委員会の一員として、「愛のひざかけをおく運動」を開始。全国から募集した縦横15cmの毛糸のモチーフをボランティアがつないで10,000枚以上のひざかけにし、五輪開催地サラエボへ。大野里友（のちに理事）とロミーズパッチワークスクールの川嶋ひろみさん中心に実施。</li> <li>ニューヨークで『地雷ではなく花をください』原画展。柳瀬房子事務局長や絵を担当した葉 祥明さんほかが出席。</li> </ul>
3日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>対人地雷全面禁止条約に日本政府が署名</b>（小渕恵三外務大臣）。</li> </ul>
3-4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局次長 長 有紀枝、オタワでの「対人地雷全面禁止条約」署名式に参加。AAR製作の対人地雷廃絶キャンペーン・ポスター（中曾根康弘“画伯”の絵）が「参加」。日本政府代表が壇上で披露。『地雷ではなく花をください』も。</li> </ul>
10日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）のノーベル平和賞受賞</b>に当たり、長 有紀枝事務局次長がICBLメンバーとして招待され、オスロでの授賞式に参加。</li> </ul>
21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「難民日本語スピーチ大会」開催（目黒区民センター）。「コンテスト」から数えて11回目。</li> </ul>

### 1998（平成10）年

インドとパキスタンが相次いで核実験／日本、サッカーワールドカップ初出場／北アイルランド紛争、和平で合意／和歌山で毒物カレー事件／中国で大洪水（死者3000人超）／秋野豊さんタジキスタンで射殺／マグワイヤ、ソーサ37年ぶりにホームラン記録を更新／新語流行語大賞「ハマの大魔神」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野冬季オリンピック組織委員会（NAOC）、日本オリンピック委員会（JOC）、信濃毎日新聞社、社団法人日本歩け歩け協会との5団体で<b>「長野オリンピックピースアピール実行委員会」</b>（会長：小林 實 NAOC事務総長）を結成。一連の行事や活動を実施。</li> </ul>
16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>対人地雷撤去のためのチャリティ人形劇「リア王」上演（新国立劇場・小劇場）。人形劇団ひとみ座による。</li> </ul>
31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>NGO 東京地雷会議'98開催（国立オリンピック記念青少年総合センター）。ノーベル平和賞受賞直後のジョディ・ウィリアムズさんや地雷禁止運動家クリス・ムーンさんほか500名以上が参加。2月1日まで。</li> <li>「長野オリンピックピースアピール展」開催。上記実行委員会として。地雷についての展示。前半はながの東急セルシェ、後半は表彰式場前の特設会場で。2月2日まで。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランクフルトで開かれた<b>地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）の総会において、アジアのNGOとして初めて調整委員会委員に選出される</b>。2003年9月まで。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「対人地雷撤去のためのチャリティ・ウォークくながの大会」開催。社団法人日本歩け歩け協会ほかの協力。上記実行委員会として。サマランチIOC会長や歌手の西田ひかるさんも参加。</li> </ul>

	2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北國新聞社と共にジョディ・ウィリアムズさん特別講演会を開催（金沢日航ホテル）。</li> </ul>
	6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝日新聞社と共にジョディ・ウィリアムズさん特別講演会を開催（朝日新聞記念講堂）。</li> </ul>
	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地雷禁止運動家クリス・ムーンさんを長野オリンピック最終聖火ランナーに採用</b>することを、かねてから NAOC と演出家の浅利慶太さんに働きかけ、開会式で実現。テレビを通じて全世界の 30 億人に對人地雷廃絶をアピール。会場には、ムーン夫人やジョディ・ウィリアムズさんも招待した。クリスさんはモザンビークでの地雷撤去指導中に触雷して右手足を失った。</li> </ul>
	7-22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「長野オリンピック記念チャリティ・オークション」実施。上記実行委員会として。表彰式会場で。</li> </ul>
	9-10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ク里斯・ムーンさんによる「チャリティ・ラン」。'91 年度東京女子マラソンで優勝した谷川真理さん（現理事・AAR 地雷廃絶キャンペーン大使）と箱根から東京まで約 120km を走り、さらに 64 の在京大使館を回って、對人地雷禁止を訴える文書を手渡した。箱根町や沿道の学校・諸団体が協力。田中宏周が担当。</li> </ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「對人地雷撤去のためのチャリティ・ウォーク&lt;東京大会&gt;」開催。對人地雷禁止推進議員連盟（小坂憲次会長）、埼玉ライオンズクラブからも多数参加。森 進一さん、渡部絵美さんも歩く。</li> </ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野オリンピック・ピースアピールコンサート 開催。上記実行委員会として。ピアニスト中村紘子さん、歌手森山良子さんの協力。</li> </ul>
3月	2-6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ク里斯・ムーンさんと歌手森 進一さんがカンボジアを訪問。以下に参加。地雷除去に充てる長野オリンピック ピースアピール実行委員会からの 50,000 ドルの寄付のヘイロー・トラストへの贈呈式。森さんの協力と外務省の助成で建設したプレイベン州ソティア小学校の開校式。東京都遊技場組合連合会の協力で購入した地雷除去用草刈トラクターの贈呈式。ほか地雷原視察。</li> </ul>
	22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NHK・FM 特別番組「地雷ではなく花を…」放送。後日、この番組は、『<b>放送文化基金賞</b>』<b>本賞</b>を受賞した。</li> </ul>
	30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『スルツェ・こころー旧ユーゴ紛争 戦争トラウマと NGO の挑戦ー』刊行。社団法人東京俱楽部の助成で自費出版。松永知恵子が編集を担当。</li> </ul>
4月	14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 6 回「愛のポシェット」運動開始。11,902 個が集まり、主にラオスで配布。</li> <li>・ ク里斯・ムーン『地雷と聖火』出版記念講演会（カナダ大使館）開催。副会長 吹浦忠正が監訳し、出版に協力。</li> </ul>
5月	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 14 回じゃがいもの会「応演歌'98」開催（NHK ホール）。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジアのシエムレアップ州およびオッドーミアンチェイ州において、医療支援事業開始。当初は医薬品・医療機器供与が中心。同年 9 月に<b>シエムレアップ事務所開設</b>。2002 年 10 月まで実施。</li> </ul>
7月	4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1998 年度総会（雅叙園観光ホテル）。</li> </ul>
	18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<b>天満敦子ヴァイオリン・チャリティ・コンサート</b>」開催（サントリーホール）。高円宮殿下、同妃殿下がご来臨。</li> </ul>
	26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジアの国会議員選挙の監視に、山本 修、林 桂子を派遣。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へじゃがいも 25 トン、ビスケット 14,400 箱、および文房具を支援。第 7 回目の支援。6-11 日にモニタリングを実施。</li> </ul>
	18-20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏期合宿を開催（野辺山高原）。在日難民の奨学生ほかが参加。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『人間が地雷をする日』刊行（柳瀬房子・著 大日本図書）。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本政府が対人地雷禁止条約（オタワ条約）を早期批准するよう働きかけ。30日に国会で承認。45番目の批准国となり原締約国となる。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジア事務所の現地スタッフ・ティト・マック招聘。社団法人青少年育成国民会議のプロジェクトに参加の形で。約1ヶ月滞在。</li> </ul>
10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>国際連合経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を取得。</b></li> </ul>
12-13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボスニア・ヘルツェゴビナで実施された国政・地方選挙に際し、日本政府派遣の平和協力隊に選挙管理要員として高橋敬子（現常任理事）、松永知恵子が参加。</li> </ul>
15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人地雷撤去キャンペーン絵本第3巻『<b>サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ 続々・地雷ではなく花をください</b>』刊行（絵・葉 祥明、文・柳瀬房子、英訳・相馬雪香、発行・自由国民社）。</li> <li>・「愛のひざかけ」10,100枚の配布を開始。23日からは、日本から大野里友、ロミーズパッチワークスクールの川嶋ひろみさん、小林 實 NAOC事務総長も参加。</li> </ul>
15-18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局次長 長 有紀枝ほかが、アイルランド政府主催対人地雷全面禁止運動の現状評価のための国際会議と ICBL・ダブリン会議に出席。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛のポシェット」2,350個をルーマニアの小児エイズ患者に配布。国立ビクトル・バベシュ病院ほかで。ヴァイオリニスト天満敦子さん、作曲家小林亜星さんご夫妻も同行。</li> <li>・<b>コソボ難民への緊急援助を開始。</b>毛布500枚をボスニア・ヘルツェゴビナの、以前はコカ・コーラの工場であった廃屋で、暖房なしの生活をしている難民に配布。</li> </ul>
28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日新聞に、同社と株式会社電通、自由国民社の協力を得て、「対人地雷廃絶に賛同する100人」の全面意見広告を掲載。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サニー緊急救援隊（サニーSOS）」として、10月末に発生したハリケーンによる洪水で大きな被害を受けたホンジュラスとニカラグアを支援。横田暢之理事を急派し、岩川 薫 元 AAR ザンビア事務所駐在員（青年海外協力隊ニカラグア隊員）らと協力して、ヨロ県ほかで食糧支援。</li> <li>・英国の地雷除去 NGO ヘイロー・トラストを強力に支援するため、日本政府に同 NGOへの財政支援を要請、翌年夏までに約8,000万円の助成が決定。</li> <li>・クリントン大統領とのTV対話で、水谷幸子が対人地雷禁止条約への参加を迫る。</li> <li>・「愛のポシェット」200個を、色丹島の発電所の火災で被害にあった子どもたちへ配布。</li> </ul>
11月 20日 -12月 25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サニーちゃんのクリスマス・ツリーを展示。ホテル・ニューオータニの特別の協力で。</li> </ul>
11月 28-29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第3回 NGO 東京地雷会議」を開催（国立オリンピック記念青少年総合センター）。20カ国から235名が参加。</li> </ul>
12月 20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回「難民日本語スピーチ大会」開催（目黒区民センター）。</li> </ul>

### 1999（平成11）年

NATOがセルビアを空爆／コソボから難民／トルコ、台湾で大地震／東海村で放射能事故／ダイエーが日本シリーズ制覇／新語流行語大賞「ブッちホン」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアのキエンクリエン障がい者支援センター職業訓練校にて、縫製コースを新設。</li> </ul>
2月 18-22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛のポシェット」3,000個をサハリンへ配布。トロイツコエ孤児院などで配布。</li> </ul>
1月 26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>「対人地雷禁止条約発効記念のつどい」開催</b>（国連大学）。3月1日の条約発効を記念。小渕恵三首相、在京の各国大使も参加。</li> </ul>

28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の数都市と、ニューヨーク、ブノンベン、サラエボなどで、4カ国語で書いた「地雷をなくそう」特製ステッカーを配布。</li> <li>副会長 吹浦忠正、朝日新聞「論壇」で、NGOによる海外への緊急救援活動に新しいスキームの政府助成をと訴える。これがきっかけで外務省が7月に同制度を発足させた。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICBLの「ランドマインモニター」作業部会のメンバーとして、中国・台湾の対人地雷問題に関する調査を担当。2003年まで。</li> <li>カンボジアにおける地雷除去後の土地の使用状況調査のため、東 秀樹がヘイロー・トラストに出向。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>対人地雷全面禁止条約発効。</li> </ul>
8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「愛のポシェット」7,544個をラオスで配布。贈呈式の後、国立リハビリテーションセンターのほか、ビエンチャンおよびその近郊の小学校の子どもたちに配布。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>コソボ難民支援として、マケドニアのテトボ病院ほかで衛生用品を配布。また、NATOの空爆が続くセルビアへ事務局次長 長 有紀枝らを派遣し、パンチェボ盲センターへ食糧、スペチャ NSCA 孤児院と難民収容センター10カ所へ粉ミルクを配布。</li> <li>ボスニアやマケドニアでも、外務省の助成で、粉ミルクやベビーフードを配布。2000年3月まで。</li> <li>マケドニアのスコピエ、シュトオリザリ、クマノボほかで、外務省の助成で、巡回診療を実施。2000年3月まで。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>コソボ難民ほかの子どもたちのために、セルビアの首都ベオグラードなどの病院に粉ミルクを配布。</li> <li><b>マケドニア・スコピエ事務所開設。</b></li> </ul>
3-7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局次長 長 有紀枝が「対人地雷全面禁止条約第1回締約国会合」（マプート会議）に参加。</li> </ul>
6月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1999年度総会（渋谷 新大宗ビル）。</li> <li>「対人地雷撤去のためのチャリティ・コンサート 中村絃子ショパンピアノ協奏曲1番・2番」を開催（Bunkamura オーチャードホール）。大友直人指揮、日本フィルハーモニー交響楽団。小渕恵三首相ご夫妻も出席。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ミャンマー（ビルマ）の首都（当時）ヤンゴン（ラングーン）に事務所を開設。</b>山本 修、三浦順子両駐在員。障がい者職業訓練センターの開設準備。</li> <li>ルワンダ事務所閉鎖。帰還民支援として、給水、トイレ建設、識字教室、住宅建設、養鶏などの事業を実施してきた。活動を現地スタッフが設立したNGO（後のARDR）に引き継ぐ。</li> <li>「コソボに愛のセーターをおくる運動」開始。日本全国から約20万枚が届く。大野里友を中心に。</li> <li>『地雷ではなく花をください』のクロアチア語版、セルビア語版が相次いで出版される。頌栄女子学院の協力。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>地雷廃絶キャンペーン絵本第4巻『サニーのゆめ ありがとう 地雷ではなく花をください』刊行（絵・葉 祥明、文・柳瀬房子、英訳・相馬雪香、発行・自由国民社）。通算発行部数46万部に。</li> </ul>
3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第15回じゃがいもの会「応演歌'99」開催（NHKホール）。紀宮殿下ご来臨。</li> <li>のべ600人を超えるボランティアの参加でコソボにおくるセーターを分類・整理（日本通運品川倉庫）。</li> <li>17日にトルコ西部で発生した大地震に対応し、小林映子とボランティア太田か</li> </ul>

		おりを派遣。日商岩井株式会社の協力で、アダパザールとドゥヅジエのテント村で使用する洗濯機 50 台や、子ども用下着、医薬品ほかをデイルメンデル村で配布。その後 9 月に起きた地震に対しても、原口珠代看護師を派遣。
13-15 日 9 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ユーゴスラビア・コソボ自治州コソボ・ポリエ市において、民族融和事業を開始。</b> セーター・石けん・薪・石炭などの生活物資の配布や、民族混合での街角清掃などの活動を 2000 年 5 月まで実施。一部外務省の助成。同事業実施のためにインターーンをのべ 18 名派遣。</li> <li>・ 上記民族融和事業の一環として、自民党コソボ派遣団と協力して帰還難民などが対人地雷の被害に遭わないよう啓発用の特製 T シャツ 5,000 枚を配布。</li> <li>・ 在日難民ほかとの第 20 回夏期合宿を開催（静岡県御殿場市 YMCA 東山荘）。</li> <li>・ 日本航空学園の特別の協力で、同校滑走路でコソボにおくるセーターを分類・整理。同高校の全校生約 700 人が終日ボランティア活動。</li> <li>・ 松永知恵子理事、国連主催「世界 NGO 定例総会」ニューヨーク会議に出席。</li> <li>・ 事務局次長 長 有紀枝、対人地雷全面禁止条約「専門家による常任委員会」（ジュネーブ会議）に出席。</li> <li>・ 『NGO 海外ボランティア入門 難民を助ける会 20 年の軌跡から』刊行（吹浦忠正著 自由国民社）。</li> <li>・ 台湾中部で大地震。ただちに対人地雷廃絶運動のネットワークを活用し、同地のエデン財団に 50 万円をおくる。</li> <li>・ 姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へ鶏卵約 10,000 個、バナナ約 32,000 本、玩具、および医薬品ほかを支援。第 8 回目の支援。9 月 30 日-10 月 5 日にモニタリングを実施。</li> </ul>
25 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サラエボ事務所現地スタッフのハリス・ラモビッチを日本に招聘。社団法人青少年育成国民会議のプロジェクトに参加の形で。10 月 20 日まで。</li> </ul>
10 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林 桂子理事、国連主催『世界 NGO 大会』ソウル大会に出席。</li> <li>・ カンボジアのアンロンベン・トリヤピヤンプラサット郡において、タイからの帰還民の児童に対し、UNHCR からの委託により、教科書 16,000 冊を配布。12 月まで。</li> <li>・ 『地雷ではなく花をください』の純益ほかで、英國の地雷除去 NGO ヘイロー・トラストと協力し、アフガニスタンにおける地雷除去活動を開始。</li> <li>・ ルーマニアのコレントイナ病院でエイズに苦しむ子どもたちに、玩具屋や文房具を配布。ヴァイオリニスト天満敦子さんの協力。</li> </ul>
18 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジアのキエンクリエン障がい者支援センターに、ヨルダンのノア王妃がご来臨。</li> </ul>
11 月 2 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ラオス事務所開設。</b> 駐在員 石井みのり。</li> </ul>
6-15 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>読売新聞第 6 回国際協力賞を受賞。</b> 授賞式には小渕恵三首相が出席。</li> <li>・ 「コソボへおくる愛のセーター」の配布ボランティア 9 名を現地へ派遣。2000 年 2 月まで、駐在員、現地スタッフにより配布を継続。</li> </ul>
17 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AAR 創立 20 周年記念「松本美和子 &amp; アンナ・クオ チャリティ・コンサート」開催（東京芸術劇場）。トルコ・台湾大地震被災者救援のため。</li> </ul>
18 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョディ・ウィリアムズさん講演会を京都新聞社と共に（国立京都国際会館）。</li> <li>・ ホテル・ニューオータニにて、同ホテルの協力得て、サニーちゃんクリスマス・ツリー募金を実施。12 月 26 日まで。</li> </ul>
20 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>AAR 創立 20 周年記念のつどい、式典（ゲスト ジョディ・ウィリアムズ ICBL 国際大使）、記念講演会（講師 小和田恆日本国際問題研究所理事長）を開催（日本</b></li> </ul>

	青年館)。記念総会では、会の英語の名称を“ <b>Association for Aid and Relief, Japan</b> ”と改定することに決定した。記念式典では、永年協力くださった個人や団体、ボランティアに感謝状や表彰状を贈った。
24日	・ AAR 創立 20 周年を記念して、日本経済新聞に全面広告を掲載した株式会社電通の協力と各企業の協賛。
28日	・ ICBL 子ども大使ソン・コサルさんをカンボジアから招聘。愛知・京都・東京の小・中学校で講演。12月4まで。
12月	・ セルビアの国内避難民に対し、子ども用の衛生用品や粉ミルクを配布。外務省の助成で、2000年3月まで。
19日	・ セルビアの公立義肢製作所に対し、部品を供与。外務省の助成で、2000年3月まで。
	・ 在日難民および外国人の方々による第13回「日本語スピーチ大会」開催(五反田ゆうぽうと)。

### 2000(平成12)年

モザンビークで洪水の被害が深刻化／シドニー五輪／佐賀で中学生がバスジャック／小渕恵三元首相逝去／南北朝鮮首脳による史上初の会談／雪印による食中毒事件／三宅島が噴火／世田谷一家惨殺事件／新語流行語大賞「おっはー」

1月 17日	・ <b>日本政府が滋賀県新旭町饗庭(あいば)の旭化成工場で、保有地雷の処分を開始。</b> 小渕恵三首相が地雷爆破スイッチを押したほか、海東英和新旭町長、対人地雷全面禁止推進議員連盟の小坂憲次会長らが列席。AAR からも副会長 吹浦忠正、事務局長 柳瀬房子、事務局次長 長 有紀枝が同席した。
24-27日	・ ラオスの小学校において「愛のポシェット」2,738個を配布。特に慶應義塾幼稚舎にご協力いただき、配布にも先生2名が参加。
2月 7日	・ 前年より激化したチェチェン紛争による避難民支援の可能性を探るため、事務局次長 長 有紀枝・武田勝彦東欧地域代表・東京事務局の堀江良彰をモスクワとロシア南部のスタプロポリへ派遣。「チェチェン避難民へ毛布をおくる運動」を開始。11,456枚の毛布が集まる。
12日	・ <b>日ロの友好と協力のためのコンサート「小澤征爾／ムスティスラフ・ロストロポーヴィチによる友情コンサート2000」開催</b> (すみだトリフォニーホール)。実行委員会の一員として。純益は上記運動にも充当。
3月	・ <b>モザンビークの洪水被災者に対する緊急支援を実施。</b> 斎藤慎吾を派遣。テントや毛布などを配布。
	・ ザンビアのメヘバ難民定住地におけるウーマンズクラブ(洋裁教室)事業を終了。
	・ <b>ユーゴスラビア・コソボ自治州ジャコバ、ペア、デジャネにおいて、ヘイロー・トラストと協力し、地雷・不発弾回避教育および除去活動を開始。</b> 同年12月まで。
20日	・ <b>ミャンマーの首都ヤンゴンに障がい者のための職業訓練センターを開校。</b> 邮政省国際ボランティア貯金の助成。裁縫コースと理容・美容コースに入学した第一期生は28名。
20-23日	・ 2月12日のコンサートの純益の一部で、サハリンのトロイツコエ孤児院ほかにロシアや日本で調達したベッドおよび寝具、卓球台、卓球ラケット、サッカーボールなどを配布。水谷幸子を団長に、東京事務局の後藤裕子ほか計4名が現地を訪問。うち、池田亜佑さん、茉里さんの中学生姉妹は現地の子どもたちと交流を深めた。

3月 31日	・松永知恵子理事と高橋敬子（現常任理事）が、総理府派遣の国際平和協力隊として、ボスニア・ヘルツェゴビナの市町村選挙監視に参加。
-4月 13日	
4月	・ <b>チェチェン避難民支援</b> として、イングーシ共和国において、女性用衛生ナプキン（4万人の3カ月分）やトラウマとなった子どもたちへ玩具などを配布。6月まで実施。東京事務局の堀江良彰、新村浩子を現地に派遣。
5月 9日	・南セルビア・ブヤノバツツにおいて、コソボ避難民向け仮設住居を建設。「愛のセンター」の輸送に使用したコンテナを改装。
11日	・愛のティベア展」オープニングセレモニー。高円宮妃久子殿下ご来臨。著名人によるティベアのボディペインティングなどの展示。NHK 厚生文化事業団との共催。彩鳳堂ほかの協力による。2003年末まで全国を巡回し、同年4月には、彩鳳堂がティベアを展示する「はこだて西波止場美術館」を開館。
27日	・地雷廃絶と被害者支援の会・熊本の主催による「阿蘇 100 キロマラソン」に協力。クリス・ムーンさんが完走。
29日	・ラオスカンムアン県ヒンブンタイ小学校を建設。郵政省国際ボランティア貯金の助成。譲渡式が行われ、「愛のポシェット」も同時に贈呈。長田富子、詫摩由美子ほかが参加。
6月	・姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が、北朝鮮へ玩具を支援。第9回目の支援。
8日	・ <b>相馬雪香会長がカンボジア王国サハメトリー王室勳章受章。</b>
10日	・2000年度総会（虎の門パストラル本館5F けやきの間）。NPO法人設立準備総会を兼ねる。
7月	・ <b>モザンビーク事務所開設。</b> 駐在員 斎藤慎吾。洪水被災者に対する農業組合設立・運営支援事業を実施。郵政省国際ボランティア貯金の助成。2002年7月まで。
	・ザンビアのメヘバ難民定住地において、殺虫処理済蚊帳の配布と予防教育からなるマラリア予防キャンペーンを開始。2004年2月の終了までに、約10,000張を配布。
8月	・ザンビア西部州のナングウェシ難民キャンプにおいて、アンゴラ難民に対し、緊急支援として石けん10,000個を配布。
11-13日	・在日難民ほかとの第21回夏期合宿を開催（群馬県 国民宿舎赤城緑風荘）。
22日	・サハリン芸術学校に「日口コンサート」の純益でグランドピアノを寄贈。日本から声楽家の松本佳子さん、ピアニストの西本梨江さん、チェリストの丸山朋文さんと酒井玲子さん率いるコーラスグループを派遣し、両国の演奏家による記念演奏会を開催。
9月	・ <b>ザンビアの首都ルサカにてHIV/AIDS対策パイロット事業として、ホスピスや孤児院などに対し医薬品や生活用品などの支援を実施。</b>
2日	・『地雷ではなく花をください』の主人公サニーと地雷廃絶のメッセージをプリントした都電荒川線「サニー号」が1年間の運行開始。
11-15日	・地雷禁止条約第2回締約国会議（ジュネーブ）に、事務局次長 長 有紀枝がICBL調整委員として参加。
9月 18日	・社団法人青少年育成国民会議主催の世界青少年指導者招聘事業の研修生として、ザンビアのメヘバ事務所のアンゴラ難民スタッフ、カコマ・ケイファスが来日。
-10月 22日	・ <b>活動の重点分野を「緊急支援」、「地雷対策」、「障がい者支援」の3分野に。</b>
10月 5日	・モスクワの非常事態省で「チェチェン避難民へ毛布をおくる運動」に寄せられた毛布の贈呈式。団長の平塚由紀子と、東京事務局の堀江良彰が参加。チェリスト

		のロストロポーヴィチさんも出席。
13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都より<b>特定非営利活動法人（NPO 法人）の認証</b>を受ける（登記は 27 日）。相馬雪香会長、理事長 柳瀬房子、事務局長 長 有紀枝。</li> </ul>
11月 22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ミャンマーのヤンゴン市郊外のタウチャン孤児院ほかに、駐在員 三浦順子の母校である聖靈女子短期大学付属中学校（秋田市）から寄贈された「愛のポシェット」130 個を配布。</li> <li>21世紀の東アジアにおける地雷禁止条約の普遍化と官民の対話促進をめざし、東アジアの NGO と在日各国大使館の関係者を招待し、ICBL（地雷禁止国際キャンペーン）ランドマインモニターセミナーを外務省と共に開催（外務省）。</li> </ul>
23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>上記セミナー参加の NGO リサーチャーによる ICBL ランドマインモニター地域会議を開催。</li> </ul>
24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>滋賀県新旭町で開催された地雷禁止運動家のクリス・ムーンさん講演会に協力。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷をなくそう・チャリティマラソン」に協力。比叡山延暦寺から滋賀県新旭町までの 70km をクリス・ムーンさんが完走。マラソンランナーの谷川真理さんが伴走。</li> <li>インデペンデント・プレスの後藤健二さんがザンビアの AAR 事業地を訪問し、紹介ビデオを制作。</li> </ul>
26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>都電荒川線「サニ一号」を借り切って、「地雷禁止条約 3 周年記念集会 in TODEN」を実施。署名式から 3 年を記念して。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>シャボン玉石けん株式会社と提携し、「サニ一ちゃん」バスソープシリーズを開発、販売開始。</li> <li>ザンビアのメヘバ難民定住地において、AAR が運営していた図書館 3 館を、現地の NGO などに委譲。</li> </ul>
10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>姉妹団体の社会福祉法人さぼうと 21 との共催で、在日外国人の方による第 14 回「日本語スピーチ大会」（最終回）を開催。難民塾「太陽」、「ゆうあい」を終了し、さぼうと 21 に活動を引き継ぐ。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスにおいて、国際協力事業団（JICA）の開発パートナー事業として、3 年計画で、国立リハビリテーションセンター車いす工房の活性化を主な目的とした車いす製造支援事業を開始。2003 年 12 月まで。</li> </ul>
18-22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスにおいて、首都ビエンチャンほかの 19 の小学校で「愛のポシェット」3,430 個を配布。外務省後援。慶應義塾幼稚舎から 2 名と学習院女子大学から 6 名の配布ボランティアが参加。</li> </ul>
12月 31日 -1月 1日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「対人地雷廃絶のための佐藤陽子ミレニアムチャリティ・ヴァイオリン・リサイタル」開催（山梨県小淵沢町フィリア美術館）。</li> </ul>

#### 2001（平成 13）年

小泉内閣発足／米同時多発テロ／国内初の狂牛病の牛を確認／大阪・池田小児童殺傷事件／敬宮愛子さまご誕生／ブッシュ米政権発足／えひめ丸がハワイ沖で米原潜と衝突、沈没／テロ対策特別措置法成立、自衛艦インド洋へ／イチロー、米大リーグで大活躍／京都議定書発効へ／ハンセン病訴訟で原告全面勝訴／新語流行語大賞「米百俵」ほか

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのメヘバ難民定住地において、木工技術の職業訓練事業を終了。難民自身による運営へ。</li> <li>1月 13 日にエルサルバドルで発生した大地震に対応し、エルサルバドル在住の山際秀雄・サリー・タ夫妻を通じ、約 2,000 の被災世帯に食料や石けんなどを緊急配布。2 月まで。</li> </ul>
----	--

2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日加平和構築パートナーシップ」の人材交流プログラムの一環として、カナダのNGO「平和学校連盟」の代表ヘンドリカ・ヴァン・ガープさんを東京・カンボジア・ユーゴスラビア・マケドニアの各事務所で受け入れ。</li> <li>ICBL ランドマインモニタリポート執筆のため、東京事務局の菊池康子を中国雲南省および広西壮族自治区に派遣し、地雷被害者の実態調査を行う。</li> <li>ラオス・ビエンチャン県ヒンハップ郡のタオタン小学校の改築が完成。森 進一さんおよび岡本路夫さん、和久さん、雅夫さん兄弟の協力で。</li> </ul>
19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「天満敦子ヴァイオリン・チャリティ・コンサート」を開催（全日空ホテル）。</li> </ul>
27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事長 柳瀬房子が、ヴァイオリニストの天満敦子さんとミャンマーを訪問。</li> </ul>
3月 3-4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>地雷禁止条約発効2周年記念「地雷ではなく花をください チャリティいけばな展」を開催（カナダ大使館）。オープニングに寛仁親王妃信子殿下ご来臨。池坊金子弘子社中との共催。</li> <li>ラオスへのスタディツアーを実施。会員14名が参加。タオタン小学校の譲渡式に参加。</li> </ul>
4月 4-9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷ではなく花をください チャリティ合唱祭」開催（草月会館）。</li> <li>マケドニア東部およびテトボにおいて、国内避難民に対し、衛生用品や食料の配布を実施。</li> </ul>
20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷ではなく花をください チャリティ合唱祭」開催（草月会館）。</li> <li>マケドニア東部およびテトボにおいて、国内避難民に対し、衛生用品や食料の配布を実施。</li> </ul>
30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>TBS50周年特別番組「地雷ZERO 21世紀最初の祈り」を機に「<b>地雷ZEROキャンペーン</b>」が開始される。キャンペーンソング「ZERO LANDMINE」のCD販売の純益やご寄付を、同キャンペーン委員会（株式会社東京放送[TBS]、株式会社ワーナーミュージックジャパン、株式会社日音、AARで構成）が、AARを通じ、カンボジア・モザンビーク・グルジア・アンゴラでの地雷除去に充当。英国のNGOヘイロー・トラストとMAG（Mine Advisory Group）と協力。2006年度までに総額526,547,966円が地雷除去のために活用され、カンボジア、アンゴラ、グルジア、モザンビークで合わせて3,182,229m<sup>2</sup>の土地が、地雷や不発弾のない安全な土地になった。また、2006年度以降、4,645,756円をアフガニスタン北西部のバグラン州バラ・ダリ村で除去活動に活用し、39,936m<sup>2</sup>（テニスコート153面分）が安全な土地になった。</li> </ul>
5月 13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第17回じゃがいもの会「応演歌2001」開催（NHKホール）。</li> </ul>
15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミャンマーのヤンゴンにおける職業訓練校の新校舎完成。外務省の助成。</li> </ul>
6月 8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ミャンマー子どもの未来（あした）プログラム」を開始。知的障がい児のリハビリ訓練を支える里親を募る。</li> <li>モンゴルで開催されたアジアにおける地雷禁止条約の普遍化に関する会議に、事務局長 長有紀枝が参加。</li> <li>武装勢力のダム占拠により断水となったマケドニア北部のクマノボ市にて、病院・救貧院・幼稚園などにペットボトル入り飲料水15,000本を緊急配布。</li> </ul>
16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>2001年度定時総会（虎ノ門パストラル）。</li> </ul>
18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連広報センター主催「なくそう！小型武器・地雷」展に、地雷の展示およびパンフレット作成で協力。8月31日まで国連大学で開催。</li> </ul>
6月23日 -7月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「南北コリアと日本のともだち展－あなたのこと教えて」開催（こどもの城ほか）。姉妹団体の「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が実行委員を務める。</li> </ul>
7月 13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤陽子チャリティ・ヴァイオリン・リサイタル。</li> </ul>
23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷の諷刺画と写真」展を株式会社電通、カンボジア地雷撤去キャンペーンと共に。8月23日まで、電通ギャラリーにて。</li> </ul>
8月 17-19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期研修会を開催（神奈川県葉山 生産性国際交流センター）。在日難民や外国人</li> </ul>

		の方々との相互理解・交流を目的として。財団法人三菱銀行国際財団による助成。
8月 25日 -9月 7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>東京事務局の菊池康子と堀江良彰を、財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部主催の国内避難民の調査参加のため、アフガニスタンに派遣。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーゴスラビア・セルビア共和国において、聴覚障がいのある難民・国内避難民ほかに補聴器配布。2002年5月まで。</li> <li>ザンビアのメヘバ難民定住地における中・高等学校の生徒への奨学金給付を終了。</li> <li>全米同時多発テロのため、アフガニスタンでの地雷除去活動を一時中断。</li> </ul>
10月 1日 2日		<ul style="list-style-type: none"> <li>鮫島由美子ソプラノリサイタル 2001・秋開催（東京オペラシティコンサートホール）。</li> <li>9.11 米国同時多発テロを受けた米英軍の軍事行動を恐れ、流出した<b>アフガニスタン難民支援</b>のため、事務局長 長 有紀枝と東京事務局の堀江良彰をパキスタンへ派遣。<b>イスラマバードに事務所を開設</b>するとともに、現地 NGO を通じ、幼児用ビスケット、ミルク、水を支援。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>アフガニスタン緊急支援の一環として、隣国<b>タジキスタンの首都ドゥシャンベに事務所を開設</b>。東京事務局の新村浩子が現地で活動に当たり、フランスの NGO、ACTED と協力し、国境に位置するピヤンジ島にて、アフガニスタンからの避難民 6,436 人に対して、野菜、果物を 12 月まで配布。</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>アフガニスタン国内で、英国の地雷除去 NGO ヘイロー・トラストと協力し、地雷・不発弾の回避教育をジャパン・プラットフォームの助成で開始。</li> <li>ザンビアのメヘバ難民定住地において、地域教育事業のうち英語教室と環境保全事業を終了。</li> </ul>
1-7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジア・カンダル州の小学校 7 校に、「愛のポシェット」約 3,500 個を配布。学習院女子大学、慶應義塾幼稚舎によるご協力。高橋喜美子理事を派遣。</li> </ul>
5-9日		<ul style="list-style-type: none"> <li>同時多発テロが発生したニューヨークの子どもたちへ、手作りのぬいぐるみを詰めた「愛のポシェット」1,540 個を配布。理事長 柳瀬房子ほか 10 名が参加。配布前には東京都庁の展望室でぬいぐるみを展示。</li> </ul>
11-13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャパン・プラットフォーム主催の「アフガニスタン復興 NGO 東京会議」（千代田区で開催）において、地雷対策と北東部地域の分科会の議事進行やアピール文の作成を担当。</li> </ul>
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビアのメヘバ事務所駐在員隈井美佳さんが、日本への一時帰国途中の香港で脳性マラリアを発症し、2カ月におよぶ闘病の後、逝去。</b></li> </ul>
14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスの車いす製造支援事業の一環として、国立リハビリテーションセンターの車いす工房の再建が完了。</li> </ul>
24-26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本政府のアフガニスタン地雷除去支援のための調査ミッションに、事務局長 長 有紀枝が参加。</li> </ul>

## 2002（平成 14）年

日朝首脳会談、拉致被害者 5 人帰国／日韓共催サッカーW 杯／ノーベル賞初のダブル受賞／牛肉偽装事件／バリ島で爆弾テロ／国内失業率 5.5% で最悪水準／住民基本台帳ネットワーク稼働／アフガニスタンでカルザイ大統領就任、移行政権発足／アンゴラにおける停戦合意／新語流行語大賞「たまちゃん」「W 杯」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>アフガニスタンの首都カブールに事務所を開設</b>。担当は東京事務局の紺野誠二。英國の地雷除去 NGO ヘイロー・トラストと協力し、地雷原・不発弾汚染原調査特定活動を開始。2003年9月まで。</li> </ul>
----	---

1月 23日	・ 社団法人青少年育成国民会議主催の世界青少年指導者招聘事業の研修生として、ミャンマー事務所のスタッフ、モモ・トウェが来日。
-2月 21日	
25日	・ 「相馬会長卒寿（そつじゅ）のお祝い会」開催（都立庭園美術館）。事務局の幹事を務める。
28日	・ ラオス国立リハビリテーションセンター内に建設した車いす工房の竣工式。JICAとの開発パートナー事業の一環。日本から高橋敬子理事を派遣。
2月	・ タジキスタンとアフガニスタンの国境に位置するピヤンジ島にて、日本政府供与の小麦粉、砂糖、食用油を、フランスのNGO、ACTEDと協力し、アフガニスタンからの避難民13,000人に対して配布。4月まで。
3月 8-28日	・ <b>イオングループがAARの地雷廃絶キャンペーンに協力。</b> 全国の店舗で募金活動を実施。
4月	・ ラオスのビエンチャン、カムワン、ボリムカムサイの3県の小学校11校に、教科書11,060冊を配布。5月まで。
6日	・ 3月25日にアフガニスタン北東部で発生した大規模な地震に対応し、ジャパン・プラットフォームの支援で、被災者が収容されたバルク州マザリシャリフほかの病院にマットレス800枚を配布。
10-11日	・ 谷川真理さんが地雷被害の多いパキスタンのトライバルエリアを訪問。東京事務局の紺野誠二が同行。
20日	・ 山梨県北巨摩郡フィリア美術館開催の「地雷の諷刺画と写真」展に協力。会期6月9日まで。
23日	・ <b>相馬雪香会長、オメガアワード2002受賞。</b>
5月	・ <b>アフガニスタン北東部タハール州の州都タロカンに事務所を開設。</b> 地雷被害者などの障がい者支援事業を開始。2008年3月まで。
2日	・ セルビアにおける難民・国内避難民などへの補聴器の援助事業を終了。
9日	・ 東京事務所移転。東京都品川区上大崎2丁目へ。
10日	・ 地雷廃絶キャンペーン絵本第5巻『サニー アフガニスタンへ 心をこめて 地雷ではなく花をください』刊行（絵・葉 祥明、文・柳瀬房子、英訳・松山恵子、監訳・相馬雪香、発行・自由国民社）。
6月	・ 理事長 柳瀬房子、法務大臣の私的諮問機関「出入国管理政策懇談会」の「難民問題に関する専門部会」における唯一のNGO分野の代表として委員に任命される。
4日	・ タジキスタンのドゥシャンベ近郊の障がい者施設、孤児院、老人ホームほかへ、日本政府提供の小麦粉、砂糖、食用油を配布。
22日	・ <b>ベオグラード事務所閉鎖。</b> ロマ人への奨学金給付は8月まで実施。
7月	・ カンボジアのプノンペンで運営しているキンクリエン障がい者支援センター車いす工房の改修工事が完成。じゃがいもの会の協力で。
	・ 姉妹団体「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」の三木睦子会長と吉田清美事務局長が訪朝し、前年実施の「南北コリアと日本のともだち展」の絵を届ける。同時期に、衣類、バレーボール、バスケットボールを支援。第10回目の支援。
	・ ラオスの車いす製造事業の一環として、現地スタッフ5名を日本へ招聘。有限会社大分タキ（上野 茂社長）ほかで研修。
	・ 2002年度総会（東京都庭園美術館大ホール）開催。
	・ タジキスタン南部クルガンチャベの病院に日本政府提供の小麦粉、砂糖、食用油

		を配布。8月終了。
4-7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>タジキスタン南部ハルトン州にて、Food for Work（労働対価としての食料支援）をフランスのNGO、ACTEDと協力して実施。日本政府提供の小麦粉、砂糖、食用油を、村の清掃、トイレ建築の対価として住民に供与。2003年7月まで。</li> <li><b>モザンビーク事務所閉鎖。</b>洪水被災者に対する農業組合設立・運営事業は6月に終了。</li> </ul>
13-18日		<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ研修実施（神奈川県葉山 生産性国際交流センター）。海外駐在員と東京事務局の海外事業担当ほかが参加。</li> <li>事務局長 長 有紀枝がアフガニスタン地雷分野支援の政府調査団に委託専門家として参加。</li> </ul>
17日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「アフガニスタン復興支援 天満敦子&amp;大倉正之助チャリティ・コンサート」開催（サントリーホール）。紀宮殿下ご来臨。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>アフガニスタン・タカール州にて、理学療法事業を開始。9月までに、カラフガシとホジャガの2カ所に診療所を開設。</li> </ul>
3-10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>4月のアンゴラにおける停戦合意を受け、同国における支援の検討を開始し、東京事務局の平野敏夫と志澤道子を首都ルアンダに派遣。</li> </ul>
24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学生を対象とした夏休み体験教室「NGOで遊ぼう！」を開催（三田フレンズ）。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビアにおける干ばつに対応し、南部州において、ジャパン・プラットフォームの支援で穀物などの種子や肥料の配布を実施。</b>ワールド・ビジョンと協力。2003年1月まで。</li> <li>スイスのジュネーブで開かれた第4回地雷禁止条約締約国会合に事務局長 長 有紀枝が出席。</li> </ul>
13-20日		<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回「南北コリアと日本のともだち展」開催（東京都児童会館）。姉妹団体の「朝鮮の子どもにタマゴとバナナをおくる会」が実行委員を務める。</li> </ul>
17日		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本橋三越で開催された「愛のテディベア展」のオープニングセレモニーに、高円宮殿下・同妃殿下がご来臨。会期は23日まで。</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>「セーター再生キャンペーン」開始。学校法人日本航空学園に協力いただき、バングラデシュへ職業訓練のためにおくるセーターを募集。同年12月までに10万枚が集まる。</li> <li>カンボジア・シエムレップ州とオッドーミアンチェイ州における、簡易医療所スタッフへの技術指導、予防接種活動などの医療支援事業を終了。現地政府に引き継ぎ。</li> <li><b>相馬雪香会長、アジア太平洋文化賞特別賞を受賞。</b>アジア太平洋フォーラム・淡路会議より。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>相馬雪香会長、サライ大賞のサライ・シニア・オブ・ザ・イヤーに選ばれる。</b></li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのメヘバ難民定住地において、帰還に備えてアンゴラ難民向け地雷回避教育（2004年3月まで）および集中ポルトガル語（母国語）教室（2003年5月まで）を開始。</li> </ul>
11日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際協力NGO インターンシップ・プログラム」に協力し、外務省から若手職員を研修生として受け入れ。最初の研修生は15日まで。2002年度は計4名受け入れ。</li> </ul>
24-25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダのオタワにて、対人地雷禁止条約署名式から5周年を記念した「地雷ではなく花をください チャリティいけばな展in Ottawa」を開催。池坊華道会やいけばなインターナショナルのご協力による。</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャパン・プラットフォーム NGO ユニットの代表理事団体となる。2003年10月まで。さらに2008年4月から2011年3月まで代表幹事団体を務める。</li> <li>・ ザンビアのメヘバ難民定住地において、医療支援事業、保健衛生事業、農業事業を終了。</li> </ul>
14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事で、姉妹団体さぼうと21の相談室長であった大野里友さんが逝去。</li> </ul>

### 2003（平成15）年

邦人外交官2人がイラクで殺害／米英軍によるイラク攻撃、セイキン元大統領を拘束／新型肺炎（SARS）が世界的流行／長崎男児殺害など少年の重大事件相次ぐ／北朝鮮が核開発表明／イラク復興支援特措法成立、自衛隊派遣へ／松井秀喜選手が大リーグ・ヤンkeesで活躍／新語流行語大賞「なんでだろう～」「マニフェスト」ほか

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パキスタン北西部のトライバルエリアにおいて、現地NGOと協力し、地雷除去活動を実施。3月まで。</li> </ul>
2月 8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滋賀県新旭町にて、日本が保有していた100万個の対人地雷の廃棄処理完了式典が政府により行われた。同日より、「地雷をなくそう！全国こどもサミット」を新旭町と共に催。アフガニスタンから地雷・不発弾被害者の子ども2名を招聘。同式典とサミット開会式に小泉純一郎首相が出席。猪口邦子軍縮会議日本政府代表部（ジュネーブ）大使（のちに理事）も参加。会期は9日まで。</li> </ul>
28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サバース「チャリティ・ボサノバのタベ」開催（TOKYO FMホール）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャパン・プラットフォームの「イラク危機対応チーム」のメンバーとして、イラク危機に備え、イラク／ヨルダン国境で医療支援の開始。NPO法人災害人道医療支援会（HuMA）、NPO法人BHNテレコム支援協議会（BHN）と協力。</li> <li>・ タジキスタンのヒッサーにおいて、国立障がい児特殊学校への暖房器具および冬物衣類の供与事業を実施。外務省の助成。4月まで。</li> <li>・ セーター再生キャンペーンのモニタリングに、東京事務局の高橋佳子をバングラデシュのハチヤ島に派遣。</li> <li>・ マケドニアにおいて困難な家庭環境の大学生を支援する奨学金給付事業を終了。</li> <li>・ AARルワンダ事務所の活動を引き継いだ現地NGO（ARDR）への支援を終了。</li> <li>・ AARを支援するきもの再生ショップ「夢うさぎ」（店主 柳瀬房子）による「きもの再生キャンペーン」開始。</li> <li>・ アフガニスタンにおいて、英国の地雷除去NGOヘイロー・トラストを通じての雷・不発弾除去活動を再開。</li> <li>・ タジキスタンのドゥシャンベにおいて、障がい者リハビリテーション総合病院への診断・診療機材の供与事業を実施。外務省の助成。7月まで。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビアのメヘバ難民定住地における井戸・土木事業を終了。活動を住民と政府に引き継ぐ。85年より実施。</li> </ul>
6月 6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「美輪明宏チャリティ・リサイタル」開催（東京厚生年金会館）。</li> </ul>
7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2003年度総会（目黒区民センター）。</li> </ul>
7月 9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジア・ラオス・ミャンマー・タジキスタンの駐在員による障がい者支援事業報告会（品川区総合区民会館「きゅりあん」）を開催。50名以上の参加。</li> </ul>
9-16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回「南北コリアと日本のともだち展」を開催（東京都児童会館）。実行委員会の一員として。</li> </ul>
11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビアからのアンゴラ難民の帰還第一陣がメヘバ難民定住地より出発。AARも国連を中心とした帰還計画に協力。</li> </ul>
17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「新垣勉（テノール）チャリティ・コンサート」開催（サントリーホール）。 皇</li> </ul>

		后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。
8月	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み体験「NGOで遊ぼう！2003」を開催（三田フレンズ）。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>タイのバンコクで開かれた第5回地雷禁止条約締約国会合に、事務局長 長 有紀枝と前アフガニスタン駐在員の坪内 南を派遣。</li> <li>タジキスタン北東部において、障がい者連盟ガーム郡支部およびダルバン郡支部への農機具支援事業を実施。外務省の助成。2004年4月まで。</li> <li>タジキスタン東部において、ダルバン郡ヘルスセンター再建支援事業を実施。外務省の助成。2004年7月まで。</li> </ul>
	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際協力 NGO インターンシップ・プログラム」に協力し、外務省から若手職員を研修生として受け入れ。今年度最初の研修生は19日まで。2003年度は計2名を受け入れ。</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>マケドニア・スコピエ事務所閉鎖。</b>同国では医療支援・障がい者支援を行った。これにより10年におよぶ旧ユーゴ地域での活動を終了した。</li> <li>アフガニスタンにおいて、国連アフガニスタン地雷対策センター（UNMACA）と協力し、同国全土で地雷回避教育に使用する教材開発事業を開始。国連地雷対策サービス部（UNMAS）の助成。</li> <li>事務局長 長 有紀枝が退任。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>会の創立から25年目の活動に入ったのを機に、ロゴマークを一新した。“サニーちゃん”的耳をモチーフに、人が手をつなぎ助け合うあたたかい姿をイメージし、親しみやすさと信頼性をアピール。</li> <li><b>アンゴラの首都ルアンダに事務所を開設。</b>駐在員 平野敏夫。</li> </ul>
	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局長 長 有紀枝の後任として、東京事務局の堀江良彰、志澤道子が、事務局長代行に就任。</li> <li>ジャパン・プラットフォーム NGO ユニットの副代表理事団となる。</li> </ul>
	17日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>国税庁より認定特定非営利活動法人の認定を受ける</b>（12月1日より発効）。全国で18番目の認定。</li> <li>第1回きものバザーを夢うさぎと共に催。</li> </ul>
12月	13-14日	

#### 2004（平成16）年

山口県の採卵養鶏場で鳥インフルエンザ／日本の陸上自衛隊をイラクへ派遣／モスクワで地下鉄爆破テロ／スペイン・マドリードで列車を標的にした爆破テロ／アテネ五輪／北朝鮮で列車爆発事故／ロシア学校占拠事件／イチローが最多安打を記録／新潟県中越地震／イラク日本人人質事件／スマトラ島沖大地震／ユーキヤン流行語大賞「チョー気持ちいい」

1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ノースウェスト航空「エアケア－チャリティー・プログラム」の2004年度上半期パートナーに選出される。寄付されたマイレージを海外渡航時に使用。</li> </ul>
2月	8-14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミャンマー・ラオススタディツアー実施。ご支援者・ご協力者の皆さんに参加いただく。</li> </ul>
	28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回きものバザーを実相寺にて、実相寺と夢うさぎと共に催。</li> </ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビアのメヘバ事務所を閉鎖</b>し、20年間の同地での活動を終了。</li> </ul>
	10-22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作人形公募展「ドールファンタジア」をNHK厚生文化事業団と共に催。松屋銀座にて高円宮妃久子殿下ご来臨のもと開会式。その後全国10カ所を巡回。</li> </ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>アンゴラにおいて地雷被害者などの障がい者支援事業を開始。ルンダノルテ州の障がい者を対象に米国のNGOベトナム退役軍人アメリカ基金（VVAF）と現地NGOとの協力のもと実施。</li> <li>ザンビアのルサカおよびその近郊において、HIV/AIDS対策事業（啓発活動）開</li> </ul>

		始。
6日		<ul style="list-style-type: none"> <li>12月にイラン南東部ケルマン州で発生した大地震の被災者の子どもたちに、文房具やTシャツほかを配布。中山耕三さん(NEC テヘラン駐在員事務所主席駐在、テヘラン日本人会副会長)の協力。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>アンゴラの首都ルアンダにおいて、マラリア予防事業を開始。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>創立25周年記念総会</b>。猪口邦子元軍縮会議日本政府代表部(ジュネーブ)大使による記念講演会を同時開催。</li> </ul>
30日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>「天満敦子&amp;池田直樹コンサート～祈り～」開催</b>(サントリーホール)。皇后陛下(現上皇后陛下)ご来臨。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>イオングループが全国の店舗において「地雷をなくそう！キャンペーン」を実施。</b>AARも13店舗にて「地雷教室」を開催。8月31日まで。店頭募金とイオングループ各社からのご寄付をAARの地雷対策事業に。</li> </ul>
7-13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回「南北コリアと日本のともだち展」を開催(東京都児童会館)。実行委員会の一員として。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>アンゴラ北東部ルンダスル州にて地雷回避教育事業を開始。</b>また、住民から地雷・不発弾の埋設情報を集め、この情報を提携する地雷除去団体に提供することにより、地雷除去を促進。このプロジェクトは徐々に活動地域を広げながら、2007年8月まで実施。外務省の助成。</li> <li>北朝鮮へ衣類、菓子ほかを支援。</li> </ul>
21-23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷をなくそう！世界こどもサミット」を滋賀県新旭町と共に催。アフガニスタンから1名、アンゴラから2名、ラオスから2名の地雷・不発弾被害者青年を招聘。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>上記被害者青年をゲストに「国際協力の夏in TOKYO 対人地雷・不発弾被害者青年セミナー」を開催。国立オリンピック記念青少年総合センターにて。100名以上の参加。財団法人三菱銀行国際財団の助成。</li> </ul>
9月	22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野皓正 QUINTET／航空自衛隊航空中央音楽隊チャリティ・コンサート開催(昭和女子大学人見記念講堂)。寛仁親王殿下、彬子女王殿下ご来臨。</li> <li>タジキスタン・ダルバン郡ヘルスセンター再建を支援。2005年7月終了。</li> <li>タジキスタン障がい者連盟ガム郡支部およびダルバン郡支部への農機具支援。2005年4月終了。上記タジキスタン支援は共に外務省の助成。</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>タジキスタン東部において、ラグーン郡中央病院への医療機材供与事業を開始。2005年2月終了。外務省の助成。</li> <li><b>アンゴラのルンダスル州の州都サウリモに事務所を開設。</b>駐在員 平野敏夫。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>きものチャリティ・ファッションショー「コモンズレッズジャパン2004」</b>を同実行委員会と共に催。神田明神にて。きものをリメイクした洋服のネットオークションにおける売上が寄贈される。</li> </ul>
29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>23日に発生した<b>新潟県中越地震</b>を受けて、理事長 柳瀬房子・事務局長代行 堀江良彰ほか計6名が被災地を訪問し、食料品、衛生用品などを配布。また、地震の影響で半壊した知的障がい者の福祉作業所の再建支援も開始。</li> </ul>
11月	16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスにおいて、独立行政法人国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業(パートナー型)として、3年計画で、車いす普及支援事業を開始。2011年5月に国立リハビリテーションセンター車いす工房へ事業を引き継ぎ。</li> </ul>
27日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>創立25周年記念「感謝のつどい」開催</b>(カナダ大使館)。寛仁親王殿下に記念講演を賜る。</li> </ul>
28日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>「対人地雷禁止条約第一回再検討会議」</b>(ケニア・ナイロビ)に東京事務局の加藤</li> </ul>

		美千代、アフガニスタン駐在員 宮崎巧治、ナデル・シャーさん（アフガニスタン不発弾被害者）らを派遣。
12月	20日	・『小型武器よさらば』刊行（柳瀬房子著 小学館）。
	28日	・26日に発生したインドネシア・スマトラ島沖地震によるインド洋大津波を受けて事務局長代行 堀江良彰と東京事務局の大屋直久をスリランカのゴールに派遣。現地のNGOと協力し、食料や飲料水、生活用品などを緊急配布。

## 2005（平成17）年

衆院選で小泉自民党が296議席の大勝／耐震強度の偽装で不安広がる／アスペスト（石綿）被害深刻に／ロンドン・バリ島など各地で大規模テロ／米南部でハリケーン被害／パキスタン大地震／新型インフルエンザの懸念／少年少女をめぐる残虐な事件相次ぐ／ユーキャン流行語大賞「小泉劇場」「想定内（外）」

2月	23日	・中村紘子チャリティ・コンサート開催（東京オペラシティコンサートホール）。皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。
4月	1日	・アフガニスタンで子ども向けの地雷回避教育冊子「ラディィパ」を作成。 ・堀江良彰が事務局長に就任。 ・事務局長 堀江良彰が財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部のスーダン南部における国内避難民の状況調査に参加。 ・札幌（4/10）、舞鶴（4/23）、大阪（4/24）で25周年記念特別活動報告会を開催。 ・スリランカのコロンボに事務所を開設。インド洋大津波被災者への緊急・復興支援を実施。2006年8月まで。
5月	7-8日	・“小型武器よさらば”NGO国際会議 in TOKYOを開催（上智大学四谷キャンパス10号館講堂）。8カ国からのNGO関係者、研究者、ジャーナリストなどのパネリストを含め、のべ600人近くが参加。
	19日	・ミャンマー（ビルマ）のヤンゴン（ラঙ্গ়েন）で、AARが運営する障がい者のための職業訓練校卒業生たちによる理容・美容店「ミヨーゼ」を開店。
6月		・「南北コリアと日本の友だち展」を開催。8月には北朝鮮の平壤で、12月には韓国のソウルで絵画展が開かれ、その後日本各地を巡回。AARからも吉田清美理事と東京事務局の松本理恵が参加。
	25日	・2005年度総会（虎ノ門パストラル）。
7月	1日	・『会社に尽くしますか？社会に尽くしますか？－ワーク・アット・国際協力のススメ』刊行（東京事務局の秋葉佳子、馬場先ゆきのが編集を担当 凡人社）。
8月		・スーダン南部に隣接するケニアの首都ナイロビに事務所を開設。担当 紺野誠二・大屋直久。 ・アフガニスタンで移動映画教室の手法による地雷回避教育活動を開始、このための短編映画「帰郷」を制作。
	19-21日	・AARと社会福祉法人さぼうと21が合同で夏期研修会を開催（静岡県伊豆市）。
10月	8日	・パキスタン大地震。地震発生の2日後に東京とアフガニスタンからスタッフを派遣。被災者に対し、現地の支援団体や関係機関と協力しながら緊急支援物資を配布したほか、被災地域での給水設備の復旧支援も実施。また、緊急支援終了後も、現地団体と協議を継続し、被災した村落での給水設備再整備や、女性の被災者に対する識字教育を実施。2010年5月終了。
11月		・スーダンの首都ハルツームに事務所を開設。
	11月27日	・クロアチアの首都ザグレブで対人地雷禁止条約第6回締約国会議に東京事務局の

-12月1日	紺野誠二と加藤美千代が参加。
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビアのエイズ対策事業の一環として“レッドリボンキャンペーン”を実施。</li> <li>・ アフガニスタンのタハール州ホジャガ郡クリニックで女性診療科を開設。</li> </ul>

## 2006（平成18）年

トリノ五輪／ライブドア事件／記録的大雪／WBC、日本初代王者に／北朝鮮が核実験／サッカーW杯／マンション耐震偽造／安倍政権発足／いじめ自殺や未履修問題／飲酒運転事故多発し厳罰化の動き／イラク内戦状態・元大統領の死刑執行／ジャワ島で大地震／タイでクーデター／ユーキャン流行語大賞「イナバウアー」「品格」など

2月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倉本裕基チャリティ・コンサート開催（東京オペラシティコンサートホール）。</li> <li>・ タジキスタン・タジカバード郡ジルガ达尔郡障がい者連盟強化支援事業を実施。9月終了。</li> <li>・ 外務省による「国際協力 NGO インターンシップ・プログラム」に協力し、外務省の若手職員を研修生として受け入れ。</li> <li>・ 副理事長 加藤タキがザンビアを訪問。エイズ対策事業を視察。</li> </ul>
2月 19日 -3月 2日	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タジキスタンのヌラバード郡で地域住民の健康改善プロジェクトを実施。巡回診療、保健医療キャンペーンの開催、基本医療機材の提供を行った。8月終了。外務省の助成。</li> </ul>
25-29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジアへ3泊5日のスタディツアーを実施。AARが運営するキンクリエン障がい者支援センターや不発弾除去の現場訪問などを行い、支援者14名が参加。同行者は東京事務局の松本理恵。</li> </ul>
4月 7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマトラ島沖大地震とパキスタン大地震の緊急支援報告会を開催（青山学院大学青山キャンパス）。</li> </ul>
28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICBL（地雷禁止国際キャンペーン）初代コーディネーター、ジョディ・ウィリアムズさんを招き、カナダ大使館と共に記念講演会を開催（カナダ大使館）。</li> <li>・ アフガニスタンの地雷回避教育映画第2弾「我が祖国」を制作。</li> <li>・ 東京三菱UFJ銀行より寄贈された女性職員用制服35,000点（ジャケット、ブラウス、ベスト、パンツ、スカートなど）をラオスの視覚障がい者学校などへ寄贈。</li> </ul>
6月 15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラオス事業報告会を開催（JICA地球ひろば）。</li> </ul>
17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2006年度総会（虎ノ門パストラル）。副理事長 加藤タキによるザンビア視察報告会を開催。</li> </ul>
7月 17-23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーダン南部カポエタでの水衛生・保健事業を開始。</li> <li>・ 理事長 柳瀬房子と副理事長 伊勢崎賢治がアフガニスタンの現場を視察。</li> </ul>
8月 18-20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AARと社会福祉法人さぼうと21が合同で夏期研修会を開催（静岡県伊豆市）。</li> <li>・ スリランカでのすべての事業を現地NGOに引き継ぎ終了。</li> <li>・ スーダンで地雷回避教育事業を開始。</li> </ul>
31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スリランカ事務所を閉鎖。活動は現地NGOに引き継ぎ。</li> </ul>
9月 23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「天満敦子チャリティ・コンサート」開催（東京オペラシティコンサートホール）。特別ゲストにさだまさしさんを迎える。皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。</li> <li>・ ミャンマー（ビルマ）で障がい者による栄養改善事業開始。</li> </ul>
10月 3-16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月に勃発した紛争を受け、レバノンに調査チームを派遣。事務局次長 馬場先ゆきの、東京事務局の松本理恵、柴崎大輔を現地へ派遣し調査活動。</li> <li>・ カンボジア事業を現地化。2つのカンボジアNGO「障がい者のための職業訓練」（Association for Aid and Relief Vocational Training for the Disabled (AAR</li> </ul>

	VTD))と「発展への車いす」(Association for Aid and Relief Wheelchair for Development (AAR WCD)) が誕生。
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースウィーク日本版 (2006年10月18日号) 「世界が尊敬する日本人100人」に、相馬雪香会長が選ばれる。</li> <li>パキスタン北西辺境州のガリハビブラ周辺にて、給水設備の復旧と整備支援を実施。</li> <li><b>レバノンの首都ベイルートに事務所を開設。不発弾・地雷回避教育を開始。</b>駐在員 柴崎大輔。レバノン南部ナバティエ県アイタ・シャープ村において不発弾・地雷回避教育を実施。具体的には、宗派を超えた参加者を募り、自分たちの生活する地域の地雷や不発弾の知識を共有できる住民ネットワークを組織化した。また、住民ネットワークを通じて、レバノン国内で地雷や不発弾の回避教育に実績のあるランドマイン・リソースセンターや国連機関などの協力を得て講習会を実施した。また、住民ネットワークが主体になり、地域の地雷や不発弾の情報を収集し、写真やイラストで誰にも分かりやすい教材を作成し配布した。2007年5月末まで。</li> </ul>
7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールドマン・サックス証券株式会社の社員ボランティアの皆さんによる手作りの巾着80枚に玩具などを詰め、ミャンマーの知的・身体的障がい児へ配付。</li> </ul>
12月 6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの首都ルサカで地元住民や団体と世界エイズデーに啓発イベントを開催。</li> <li>カンボジア活動報告会を開催 (青山学院大学)。報告者: 東京事務局の坪井ひとし、加藤美千代。</li> <li>「地球規模問題に取り組む国際議員連盟」(PGA=Parliamentarians for Global Action) の第28回世界総会にて、平和と民主主義の推進に貢献した個人に対し授与される「民主主義擁護賞」を、相馬雪香会長が受賞。日本人初。</li> </ul>

#### 2007 (平成19) 年

「不二家」「赤福」などの偽装相次ぐ／年金記録漏れ5千万件／北の核無力化合意で共同文書／中国産品から毒性物質／新潟中越沖地震／安倍首相突然退陣／ミャンマー(ビルマ)で反政府デモ／郵政民営化スタート／守屋前防衛次官逮捕／ユーキヤン流行語大賞「どげんかせんといかん」「ハニカミ王子」

2月 16日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>由紀さおり・安田祥子チャリティ・コンサート開催</b> (サントリーホール)。高円宮久子妃殿下ご来臨。</li> <li>地雷啓発映像「地雷ではなく花をください」を制作。東京都内の4カ所の街頭ビジョン(有楽町マリオンビジョン、渋谷109フォーラムビジョン、原宿アストロ、池袋IMビジョン)にて放映。</li> </ul>
3月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>タジキスタンで株式会社フェリシモより寄贈された260個のハッピートイズを首都ドゥシャンベの2つの孤児院と養護施設で、駐在員 戸賀竜郎が子どもたちに手渡した。</li> </ul>
4月 11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンゴラのサウリモで「地域主体の地雷対策活動」セミナーをUNICEFと開催。</li> <li>スーダン駐在員の高崎紀子による地雷対策活動報告会を開催 (大井町・きゅりあん)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーダン中央部カドグリで地雷回避教育スタート。駐在員 横田憲治。2011年6月まで。北部政府軍と反政府勢力間の激しい銃撃戦により活動を中断。</li> <li><b>レバノン事業終了。</b></li> <li>2004年の停戦を受け、帰還民が多く暮らすアンゴラのモシコ州ルエナにて、帰</li> </ul>

		還民が技術習得を行うためのトレーニングセンターを運営する帰還民グループ (PAEVT) への支援を開始。2011年3月までに、6カ月間の裁縫コースを3回にわたり開催。約100名の参加者が裁縫技術を身につけ経済的自立への道を開拓。2011年3月終了。
6月	17日	・ 2007年度総会 (虎ノ門パストラル)。
	19日	・ アンゴラ駐在員 名取郁子 (現理事) による地雷対策活動報告会を開催 (早稲田大学西早稲田キャンパス)。
	22-29日	・ 谷川真理理事・地雷廃絶キャンペーン大使がスーダンの現場を訪問。 ・ タジキスタンのガルム郡、ダルビラ郡障がい者団体能力強化プロジェクトとして養蜂事業を実施。2008年6月末終了。
7月		・ <b>南スーダンの東エクアトリア州で、地域の基本的な保健環境を向上させるため、基礎保健事業を開始。</b> カポエタに3棟の簡易診療所を建設し、運営を支援。産婆の研修も開始。
8月		・ <b>スーダン南部カポエタ (現・南スーダン) に事務所開設。</b> 帰還民支援 水・衛生、保健事業開始。内戦終結後の生活の基礎となる給水設備を整備するため、ポンプ井戸30基 (カポエタ南郡15、カポエタ北郡5、ロバ郡10) を建設し、住民による管理能力強化のため井戸管理委員会の設置・井戸修理技術者研修を実施した。同時に、衛生教育ボランティア育成を通じた公衆衛生・マラリア予防教育、簡易トイレ建設用機材の提供、3つの村で簡易診療所の設置、約8000張の蚊帳配布を行った。カポエタ南郡の住民・帰還民 約198,000人、カポエタ北郡南部の住民・帰還民 約80,000人、ロバ郡東部の住民 約115,000人。(2015年12月終了)
9月	7-8日	・ 地雷対策イベント「六本木ヒルズ チャリティ・リレーTALK&LIVE 地雷ではなく花をください～地雷原に生きる子どもたちより～」開催 (六本木ヒルズアリーナ)。ゲスト・谷川真理理事、SAPATOSさん、森川淑子さん、西本梨江さん、六本木男性合唱団俱楽部さん、中井貴恵さん、荒井泰子さん、日野皓正さん、天満敦子さん、MALTAさん、ほか。高円宮妃殿下ご来臨。
		・ アンゴラで提携する現地NGO (CAPDC) に地雷回避教育と地雷・不発弾埋設情報の提供活動を引き継ぎ、支援を継続。その後、現地NGOの能力が強化され、独自で活動の資金調達や運営ができるようになったため、2011年3月にて支援活動を終了。
10月	13日	・ 日野原重明さん、城みさをさん、相馬雪香会長3名による「 <b>今世紀最年長、96+95+94=285 talkイベント</b> 」開催 (全電通ホール)。
11月		・ <b>アンゴラ事務所閉鎖。</b> 現地NGOを通した支援に。
		・ カンボジア・障がい者のための職業訓練校にITコースを新設。アクセンチュア株式会社の助成金。
		・ ザンビアでエイズ対策クラブの学生たちと「エイズ対策クラブ対抗ディベート大会」を開催。
12月	1日	・ 外務省と共に開催された人地雷禁止条約 (オタワ条約) 署名10周年記念シンポジウム開催 (海運クラブ)。
		・ ザンビアの首都ルサカで地元住民や団体と世界エイズデーに啓発イベントを開催。
	3日	・ <b>山形由美チャリティ・コンサート開催</b> (横浜みなとみらいホール)。
		・ アフガニスタンのタカール州カラフガン郡の療養所に女性診療科を開設し、より多くの女性患者が安心して診療が治療を受けられるよう、女性スタッフを雇用。

2008（平成 20）年

米リーマン経営破綻、全世界金融危機／次期米大統領にオバマさん当選／麻生内閣誕生／北京五輪／ノーベル賞に日本人計4さん／ゴルフ17歳石川、賞金1億円／中国製ギョーザに殺虫剤混入／厚生年金、給与記録改ざん相次ぐ／ユーキャン流行語大賞「グ～！」「アラフォー」

3月	<ul style="list-style-type: none"><li>タジキスタンのラシュト地域にて、地域住民の医療環境改善事業を実施。地域の中心的医療施設であるラシュト郡中央病院へ、胃内視鏡装置、超音波エコー、ポータブル撮影用 X 線装置などの基本的医療機材を供与。また、郡内全 14 地区にて住民向けワークショップを開催し、地域住民の保健医療に対する理解向上、地域の医療施設に対する認知向上を目指した。病気の予防法についてわかりやすく書かれたパンフレットをワークショップ参加者 1,996 名に配布した。2009 年 2 月終了。</li><li>スーダン（東エクアトリア州）で水衛生事業開始。2009 年 4 月まで。</li></ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"><li>ジャパン・プラットフォーム NGO ユニットの代表幹事団体となる。2011 年 3 月まで。</li><li>アフガニスタンのタカール州の理学療法クリニックの運営を、協力団体であるスウェーデンの NGO 「SCA」 に移管。</li></ul>
5月 8日	<ul style="list-style-type: none"><li>ザンビア駐在員 芦田崇によるエイズ対策活動報告会を開催（早稲田大学）。</li><li>2 日深夜から 3 日早朝に <b>ミャンマー（ビルマ）で発生したサイクロン「ナルギス」による被害</b>を受けて、東京事務局の野際紗綾子を現地に派遣し、食料や飲料水、ビニールシートなどの緊急支援物資を約 19,000 世帯に配付。</li></ul>
19日	<ul style="list-style-type: none"><li>ミャンマー・サイクロン緊急支援「ミャンマー・サイクロン被害緊急支援 緊急帰国報告会」（虎ノ門フォーラム）開催。</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>ラオスの首都ビエンチャンにある障がい児のための福祉施設、「バンセンスックセンター」への支援を開始。（2015 年 3 月まで。）</li><li>アフガニスタン全土の公立学校で AAR 作成の教材により地雷回避教育を、国連と共同で開始。</li><li>アフガニスタンで地雷回避教育のためのラジオ番組を制作・放送。</li></ul>
17日	<ul style="list-style-type: none"><li>国際人権シンポジウム「途上国における障害者の人権～障害を持つ人びとの自立支援を目指して～」を開催（早稲田大学小野記念講堂）。アフガニスタン、ミャンマー（ビルマ）、ラオスから 4 名の関係者を招へいして報告を行う。</li></ul>
21日	<ul style="list-style-type: none"><li>2008 年度通常総会（東京都庭園美術館）で、新理事長に長 有紀枝が選任される（7 月 1 日付け就任）。</li><li>総会後に同会場で、アフガニスタン、ミャンマー（ビルマ）、ラオスの駐在員 4 名による障がい者支援活動報告会を開催。アクセントチャウの助成金。</li></ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"><li>ミャンマー・サイクロン「ナルギス」被災者復興支援として、被災地の 130 の村を訪問し、保健医療、栄養改善、および障がい者支援事業を実施。</li><li>スリランカにて、現地 NGO であるモチベーション・チャリタブルトラスト・スリランカ（Motivation Charitable Trust Sri Lanka）とスリランカ障がい者リハビリテーション財団（SLFRD, Sri Lanka Foundation for the Rehabilitation of the Disabled）の協力のもと、北部ワニア県の国内避難民キャンプや、南東部モナラガラ地域を中心に、障がい者や地雷被害者へ、車いすや松葉杖などの補助具を配付。</li><li>社会福祉法人さぼうと 21 と共に夏期研修会を開催（静岡県伊東市）。</li></ul>
5-7 日	

	19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフガニスタン駐在員の青木真理子によるアフガニスタン地雷対策活動報告会を開催 (JICA 地球ひろば)。</li> </ul>
10月	3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラオス駐在員 岡山典靖（現理事）によるラオス活動報告会を開催 (JICA 地球ひろば)。ラオス車いす工房長も招へいして報告を行う。</li> </ul>
	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>AAR おかげさまで 30周年記念チャリティ・コンサート「中村紘子とN響の仲間たち」開催。</b>皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。</li> </ul>
11月	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>第4回沖縄平和賞受賞。</b></li> </ul>
	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>相馬雪香会長 逝去（96歳）。</b></li> </ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タジキスタン駐在員の角谷亮によるタジキスタン活動報告会を開催（学習院女子大学）。</li> </ul>
	24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カブル事務所、治安悪化により、日本人駐在員を置かず、現地スタッフのみでの運営に切替え。</li> </ul>
12月	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>財団法人尾崎行雄記念財団とともに「相馬雪香先生を追悼し感謝する会」実行委員会を組織し、同会を憲政記念館で開催。</b>天皇・皇后両陛下（現上皇・上皇后両陛下）をはじめ、常陸宮殿下、三笠宮殿下、寛仁親王殿下、高円宮妃殿下の各家からご供花を賜る。皇后陛下、寛仁親王殿下ご来臨。麻生太郎首相、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長らもご出席。</li> <li>・ 「相馬雪香先生を追悼し感謝する会」実行委員会構成団体</li> <li>・ 認定 NPO 法人 難民を助ける会 財団法人 尾崎行雄記念財団</li> <li>・ 社会福祉法人 さぼうと 21 NPO 法人 一冊の会</li> <li>・ NPO 法人 経済人コー円卓会議日本委員会 NPO 法人 鴟堂香風</li> <li>・ 社団法人国際 IC 日本協会 日韓女性親善協会</li> <li>・ 日本退職女教師連合会 日本タンザニア友好協会</li> <li>・ 社団法人 日本動物福祉協会 日本レソト王国友好協会</li> </ul>

## 2009（平成 21）年

雇用不安の拡大／WBC、日本2連覇達成／定額給付金の実施／新型（ブタ由来）インフルエンザ、パンデミック発令／高速道路、ETC 利用により土日祝日が上限 1000 円に／北朝鮮、長距離弾道ミサイルの発射と核実験の実施／マイケル・ジャクソン急死／衆院選で鳩山民主党が 308 議席獲得し、民主党連立政権発足／ユーキヤン流行語大賞「政権交代」

	1月 29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30周年記念シンポジウム「南部スーダン復興の現状と課題」を開催（国立オリンピック記念青少年総合センター）。第一部は栗本英世さん（大阪大学大学院 人間科学研究科 教授）による基調講演と南部スーダン駐在員の中村芳治による基調報告、第二部はアラン・リードさん（駐日米国大使館 元米国国際開発庁（USAID）ジュバ事務所所長、岸守一さん（UNHCR 駐日事務所副代表）、栗本英世さん（大阪大学大学院人間科学研究科教授）、隅俊之さん（毎日新聞社外信部記者）、杉尾透さん（外務省アフリカ第一課事務官・スーダン班長）をパネリストとしてパネルディスカッションを行った。</li> </ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミャンマー・サイクロン「ナルギス」復興支援として、障がいがあってもなくてもともに支え合いながら暮らしていくことのできる社会を目指して、リハビリの提供や、普通学校への就学支援、生計支援やユニバーサルデザインの推進などの、地域に根ざした、障がい者の身体的・精神的・社会的なリハビリ活動を開始。</li> </ul>
2月 1日 -3月 31日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>イオングループが地雷・クラスター爆弾廃絶キャンペーンを実施。</b>全国の店舗で集まった募金に一般財団法人イオン 1% クラブからのマッチングを加えた金額を AAR の地雷対策事業に。キャンペーンの一環として北海道から沖縄まで全国のジ</li> </ul>

		ヤスコ 9 店舗で「地雷教室」を開催。
3月	19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「スレブレニツァ —あるジェノサイドをめぐる考察—」理事長 長有紀枝の書籍出版。東信堂。</li> </ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地雷・クラスター爆弾をなくそう！子どもサミット」を開催 (KBS ホール)。イオン 1% クラブと共に催。</li> </ul>
	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流サロン「語り合おう、地雷問題！～地雷被害者とともに～」開催 (学習院女子大学)。</li> </ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009 年 4 月末以降、パキスタン北西部の治安悪化により被害を受けた診療所の機能が回復するまで、臨時の簡易診療所を設置し、国内避難民や帰還民に対し、無料で医療サービスを提供。10 月末まで。</li> </ul>
	22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『地雷に奪われた夢 車いすがくれた希望』刊行 (扶桑社)。</li> </ul>
	30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミャンマー・サイクロン活動報告会、「移行期正義の現状と課題」セミナー報告 (東京ウィメンズプラザ)。</li> </ul>
5月	16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事長 長有紀枝・副理事長 加藤タキ対談イベント「新しい世界へ、新しい自分へ」を NPO 法人新現役ネットと共に催 (女性と仕事の未来館)。</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミャンマー・サイクロン「ナルギス」被災者復興支援として、農業、畜産業、漁業などで生計を立てていた人々に種もみ、家畜、漁網などを提供して、生計の立て直しを支援。「ナルギス」被災者復興支援は 2010 年 8 月をもって終了。</li> </ul>
	13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009 年度 30 周年記念総会 (日本青年館) で柳瀬房子が会長に就任。</li> <li>・ 同総会で、活動の重点分野を「緊急支援」、「障がい者支援」、「地雷・不発弾対策」の 3 分野から、エイズやマラリアの「感染症対策」、国内での「啓発」を加えた 5 分野に。</li> </ul>
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウガンダにおいて、ウガンダ地雷被害者協会 (ULSA) と協力し、地雷・不発弾被害者の支援事業を開始。ウガンダ北部の地雷・不発弾被害者の所得創出活動を支援。</li> </ul>
	15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 谷川真理理事・地雷廃絶キャンペーン大使が外務大臣表彰を受賞。</li> </ul>
	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AAR 創立 30 周年／天満敦子デビュー 30 周年記念「天満敦子ヴァイオリン・チャリティ・コンサート」開催 (サントリーホール)。ゲスト・さだまさしさん。天皇皇后両陛下 (現上皇上皇后両陛下) ご来臨。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スリランカ北部ワニア州において、現地 NGO の Community Trust Fund と協働し、内戦による未亡人や地雷被害者の生計活動を支援。カゴ・かばん作りやミシン、家畜などの提供を通じて、内戦からの復興を後押しした。スリランカにおける内戦後の障がい者、地雷被害者支援は 2011 年 3 月をもって終了。</li> </ul>
9月	6-26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフガニスタンの治安悪化に伴い日本人が駐在できないことから、アフガニスタン事務所の現地スタッフ、ヤマ・ハカミを日本に招き研修を行った。</li> </ul>
	20-27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副理事長 加藤タキがミャンマー (ビルマ)・ラオスを訪問。復興支援活動と障がい者支援活動を視察。</li> </ul>
10月	2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月 26 日にフィリピンを直撃した台風 16 号による記録的豪雨と洪水被害を受けて、事務局次長 大西清人と東京事務局の広谷樹里を現地に派遣。被害の大きかったリサール州カインタの障がい者支援施設「タハナン・ワラン・ハグダナン (TWHI)」の利用者や職員 (7 割が障がい者) の 375 世帯に、砂糖など食料を含む生活物資を配布。また、マットレスがないと寝ることのできない障がい者のために、50 枚のマットレスを届けた。2010 年 8 月終了。</li> </ul>
	4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月 30 日に発生したインドネシア・スマトラ島沖地震による被害を受けて、東京事務局の野際紗綾子と穂積武寛を現地に派遣。震源地近くで最も被害の大きか</li> </ul>

		った地域のひとつである西スマトラ州パダン市にある障がい児も通う学校 10 校と協力し、565 世帯（約 2,800 人）に、食糧や生活物資を配布。2010 年 2 月終了。
16 日		・ フィリピン台風・スマトラ島沖地震被災者支援緊急報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
23 日		・ <b>創立 30 周年記念ライブ&amp;トーク「JAZZ for Peace 2009 小川理子カルテット with 伊勢崎賢治」開催</b> （SOMEDAY TOKYO）。
31 日		・ 副理事長 加藤タキによるラオス・ミャンマー（ビルマ）視察報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
11 月		・ ラオスの不発弾被害者への医療費・生計支援を開始。
2 日		・ <b>創立 30 周年記念イベント開催</b> （文京シビックセンター）。ベトナム・カンボジアから難民として来日した、グエン・ティ・ジャンさん、ヴ・ダン・コイさん、久郷ポンナレットさんが難民としての体験を語ったほか、元岩手県葛巻町長の中村哲雄さん、車いす陸上競技世界大会金メダリストでバリアフリーコンサルタントの鈴木ひとみさん、タレントのルータ大柴さんをゲストに招いてパネルディスカッションを行った。
11 月 29 日 -12 月 4 日		・ 「 <b>対人地雷禁止条約（オタワ条約）第 2 回再検討会議</b> 」（コロンビア・カタルヘナ）に、東京事務局の青木真理子、北スーダン駐在員の大豆本由紀を派遣。外務省枠で谷川真理理事が参加。
12 月 5-6 日		・ <b>第 4 回沖縄平和賞受賞記念活動報告会「走れる喜びを世界に」開催</b> （おきでんきふれあいホール・沖縄県那覇市）。谷川真理理事の講演とマラソンのアドバイスも実施。

#### 2010（平成 22）年

参院選挙で民主党が大敗。ねじれ国会に／宮崎県で口蹄疫の被害が拡大／観測史上最高の猛暑／ノーベル化学賞に根岸、鈴木両さん／チリ鉱山落盤事故／北朝鮮の指導者に金正恩さん／欧州の財政危機。ギリシャからアイルランドに波及／通貨安競争が激化。先進国と新興国が対立／中国の民主活動家、劉曉波さんにノーベル平和賞／ユーキヤン流行語大賞「ゲゲゲの」

1 月	12 日	・ 写真家の横田徹さんとアフガニスタン事業担当の青木真理子による上映会＆ミニトークセッション「戦場カメラマン×国際 NGO 紛争がもたらすもの～アフガニスタンの“戦場”より～」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
	22 日	・ 北スーダン駐在員 大豆本由紀と山浦遼によるスーダン活動報告会「スーダンの地雷問題の今～日本人駐在員が現地の最新状況を報告します～」開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
	25 日	・ 12 日に発生した <b>ハイチ地震</b> を受けて、事務局次長 大西清人、東京事務局の五十嵐豪、フォトジャーナリスト川畠嘉文さん、デスマンド・モロイ・ハイチ専門家を現地に派遣。支援物資を緊急配布。ポルトープラン市やその周辺の被災地で、特に支援が十分に届いていない貧困地域や障がい者世帯を中心に、のべ 13,400 世帯に食糧・生活必需品・防水シートを配布した。4 月 30 日終了。
2 月	1 日	・ <b>ハイチ地震緊急支援チャリティ・コンサート開催</b> （東京タワー大展望台）。日系米人ヴァイオリニストであるアヤノ・ニノミヤさんの提案に、日米から天満敦子さん（ヴァイオリン）、クリストファー・モロイ（ピアノ）、きむらみかさん（ヴォーカリスト）、岡崎ゆみさん（ピアノ）、麻倉未稀さん（ポップシンガー）、憲美和さん（ピアノ）、ブルース・スタークさん（ピアノ）、小川和隆さん（十弦ギター）の計 9 名の音楽家が出演。

	18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局次長 大西清人と東京事務局の五十嵐豪、フォトジャーナリスト川畠嘉文さんによるハイチ地震緊急支援活動報告会を開催 (AAR3F 会議室)。</li> </ul>
3月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ハイチ地震緊急支援チャリティ・コンサート開催</b> (東京タワー大展望台)。</li> </ul>
	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>加藤タキ・チャリティサロンコンサート</b>」開催 (JT アートホール アフィニス)。</li> <li>第1回ゲスト：<b>XUXUさん（アカペラユニット）</b>。</li> </ul>
	20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡田克也外務大臣によるハイチ緊急支援事業地視察。</li> </ul>
4月	6-16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーダン総選挙の日本政府選挙監視団へ、スーダン・ハルツーム事務所駐在員 大豆本由紀が参加。</li> </ul>
	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際医療福祉大学の河野眞・医療専門家（現理事）とタジキスタン駐在員の角谷亮による報告会＆交流会「知られざる国タジキスタンでの挑戦～障がい者を取り巻く環境と中央アジア文化の魅力～」開催 (ミズホビル 3FAAR 会議室)。</li> </ul>
	15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ラオス北部シェンクワンに事務所を開設</b>。駐在員 山下祐美子、林曜子。(2014年7月、事業終了に伴い閉鎖。)</li> </ul>
	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビア駐在員の芦田崇による活動報告会「エイズの脅威に地域で立ち向かおう～ザンビアにおける HIV/エイズ対策活動～」を開催 (ミズホビル AAR3F 会議室)。</li> </ul>
5月	20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2010年度 NGO 相談員」受託。外務省が創設した NGO や一般市民からの NGO や国際協力に関する照会や相談などに対応する制度。</li> </ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフガニスタン活動報告会「被害者が地雷問題への取り組みと体験を語ります」を開催 (ミズホビル 3FAAR 会議室)。不発弾被害者でカブール事務所スタッフのナデル・シャーと、同事務所スタッフのバシール・アーゼルが来日し報告。</li> </ul>
6月	5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年度総会 (ミズホビル 3FAAR 会議室)。</li> </ul>
7月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ハイチ・ポルトープラン市およびその近郊で、障がい者を中心とする地震被災者への教育・医療支援事業を開始</b>。ポルトープラン市内最大規模の障がい児・障がい者支援施設である聖ビンセント校の仮設教室建設、また障がい児のための養護施設であるメリッサズ・ホープの修繕など、震災の影響で損壊した児童養護施設、学校および障がい者施設を再建し、必要な資器材を提供することで、子どもたちが安心して生活し、学べる環境を整備した (2013年1月31日終了)。また聖ビンセント校仮設クリニックの建設・運営支援とメリッサズ・ホープ臨時巡回診療により、障がい者を含む被災者の医療サービスやリハビリテーション施設のアクセス向上に寄与した。理学療法センターでは仮設施設を建て、資器材を供与したことで、障がい者を含む被災者が理学療法を受けられる環境を整えた (2011年7月終了)。</li> </ul>
	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月23日～25日および7月30日～8月1日の計6日間、<b>イオン店舗で「なぐそう！クラスター爆弾キャンペーン」を開催</b> (イオン浦和美園ショッピングセンター)。</li> </ul>
	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>加藤タキ・チャリティサロンコンサート</b>」開催 (JT アートホール アフィニス)。</li> <li>第2回ゲスト：<b>西本梨江さん（ピアノ）</b>。</li> </ul>
8月	3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオス駐在員の岡山典靖によるラオス活動報告会「車イスが運んでくれた未来」を開催 (JICA 地球ひろば)。</li> </ul>
	3-15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真展「ハイチから、明日へ。－ハイチ大地震の記録－」を開催 (JICA 地球ひろば)。約1,500人参加。</li> <li>・※以後、2011年3月まで4か所で写真展巡回展を実施。合計約2,153人参加。</li> </ul>
	5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマー駐在員の久保田和美による活動報告会「サイクロン被災から2年…ミャンマー（ビルマ）の今」を開催 (ミズホビル AAR3F 会議室)。</li> </ul>

6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月下旬から続く豪雨による<b>同国過去最大規模のパキスタン洪水</b>の被災者への緊急支援を決定。事務局次長 大西清人を現地に派遣、続き 3 名の職員からなる緊急支援チームを派遣し支援活動を実施。8月 26 日～10月 25 日までに、ハイバル・パフトゥーンハーパー州ノウシェラ郡とチャルサダ郡で、被災したのべ 2,000 世帯へ食料や生活必需品を配付。ハイバル・パフトゥーンハーパー州ノウシェラ郡、パンジャブ州ムザファルガル郡、シンド州サッカール郡では、被災者のべ 62,899 人へ巡回診療および固定診療チーム計 12 チームによる基礎医療サービスを提供了。また、12月 1 日～2011年 6 月 24 日には、ハイバル・パフトゥーンハーパー州ノウシェラ郡にて、水害被害の大きかった 4 村で越冬のための生活必需品を配付。また、洪水被害を受けた同郡の学校 10 校で施設の清掃、修繕を実施し、机、いすなどの資器材を供与。2011 年 6 月終了。</li> </ul>
11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイチ活動報告会「被災から復興へ ハイチの明日を見つめる」を開催 (JICA 地球ひろば)。ハイチ緊急支援チームに参加し現地入りしたフォトジャーナリスト川畠嘉文さんをはじめ、東京事務局の堀越芳乃、加藤亜季子が報告。約 36 名参加。</li> </ul>
20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局次長 大西清人による「パキスタン洪水被災者支援活動報告会」を開催 (ミズホビル 3FAAR 会議室)。22 名参加。</li> </ul>
25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの小学生対象イベント「みんなで学ぼう！世界のこと、地雷のこと」を開催 (ミズホビル 3FAAR 会議室)。約 38 名の親子が参加。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオス中部 2 県で協力団体とともに保健医療担当者を対象に、地域の障がい者へ必要な補助具や医療サービスを提供できるよう指導。また、<b>北部シェンクワン県で、クラスター爆弾を含む不発弾被害者支援事業を開始</b>。地域の村落保健ボランティアを対象に、応急処置や医療施設までの搬送を行えるよう研修し、救急キットを配付。2014 年 6 月終了。</li> <li>ハイチ大地震で親を亡くした子どもたちなどが暮らす児童養護施設や障がい者施設で、現地の団体と協力し、首都ポルトープランスにある約 37 カ所の児童養護施設で巡回診療を開始。また、ハイチで猛威をふるったコレラから身を守るため、巡回診療先の施設に、浄水剤やコレラを発症した場合に脱水症状を和らげる経口補水塩などを配付。施設の職員と子どもたちにコレラの予防方法についてのパンフレットやポスターを使ってコレラ予防講座を実施。2011 年 6 月終了。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャリティ・コンサート「1+100 本あらため 235 本のトランペット大集合」開催 (サントリーホール)。秋篠宮同妃両殿下 (現皇嗣殿下・皇嗣妃殿下) のご来臨賜る。</li> </ul>
5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「『目黒から世界へ行こう』NGO の事務所で世界を体験しませんか？」を姉妹団体の社会福祉法人さぼうと 21 とともに開催 (ミズホビル AAR3F 会議室)。約 80 人参加。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイチ・ポルトープランス市の養護施設、障がい者施設において、コレラ予防のための衛生教育支援を開始。2013 年 1 月終了。</li> <li><b>ミャンマー (ビルマ) サイクロン「ギリ」緊急支援を実施</b>。ミャンマー事務所駐在員 久保田和美に、東京から派遣した 2 名の職員を加えた支援チームを結成。食料や生活必需品などの緊急支援物資を 6,000 世帯に配付したほか、主要な農業、漁業を再開できるよう土手の修復支援などを実施。2011 年 3 月終了。</li> <li>株式会社イングラム (加藤勉社長・AAR 理事) の呼びかけにより集まった約 3 万枚の T シャツ、子ども服と段ボール 9 箱分の文房具を、ハイチの首都ポルトープランスの養護施設や学校で子どもたちに配付。</li> <li>スーダン駐在員 伊藤洋子によるスーダン南部活動報告会「スーダンの健やかな明</li> </ul>
1日	

		日のために～過酷な今を生きる「いのち」を守る～」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。29 名参加。
13 日		・ スーダン南部活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
17-18 日		・ APDF (Asia Pacific Disability Forum) 会议（アジア太平洋障害者フォーラム）総会（バンコク）に支援事業部長 名取郁子と東京事務局の五十嵐豪が参加。
11 月 2 日		・ タジキスタン活動報告会「障がい者の可能性を広げるために～タジキスタンで活動する日本唯一の NGO が目指すもの～」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。河野眞・医療専門家と東京事務局の杉浦公則が報告。
9-12 日		・ 「第 1 回クラスター爆弾禁止条約締約国会議」（ラオス・ビエンチャン）にラオス駐在員 岡山典靖、福岡幹彦、山下祐美子、東京事務局の堀越芳乃、太田夢香の 5 名と、AAR のラオス人職員 4 名が参加。
13-15 日		・ CBR (Community-Based Rehabilitation 地域に根差したリハビリテーション) ガイドライン会議（クアラルンプール）に東京事務局から野際紗綾子と林早苗、ミャンマー事務所より現地職員 2 名が参加。
17 日		・ ザンビア駐在員 山井美香によるザンビア活動報告会「ザンビアの人々とエイズに立ち向かう」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
12 月		・ タジキスタンで最大の障がい当事者組織である障がい者連盟本部の施設を整備し職業訓練コース、障がい者（児）ケア講習会、社会福祉セミナーを開催。また、障がい者家庭訪問や日本人専門家によるセミナーを開催し、障がい者福祉制度やリハビリテーションの必要性など、障がい者の生活を向上させるために有用な情報を提供した。2011 年 10 月終了。
19 日		・ 「加藤タキ・チャリティサロンコンサート」開催（JT アートホール アフィニス）。第 3 回ゲスト：アヤノ・ニノミヤさん（ヴァイオリン）、恵美和さん（ピアノ）、小川和隆さん（十弦ギター）、岡崎ゆみさん（ピアノ）、きむらみかさん（ボーカル）、南久松真奈さん（語り）、戸川藍山さん（尺八）。収益はハイチ支援に。
20 日		・ ハイチ活動報告会「ハイチ最新事情 駐在員が語る、ハイチの今」とハイチ写真展（12/13-12/24）を開催（世界銀行情報センター）。フォトジャーナリスト川畠嘉文さんほかによる写真を展示。約 50 人参加。

### 2011（平成 23）年

東日本大震災と福島第 1 原発事故／野田内閣誕生／サッカー女子が世界一／野田首相が TPP 交渉参加を表明／八百長問題で大相撲春場所中止／北朝鮮の金正日総書記が急死／欧州の財政危機拡大／南スーダンが独立／中東に民主化の波／タイで大洪水／ニュージーランド地震／米アップル創業者ジョブズさんが死去／ユーキャン流行語大賞「なでしこジャパン」

1 月 7-30 日		・ ハイチ写真展を開催（JICA プラザ兵庫ロビー）。約 400 名が参加。
21 日		・ ミャンマー緊急報告会「サイクロン「ギリ」が残した爪跡」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。
22 日		・ <b>スリランカ洪水緊急支援を実施。</b> 緊急支援チームとして東京事務局から五十嵐豪と小林通孝を現地に派遣。24 日には林早苗が合流し、支援を実施。2 月 27 日までに、東部 3 県（トリンコマリー県、バッティカロア県、アンパラ県）で計 1,604 世帯（約 8,000 人）に食料および生活必需品を配付して終了。
2 月 11 日		・ ハイチ活動報告会「被災から復興へ ハイチの明日を見つめる」と写真展（2/11 ~2/23）を福岡のツイン・アート・ギャラリー開催。約 123 名参加。
26 日		・ ハイチ活動報告会「被災から復興へ ハイチの明日を見つめる」と写真展（2/26 ~3/12）を広島のフェアトレードカフェ・パコ（共催：NPO 法人ピースビルダ

		ーズ）で開催。約 80 名参加。
3月	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリランカ洪水支援緊急活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。現地で支援にあたった東京事務局の小林通孝が報告。</li> <li>・アンゴラでの支援活動を終了し、連携して活動してきた現地 NGO (CAPDC) へ地雷対策事業を移管。</li> </ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>東日本大震災発生。</b> 13 日には最初の緊急支援チーム、加藤勉理事、東京事務局の野際紗綾子、杉澤芳隆ほかが東京を出発。直後より 2012 年 2 月 29 日までに、のべ 1,606 カ所、約 180,000 人に支援物資を配付。</li> </ul>
	14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>仙台事務所を開設。</b></li> </ul>
	19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>巡回診療・保健活動 :</b> 在宅避難者の多い宮城県牡鹿半島の住人約 640 人を対象に地元の安田敏明医師を中心とした医療チームによる巡回診療と、慢性疾患の診察や感染症の予防、精神的なサポートなどの保健活動を実施。9 月 18 日までに、のべ 817 名を診察。また、8 月 10 日から 9 月 15 日には宮城県石巻市の仮設住宅にて 387 名に看護師による巡回訪問を実施。地元の医療機関の回復を受けて、9 月 30 日に活動を終了。</li> </ul>
	30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>盛岡事務所を開設。</b></li> </ul>
	31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し：株式会社イングラムが実施する「ピースプロジェクト」と共同で、2012 年 1 月 31 日までに宮城県と岩手県の避難所など、のべ 73 カ所で約 25,000 食の炊き出しを行った。</li> </ul>
4月	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>「被災地へ温泉を運ぼう」プロジェクト :</b> 万葉俱楽部株式会社、株式会社アセンティア、神奈川県の湯河原温泉などご協力で、宮城県東松島市で 4 カ所の避難所に配湯。4 月 12 日からは宮城県の鬼首温泉のご協力で、東松島市と石巻市の 6 カ所へ日曜日を除く毎日配湯し、1 日 500～600 人の被災者の方々が入浴。5 月 31 日終了。</li> </ul>
	10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>巡回バスの運行 :</b> 大型バスが通行できなくなった宮城県牡鹿半島で、被災された方々の交通の便を確保するため、小型車両による巡回バスサービスを提供。荻浜地区ではのべ 530 人、鮎川地区ではのべ 220 人の方が利用。交通網の復旧が進み、震災前の運行車両が通行可能となったため 6 月 4 日終了。</li> </ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>障がい者・高齢者施設の修繕支援 :</b> 被災地の障がいのある方々が昔からの仲間に再会し、活動や仕事を再開できるよう、地元の建設会社と協力して、71 カ所の障がい者・高齢者施設で建物の修繕や機材の提供を実施した。</li> </ul>
	26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災緊急支援報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）</li> </ul>
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パキスタンのハイバル・パフトゥンハー州ノウシェラ郡にて、国内避難民、アフガニスタン難民およびその受け入れ地域の住民の生活環境を改善するため、小学校の再建と整備、井戸の設置および病院への医療資器材の供与を実施。国内避難民、アフガニスタン難民への支援は 2016 年 1 月末まで継続。</li> <li>・<b>コンテナハウスプロジェクト :</b> 国際ジャーナリストの菅原出（いづる）さんを発起人として、組み立て式で設置の容易なコンテナハウスを被災地におくるプロジェクトを実施。宮城県牡鹿郡女川町、南三陸町、気仙沼市、山元町、岩手県陸前高田市などに 57 棟を設置した。仮設住宅に入るまでの仮住居や、店舗・事務所などとして活用された。大崎八幡宮の協力。</li> <li>・<b>福島県の仮設住宅・借り上げ住居に入居する全世帯への生活必需品支援 :</b> 福島県内の仮設住居・借り上げ住居に入居する全世帯を対象に、NPO 法人 ADRA Japan と共同で、台所用品、入浴用品、掃除機、こたつ机、食器棚などの生活必需品を支援した。AAR の対象区域は福島県の浜通りと中通りを合わせて 13 市町村（相</li> </ul>

		<p>馬市、南相馬市、新地町、飯館村、富岡町、川内村、郡山市、須賀川市、鏡石町、白河市、西郷村、矢吹町、泉崎村)。警戒区域の含まれる自治体で、支援要請のあった南相馬市、富岡町では、県外避難者へも支援した。可能な限り地元の商店および商工会を通じて物資を調達し、2012年3月31日までに、22,599世帯へ配付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>福島県相馬市の子どもたちの精神的ケア</b>: NPO法人「相馬フォローアーチーム」(臨床心理士、精神保健福祉士、保健師を含む計6名で構成)による、相馬市内の被災小中学校および幼稚園での、生徒・児童および保護者への精神的なケア活動を支援。学校での心のケア活動に加え、仮設住宅における児童・生徒の生活状況を把握するために、2011年10月より2012年3月まで、相馬市内13カ所の仮設住宅1361世帯を全戸訪問した。子どもたちの様子や保護者の悩みなどを伺い、問題を早期に発見し対応できるよう努めた。</li> </ul>
5月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>「手作りトートバッグで被災地を応援しよう」プロジェクト</b>: 被災地の避難所や高齢者施設からの声を受け、手作りのトートバッグと応援メッセージを募集し、AARのメインキャラクター「サニーちゃん」のぬいぐるみストラップをボランティアがバッグに一つひとつ取りつけ、被災地で配付した。バッグはもちろん中に入ったメッセージも被災地で大変喜ばれた。第1回目の募集では、2011年5月1日～20日までに国内外から約5,000袋が届いた。大好評につき募集を再開。2011年10月～11月14日までに2,781枚が集まり再配付した。第3回目の2012年10月1日～11月30日までに集まったものも合わせると総計10,543枚となった。バッグは被災者の方々のお買い物や子どもたちの通学などに活用されている。</li> </ul>
	20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>チャリティ・コンサート「故郷」開催</b> (東京オペラシティコンサートホール)。姉妹団体の社会福祉法人さぽうと21と共に、被災地支援のチャリティ・コンサート「故郷」を開催。コンサートの収益とご寄付により、岩手県と宮城県の8つの小中高校および吹奏楽連盟に49種類227点の楽器(3,500万円相当)を寄贈した。</li> </ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>東日本大震災緊急復興支援チャリティ・コンサート開催</b> (学習院女子大学やわらぎホール)。ボサノバユニットのサパトスと、ブラジル音楽専門のピアニスト・鈴木厚志さんをお迎えてのコンサート(加藤タキ・第4回チャリティ・サロンコンサートより名称を変更)。収益は、東日本大震災で被災した方々の支援活動に。</li> </ul>
6月	3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラオス・車いす支援活動報告会を開催 (JICA地球ひろば)。現地で7年にわたり活動を行ってきた岡山典靖、作業療法士の福岡幹彦の両駐在員が、これまでの活動を振り返り、「11年間の試行錯誤の取り組みとその成果」について報告。</li> </ul>
	14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>衛生活動</b>: 宮城県石巻市と南三陸町の避難所25カ所の約1,000人を対象に、地震発生以来、避難所で長期間使用され汚れた布団や毛布、マットレスの天日干しを行ったほか、夏場になりハエや蚊が大量発生し、衛生環境が悪化した避難所で大掃除などを実施。布団乾燥機、掃除機、除湿機や掃除用品、防虫剤、殺虫剤(ハエ取りリボン、ダニアースなど)の配付や使用方法の指導を行うほか、古く汚れた布団は回収し、夏季用タオルケットや新品寝具を配付。また、冷蔵庫のない避難所には、食中毒を防ぐために冷蔵庫も提供。8月31日終了。</li> </ul>
	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2011年度(平成23年度)通常総会を開催 (AAR事務所3F会議室)。</li> </ul>
7月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>南相馬市への給食支援</b>: 福島第一原子力発電所の災害の影響で児童・生徒数が増えた鹿島区の学校に通う児童・生徒(約2,800名)を対象に、2011年7月1日から22日まで「野菜ジュース」と「お米」を提供した。野菜ジュースは全児童・</li> </ul>

		生徒に週2回提供、お米は毎日の給食に使用する計2トンを支援した。また、鹿島区の学校へ給食を配給する車両が不足しているため、2011年8月23日から2012年2月29日まで、車両の提供を行った。
9日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>「地域みんなで元気になろう」プロジェクト</b>：宮城県と岩手県沿岸部の被災地域で、障がい者や高齢者、個人宅での生活者、仮設住宅入居者などを対象に、マッサージと健康体操や傾聴活動、地域交流イベントを実施している。</li> </ul>
14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>南スーダン共和国が独立。</b></li> <li>・ 南スーダン活動報告会「世界でいちばん新しい国で」を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。南スーダン 駐在員 角谷亮、豊井彰一が、肌で感じた独立前後の情勢や支援活動について報告。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>南スーダン・白ナイル州コスティで地雷回避教育事業を再開。</b> 南コルドファン州カドグリで行われていたが、治安悪化のため中断していた。</li> <li>・ <b>東アフリカ地域に広がる干ばつ支援の調査のため、緊急支援チーム</b>として支援事業部長 名取郁子、東京事務局の五十嵐豪、河野洋、フォトジャーナリスト川畠嘉文さんをケニアに派遣。15日にはケニア東部の町ガリッサで、最初の食料配付を実施。高齢者、障がい者、干ばつの影響で移動してきた遊牧民などのうち、特に支援の届いていない520世帯へ、1世帯につき、米5kg、とうもろこし5kg、砂糖1kg、食用油1リットルを水汲み用バケツに詰めて配付した。</li> </ul>
4日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休み・小中学生向け体験教室「東日本大震災 みんなで考えよう 被災地のために私たちができること」を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。親子31名参加。</li> </ul>
5日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>チャリティ・コンサート「心のコンサート&lt;希望&gt;」開催</b>（仙台市青年文化センター）。被災者の方々に無料でコンサートをお楽しみいただいた。</li> </ul>
13-15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹団体の社会福祉法人さっぽうと21の研修会「被災地の現場からー私たちの理解・実践を考える夏」（東京・国立オリンピックセンター）に職員4名が参加。難民、在日外国人などとの交流を促進し、職員の在日難民問題についての認識を深めた。</li> </ul>
24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東アフリカ地域干ばつ緊急支援活動報告会を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。現地から帰国した五十嵐豪と河野洋が、干ばつと食料危機に苦しむ人々の姿、必要な支援について報告。</li> </ul>
26-30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議」（韓国・釜山）に東京事務局の加藤亜季子と小川祐子が参加。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スリランカ洪水の被災者へ、スリランカ障がい者リハビリテーション財団（SFLRD）と協力し、車いすを36名に、子ども用車いすを4名、手漕ぎ三輪車を10名、杖を20名、歩行器とマットレスを各1名、計72名に配付。</li> </ul>
4日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めぐろさんまつりに合わせ、「めぐろNGOまつり2011」を開催（ミズホビル3FAAR会議室）</li> <li>・ 東日本大震災活動報告会を「めぐろNGOまつり2011」の中で開催。AAR仙台事務所で支援活動にあたった岡山典靖が、これまでの支援活動と、現地の最新の状況について報告。</li> </ul>
7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>チャリティショー「和芸・話芸」開催</b>（東京オペラシティコンサートホール）。ゲストに大鼓の大倉正之助さん、落語家の三遊亭円楽さん、古今亭志ん輔さん、三遊亭金八さん、そして歌舞伎役者の中村梅玉さんをお迎えし、日本の伝統芸能に親しみながら被災地の方々を応援するショーを開催。純益は、東日本大震災とハイチ大地震で被災した方々の支援活動に。</li> <li>・ 東アフリカ干ばつ緊急支援チームは、ソマリアとの国境に近いケニアのダーダープ</li> </ul>

		難民キャンプに、学校の教室として使用するテント 15 張を設置。12 日には黒板や、文房具などの学用品を届けた。
9 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフガニスタン人スタッフによる活動報告会「地雷と闘った 10 年とこれから」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。9.11 アメリカ同時多発テロ事件から 10 年、アフガニスタンでの地雷対策活動も 10 年を迎えたのを機に、来日した AAR カブール事務所のスタッフ 5 人が、世界有数の地雷汚染国であるアフガニスタンの地雷問題の現状と支援活動について報告。</li> </ul>
10 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>タジキスタン南西部のバクシュ郡にある国内で唯一の車いす工房「ディルショッド」への支援を開始。</b> 2013 年 12 月終了。</li> </ul>
5 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>六花亭製菓株式会社と協力し、秋冬限定のチャリティチョコレートを発売開始。</b> 3 月 31 日まで。以後、毎年継続中。</li> </ul>
8 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>車両の提供：</b>津波で送迎用の車を失った福祉施設や自治体に、計 44 台を届けた。</li> <li>・ 東アフリカの干ばつから逃れてきた人々が多く集まるケニアの町バナネで、支援の行き届いていない人々を対象に、約 500 世帯に緊急支援物資を配付。（配付物資の内容は米 10 キロ、スペゲッティ 2 キロ、小麦粉 3 キロ、豆 3 キロ、砂糖 1 キロ、塩 500 グラム、食用油 1 リットル、トマト缶、茶葉、バケツ、ポリタンク、女性用生理用品、石鹼 3 つ、ビニールシート。）</li> </ul>
20 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>上海で東日本大震災復興支援コンサート「希望」開催</b>（蘭心大劇院）。中国の上海で東日本大震災復興支援コンサート「希望」を共催。上海在住の日本人ボランティアグループ「互人多（フレンド）」（代表：進士薰さん）が中心となり、コンサート実行委員会（実行委員長：上海マイツ諮詢有限会社董事長 池田博義さん）を結成し主催。音楽家 8 人が無償で出演。副理事長の加藤タキが司会を務めた。</li> </ul>
26 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 23 日に発生したトルコ大地震を受け、太田夢香、近内みゆき、宮崎 淳の 3 名を現地へ派遣。被害の大きかったワン県ワン市内のディベクデュズ村とギヨリュ村で食料や生活必需品などの緊急支援物資を 161 世帯に配付（ジャパン・プラットフォームの助成）。</li> <li>・ ラオス不発弾対策活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。駐在員で看護師の山下祐美子と駐在員 林曜子が、不発弾事故が多く発生している北東部のシェンクワン県で行う、不発弾の被害者を減らすための取り組みについて報告。</li> <li>・ <b>福祉作業所商品の販路拡大支援</b>：東日本大震災により販売先も被災し販路が絶たれた福祉作業所 37 施設を対象に商品の販路開拓のための支援を実施。</li> <li>・ <b>福島県内外へ自主避難している妊産婦への支援</b>：放射能汚染による健康被害の不安を抱える乳幼児や妊産婦を含む家族に対し、きめ細かいサポートを行う「福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト」（船田クラーセンさやか代表）を支援した。福島県から東京都、宮城県へ避難した 7 世帯へヒーターやホットカーペット、加湿器などをお届けしたほか、福島県内外に住む乳幼児へ玩具 160 個、ぬいぐるみ 110 個を提供した。</li> </ul>
11 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケニア北西部ガリッサ県のダニエレ郡ヤハスレーの村で、干ばつによる避難民約 500 世帯を対象に支援物資を配付。（配付物資の内容（1 世帯あたり）は米 10 キロ、スペゲッティ 2 キロ、小麦粉 3 キロ、豆 3 キロ、砂糖 1 キロ、塩 500 グラム、食用油 1 リットル、トマト缶 2 個、茶葉、バケツ、ポリタンク、女性用生理用品、石鹼 3 つ、ビニールシート 1 枚。）</li> </ul>
2 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トルコ東部ワン県で 10 月 23 日の大地震に続き再度マグニチュード 5.7 の地震が発生し AAR スタッフの宿泊していたホテルが倒壊。東京事務局の宮崎 淳さんが逝去。同 近内みゆきは負傷した。一時、支援活動を休止。（12 月 14 日再開）。</li> </ul>
10 日		

19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>カンボジアのトンレサップ湖周辺地域における水害</b></li> <li>・ の被災者へ緊急支援物資を配付（ジャパン・プラットフォームの助成）。長引く水害の影響により生活が困窮している3,000世帯を対象に、食料・生活必需品を配付した。さらに840世帯を対象に、野菜の種および栽培に必要な農具を配付し、人々が限られた資源を最大限に活用し効率的で効果的な栽培ができるよう、栽培研修を併せて実施した。2012年4月終了。</li> </ul>
11月 28日	
-12月 2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンボジアのプノンペンで開催された第11回対人地雷禁止条約締約国会議に職員3名が参加。事務局次長 大西清人、ラオス駐在員 山下祐美子、東京事務局の山田かおりが参加。AARの活動を紹介するとともに、地雷対策に取り組む諸団体と意見交換を行った。</li> </ul>
11月 29日	
-12月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィリピン・マニラで開催された、地域に根差したリハビリテーション（CBR）の国際会議に東京事務局の杉浦公則、ラオス駐在員 太田夢香、タジキスタン現地スタッフ ハリモフ・フィルズが出席。AARが実施している職業訓練校事業や車いす支援事業などについて講演し、障がいのある方々が社会へ参加する必要性を広く訴えた。</li> </ul>
11月 30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケニアのムインギ県キューソ郡のマセキとキセウニで、干ばつ被災者のうち、特に高齢者、障がい者がいる世帯を優先しながら、食料と生活用品を約500世帯に配付。</li> <li>・ 東日本大震災活動報告会を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。石巻市牡鹿半島の東浜地区で災害対策本部長を務められた豊島富美志さんをお迎えし、震災直後の牡鹿半島の様子、物資調達の苦労、AARとの関わり、復興への歩みなど、ご自身の経験を語っていただいた。また、東北事務所長 野際紗綾子もAARの支援活動について報告。</li> </ul>
12月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>釜石出張所を開設。</b></li> <li>・ <b>「まごころキャンペーン」</b></li> <li>・ :六花亭製菓株式会社のご協力により誕生したAARチャリティショコラートを、被災地で配付する分もご購入いただき、ご購入いただいた方からの直筆メッセージを添えてAARが直接被災者の方々へお届けするというキャンペーン。2011年12月から2014年3月までに6,452個のお申し込みをいただき、岩手県、宮城県、福島県の仮設住宅や福祉施設、保育所などで配付した。</li> </ul>
14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トルコ地震緊急支援活動を再開。2011年末から、支援物資をワン県内の1,575世帯に、児童・園児1,052名に冬服や靴、通学かばんを配付。また共同パン焼き小屋24棟を設置。2012年2月終了。</li> </ul>
17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>「加藤タキ・チャリティサロンコンサート」開催</b></li> <li>・ (JTアートホール アフィニス)。第5回ゲスト：永井公美子さん（ヴァイオリン）、上村文乃さん（チェロ）、特別ゲストとして外山啓介さん（ピアノ）。純益は、ラオスやアフガニスタン、スーダンなどで行う地雷・不発弾対策活動に。</li> </ul>
18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事長 長有紀枝が新著『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』を出版（中央公論新社）。</li> </ul>
21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハイチ活動報告会「大地震から2年—今子どもたちは」を午前と午後の2回に分けて開催（ミズホビル3FAAR会議室）。未だに復興が進まないハイチで、今求められている支援と今後の課題について、ハイチ駐在員 中村啓子が報告。</li> </ul>

2012（平成24）年

米大統領選でオバマさんが再選／ミャンマー議会補選でスーチーさん当選／シリア内戦が泥沼化／スペインがユーロ圏に金融支援

要請／ノーベル生理学・医学賞に山中教授／東京スカイツリー開業／尖閣国有化で日中関係悪化／金環日食、932年ぶり広範囲観測／ユーキャン流行語大賞「ワイルドだろぉ」

1月	24日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ カンボジア水害緊急支援活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。緊急支援チームの園田知子が、被災地の状況やこれまでの支援活動、今後の課題などについて報告。</li></ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>ケニア東部キツイ県ムトモ郡で安全な水を供給する事業を開始。</b> 乾季でも枯れない約 54m の深さの井戸から水を汲み上げ、のべ約 17km のパイプラインを通して 4 カ所の販売所に水を送る仕組みを作った。この仕組みにより、住民は水販売所で安全な水を購入することができ、その売り上げは、井戸から水を汲み上げるモーターの燃料費や修繕費に充てられる。地域の方々が長期的に活用できるよう、売り上げや設備の管理を行う水管理委員会も販売所ごとに設置した。2012 年 10 月完成。</li></ul>
	24日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ トルコ地震緊急支援活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。地震直後に現地で緊急支援活動にあたった東京事務局の太田夢香と近内みゆき、最新の被災地の状況を知る事務局次長 大西清人と東京事務局の藤本矩大がこれまでの活動内容を報告。</li></ul>
	27日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東日本大震災活動報告会を開催（学習院女子大学 235 教室）。被災地の障がい者が置かれた現状や AAR のこれまでの支援および福島での活動について東北事務所長 野際紗綾子、東京事務局の堀越芳乃、直江篤志が報告。また、被災した福祉作業所所長の畠山光浩さんが、震災から今日までの障がい者の状況とこれからを報告。また日本障害フォーラム（JDF）幹事会議長の藤井克徳さんが基調講演。</li></ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>ラオスの首都ビエンチャンで障がい者の社会参加促進支援事業を開始。</b> ラオス障がい者支援団体（LDPA）と連携し、バリアフリーの促進を通じた障がい者の生活環境の改善と障がい者の収入向上のための小規模起業支援が主な柱。障がい者のための多機能センターの建設、キノコ栽培とレストラン経営の研修など。2013 年 4 月 30 日終了。</li></ul>
	21日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 南スーダン活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。現在南スーダンで行った井戸掘削や給水システムの建設、衛生教育、簡易診療所の運営支援と保健ボランティアの育成などについて、独立直後に赴任した駐在員 梅田直希が報告。</li></ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>相馬事務所を開設。</b></li></ul>
	1日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「加藤タキ・チャリティサロンコンサート」開催（JT アートホール アフィニス）。<b>第 6 回ゲスト：後藤泉さん（ピアノ）、特別ゲストとして晴雅彦さん（バリトン歌手）。</b> 純益は、東日本大震災被災地をはじめ、ミャンマー（ビルマ）、ラオス、カンボジア、アフガニスタン、タジキスタン、ハイチなどで行う障がい者支援活動に。</li></ul>
	4日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 福島活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。相馬事務所の横山恵久子が、相馬で被災した当時のことや支援活動について、また福島でいま何が問題なのかを報告。また、AAR が支援している団体のメンバーをゲストに招き、福島の県外に避難されている方々の状況について報告。</li><li>・ アフガニスタンで、女性スタッフによる成人女性向けの地雷回避教育を開始。これに先立ち 2012 年 3 月に、これまで男性職員が行っていた講習会を女性が行えるよう、女性の現地職員 2 名を採用。昨年 1 年間で約 100 名だった成人女性の参加者数が 2012 年 4 月から 6 月までの間だけで 254 名に達した。</li></ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ トルコ東部ワン市内の聴覚障がい児が通うドゥュシュ教育・リハビリセンターへ</li></ul>

	教材を配付。以後、スマイル・プロジェクトとして実施。2013年11月末終了。
16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年度通常総会（国連大学エリザベス・ローズ会議場）。</li> <li>総会後、<b>相馬雪香生誕100周年記念シンポジウム「女性と国際協力」開催</b>（国連大学ウ・タント国際会議場）。第一部はパネリストに山下真理さん（国連広報センター〈UNIC 東京〉所長）、貴島善子さん（外務省国際協力局政策課企画官）、嶋田実名子さん（花王株式会社サステナビリティ推進部長 兼 社会貢献部長）、村田早耶香さん（NPO 法人かものはしプロジェクト共同代表）の4名を迎える。より複雑になる国際関係の中で、女性だからこそできる国際協力について話し合った。第2部は「民主主義と女性の力」と題し、地雷禁止国際キャンペーン大使、ノーベル平和賞受賞者であるジョディ・ウィリアムズさんが基調講演を行った。</li> <li>難民支援のみならず、国内外での災害の被災者、障がい者、地雷被害者など、世界各地で活動の幅が広がったことから、団体名「難民を助ける会」に関し英語略称の「AAR Japan」を積極的に使用することにし、ロゴマークも一新した。</li> </ul>
19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャリティ・コンサート「鼓童と和太鼓の仲間たち それぞれの祭り音—まつりねー」開催（サントリーホール）。日本ロレックス株式会社の協力を得て、世界的な太鼓芸能集団である「鼓童」が出演。被災地に暮らす女川潮騒太鼓団会と日本航空高等学校 太鼓隊の皆さんも参加。純益はすべて AAR の東日本大震災復興支援活動に。日本ロレックス株式会社が特別協賛。来場者 1,400 人。</li> </ul>
7月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>パキスタン活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。パキスタンに逃れているアフガニスタン難民キャンプの現状、2011年春から開始した難民キャンプ支援、そして難民受け入れ地域における教育および医療支援について、駐在員 澤井信明が報告。28名参加。</li> </ul>
22-23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回「西会津ワクワク子ども塾」を開催（ロータスイン/国際芸術村・福島県耶麻郡西会津町）。福島の子どもたちが避難生活によるストレスや運動不足を解消し、自然の中で楽しく遊べるよう、福島県須賀川市の20名を招待し、自然体験ワークショップを行った。2019年現在も継続して開催。</li> </ul>
8月 8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミャンマー障がい者支援活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。AAR が現地で行う障がい者自助組織の支援や CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)事業、職業訓練事業について駐在員 林早苗が報告。39名参加。</li> </ul>
9月 11-14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第3回クラスター爆弾禁止条約締約国会議」（ノルウェー・オスロ）に東京事務局の堀越芳乃とラオス駐在員 山下祐美子がオブザーバーとして参加。会議のサイドイベントにおいて、堀越と山下は AAR の被害者支援活動について発表。</li> </ul>
13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「忘れないで 3.11 震災から 553 日目に贈るコンサート」を開催（サントリーホール）。ヴィオラの今井信子さん、ヴァイオリンの岩田恵子さんが出演。皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。日本ロレックス株式会社が特別協賛。来場者 1,300 人。</li> </ul>
26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大統領派と反体制派との戦闘を逃れてトルコに流入している<b>シリア避難民の支援</b>のため、事務局次長 大西清人、フォトジャーナリスト川畠嘉文さんをトルコに派遣。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災被災地の福祉事業所商品の販路拡大支援で、株式会社アクセンチュアと協力して商品開発支援を開始。</li> </ul>
3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの首都ルサカ近郊のチババ地域に建設した、HIV 検査とカウンセリングのための専用施設（VCT センター）の完成式典。</li> </ul>
9日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>トルコ南部ハタイ県でキャンプ外に住むシリア避難民への食糧・生活必需品の配付を開始。</b>配付物資の内容（1世帯あたり）は米 2 キロ、マカロニ 2 キロ、小麦粉 5 キロ、ヒヨコ豆 2 キロ、レンズ豆 1 キロ、砂糖 2 キロ、塩 750 グラム、ひ</li> </ul>

		まわり油 1 リットル、トマトペースト缶 1 キロ、ブルグル（挽き割り小麦）1 キロ、牛乳（常温保存可能なもの）1 リットル、ヘルワ（練りゴマを使ったお菓子）700 グラム、毛布 2 枚、タオル 4 枚、洗剤 1 キロ、紙おむつ 4 セット、女性用生理用品 8 パック、石けん 1 キロ。
22 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シリア難民緊急支援活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。緊張が高まるシリア・トルコ国境付近の状況や、AAR の支援活動、今後の課題などについて事務局次長 大西清人とフォトジャーナリスト川畠嘉文さんが報告。</li> </ul>
26-30 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ APDF 会議（アジア太平洋障害フォーラム）（韓国・仁川）に東北事務所長 野際紗綾子、東京事務局の加藤亜季子が参加。AAR の東日本大震災被災者支援活動について報告した。</li> </ul>
11 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「スマイル・プロジェクト」第 2 弹として、トルコ・ワン市内のタハ教育リハビリセンターの車いすを必要とする 23 名の子どもたちに車いすを配付。同センターにリハビリ用の機器を届けた。</li> </ul>
14 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフガニスタン地雷対策活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。AAR カブール事務所より 3 名の現地スタッフが来日し、地雷対策事業の最新情報を報告。アフガニスタン各地で開催している地雷対策授業の実演を中心に、2012 年 4 月から開始した成人女性向けの啓発活動などについても報告。</li> </ul>
15-17 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）の開催に先立って開かれた高級実務者会合（ブルキナファソ）に東京事務局の林曜子が出席し、市民社会としての提言を伝えた。</li> </ul>
15-29 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者と高齢者インクルーシブな防災・減災会議（タイ・バンコク）に東北事務所長の野際紗綾子が参加。災害と障がい者についての基調講演を行った。</li> <li>・ ラオスの首都ビエンチャンで、障がい者の社会参加促進支援事業として現地障がい者団体（LDPA）と協力し建設した、障がい者のための多目的センターをオープン。</li> </ul>
16 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンポジウム「人道支援と危機管理」を開催（立教大学と共に）。紛争や自然災害という危険の中で行われる人道支援活動を行う職員の安全をいかに確保し、どこまで支援の前線を伸ばしていくべきか。これからの人道支援とその危機管理のあり方を考えた。渡部正樹さん（国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所長）、加藤安孝さん（日本赤十字社医療センター国際医療救援部 元 AAR）をパネリストに迎え、パネルディスカッションを行った。</li> </ul>
26-27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）国際会議」（インド・アグラ）に、東京事務局の北 朱美と山本祐一郎、ミャンマーの現地職員ヘー・マー・アウンが参加し、AAR がミャンマーで実施している CBR 事業を紹介した。</li> </ul>
27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビア活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。看護師資格を持つ駐在員 永井萌子が一時帰国し、支援する子どもたちの声や、ザンビアでのエイズ問題の現状、現地での支援活動などについて報告。</li> </ul>
28 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケニア水支援活動報告会を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。一時帰国した駐在員 松本理恵と高城大吾が、ケニアの人々の深刻な水事情や、支援活動の成果などを報告。</li> </ul>
12 月 13 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハイチ活動報告会「まだ終わっていないもうひとつの震災復興 ハイチ大地震からもうすぐ 3 年」を開催（ミズホビル 3FAAR 会議室）。駐在員 平間亮太が、首都ポルトープランスで、援助から取り残された子どもたちや障がい者への支援を中心に、緊急支援から復興・開発支援までつながる活動について報告。</li> </ul>
17-19 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四代目江戸家猫八さんと民謡歌手の皆さん「民謡人震災復興支援有志の会」によ</li> </ul>

る公演を岩手県で開催。2013年1月に宮城県、2・6・10・11月に福島県でも開催。

## 2013（平成25）年

ローマ法王フランシスコ誕生／中国・習近平国家主席に選出／富士山が文化遺産に／英キャサリン妃が男児出産／2020年夏季五輪・パラリンピック開催地が東京に／伊豆大島土石流災害で死者35人／超大型台風30号がフィリピン直撃／南アのマンデラ大統領死去／ユーキャン流行語大賞「今でしょ！」

- |     |  |
|-----|--|
| 1月  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ザンビア・ルサカ州のクリニック2カ所で抗HIV薬の服薬支援を開始。</li><li>・ 株式会社アクセンチュアと「アートクラフトデザインアワード」を実施。2013年年2月まで。東北の障がい者福祉事業所で作ることができ、使う人にとっても心地よい商品を作ることを目的としたデザインを公募。選ばれた5点を宮城県と福島県の4つの事業所が製造し、2014年2月からアッシュコンセプト株式会社が「equalto（イクオルト）」というブランド名で一般販売。</li><li>・ <b>スーダンにてマラリア・リーシュメニア事業開始。</b>12月まで。</li></ul>   |
| 2月  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ケニア・ガリッサ県の5つの村で給水設備の修繕と井戸の新設を開始。2013年11月まで。住民約5,200人が乾季でも水不足に苦しむことなく暮らせるようになる。</li><li>・ <b>ハイチで衛生環境改善事業を開始。</b>ポルトープラン市内カルフル地区の小学校計13校が対象。トイレや手洗い設備などの整備、衛生教育の推進を行う。2015年3月まで。</li></ul>  |
| 14日 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ トルコ・ハタイ県でシリア難民に対し、緊急支援物資の配付に加えて、教育支援および障がい者支援を開始。ハタイ県のシリア難民に食糧・生活必需品の配付を開始。</li></ul>  |
| 23日 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ イオン株式会社と一般財団法人イオン1%クラブが、東北の復興・活性化の一環としてグループ60社約8,000の店舗・事業所で「障がい者ものづくり応援募金」を実施。寄せられた募金に一般財団法人イオン1%クラブがマッチング寄付。3月11日まで。</li></ul>   |
| 3月  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ トルコ・ハタイ県内の障がいのあるシリア難民に車いす、松葉杖などを配付。またトルコ語がわからないため、トルコの学校で教育を受けることができないシリア難民の子どもたちを支援するため、ハタイ県のシリア人小学校に教科書や文具を送るとともに、同県の別の地域のシリア人小学校の設立も支援し教科書、通学かばん、文具を届けた。</li><li>・ <b>「天満敦子東北ツアー＆東京公演」を開催。</b>ヴァイオリニンの天満敦子さんとピアノの吉武雅子さんをお迎えして22日から25日にかけて岩手県陸前高田市、大船渡市、宮城県女川町、福島県南相馬市、福島市で連日、被災者を無料招待してリサイタルを開催した。29日にはチャリティ・コンサート「天満敦子・ヴァイオリン・リサイタル『明日に繋ぐ祈り』」を開催（浜離宮朝日ホール）し、皇后陛下（現上皇后陛下）にご来臨賜る。純益はすべてAARの東日本大震災復興支援活動に。日本ロレックス株式会社が特別協賛。</li></ul> |
| 9日  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 東日本大震災から2年活動報告会「これからも東北とつながるためにー支援の現場から見た被災地の今」を開催（プレスセンターホール・東京都千代田区）。現地で活動を続けてきた東北事務所長 野際紗綾子、相馬事務所の横山恵久子、東京事務局・東北事業担当の直江篤志が、さまざまな困難に立ち向かう被災地の方々の今の姿と現在の活動を報告。特別ゲストはAARと一緒に被災地を回り笑顔と</li></ul>  |

		元気を届けている四代目江戸家猫八さん。被災した障がい者施設で作られた商品の販売会も同時開催。
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>トルコ・シャンルウルファ県シャンルウルファ市に事務所を開設。シリア難民への物資配布、教育支援、障がい者支援を実施。</li> <li>盛岡市立病院と協働し、避難生活で起こりがちなエコノミークラス症候群（避難者血栓症）や生活不活発病の予防検診・早期治療活動を開始。カタール フренд基金の助成（2014年6月終了）。</li> <li>盛岡事務所を盛岡連絡所に変更、郡山連絡所を開設。</li> <li><b>カンボジアに駐在員事務所を開設（再開）。</b>障がい児のためのインクルーシブ教育事業を開始。首都プノンペン特別市およびその周辺地域で、障がいの有無に関わらず学べる環境を整えることにより、障がい者の社会参加を促進するための事業を開始。</li> <li>「キラーロボット反対キャンペーン（Campaign to Stop Killer Robots）」発足。AARが運営委員として参加。</li> </ul>
9日		<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「南スーダン生活4年目 現場から支援のあり方を考える」を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。駐在員 角谷亮が水・衛生事業について報告。</li> </ul>
15日		<ul style="list-style-type: none"> <li>タジキスタン活動報告会を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。駐在員 中川善雄が車いす工房や障がい者支援について報告。</li> </ul>
22-26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社リコーの新入社員向け社会貢献活動実習に協力し、新入社員6名を受け入れ。東日本大震災の被災地訪問も。</li> </ul>
5月 1日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ケニアで3月から続く大雨で洪水が発生したことを受け、ケニア水害緊急支援を実施。ケニア赤十字ガリッサ支部と協力し、北東州ガリッサ県ガリッサ市内およびAAR活動地周辺の避難民キャンプなどで支援物資を配付。食糧はケニア赤十字やケニア政府が支給し、AARは生活必需品に限定して配付。配付物資の内容（1世帯あたり）はプラスチックシート1枚、毛布2枚、蚊帳2枚、石鹼2個、10リットルのポリタンク2個。5月末終了。</li> </ul>
30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソノダバンド×AAR Japan スペシャルライブ&amp;トーク『僕らが旅したアフリカ』」を開催（マウントレーニヤホール渋谷）。</li> </ul>
6月 2日		<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「地雷被害者・元少年兵が作るアフリカの未来」を開催（横浜国際平和会議場）。第5回アフリカ開発会議（TICAD）の公式サイドイベントとして開催。ウガンダ地雷被害者協会（ULSA）代表・地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）大使として国内外を奔走するウガンダのマーガレット・オレチさんによる基調講演の後、かつて少年兵で現在はAARスーダン事務所の職員であるジョセフ・ダリオがビデオ・インタビューで登場し、自らの経験を語った。シンポジウム後半では国際協力機構（JICA）国際協力専門員の小向絵里さん、国際開発ジャーナル社編集委員の中坪央暁さん、お茶の水グローバル協力センター特任講師の福井美穂さんをパネリストに迎えてパネルディスカッションを行った。</li> </ul>
6日		<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急報告会「どうなる？シリア難民の子どもたち」を開催（ミズホビル3FAAR会議室）。東京事務局の景平義文がトルコ南部の難民支援について報告。</li> <li>IRC（International Rescue Committee）とのパートナーシップ枠組み協定書に署名。</li> </ul>
18日		<ul style="list-style-type: none"> <li>トルコ・キリス県でシリア難民へ物資配布、障がい者支援実施。</li> </ul>
22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>2013年度通常総会（ミズホビル3FAAR会議室）。</li> </ul>
7月 4日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ミャンマー・パアン事務所を開設。地雷対策活動と被害者支援を開始。</b></li> <li>7月～8月にかけての大雨を受けて、ミャンマー洪水被災者緊急支援を実施。被</li> </ul>

		害が甚大な南東部カレン州パアン地区のラインブエ川周辺で、パアン事務所を拠点に、支援の手が届いていない計 19 の村の 705 世帯にコメや衛生用品（農家には肥料と農機具用の燃料、ディーゼル燃料）などを配付（実施は 8 月 29 日、9 月 3 日、26-27 日）。
21 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み小学生向けイベント「もしもしアジア」を開催。ミャンマー・ヤンゴンとアフガニスタン・カブル各事務所の AAR 現地職員が子どもたちとスカイプで交流（ミズホビル 3FAAR イベントスペース）。親子 46 名参加。</li> </ul>
9 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>トルコ国内でのシリア難民の避難生活の長期化と新たな難民の増加を受け、ハタイ県で食料および衛生用品を 600 世帯に配布。</li> </ul>
9-13 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「第 4 回クラスター爆弾禁止条約締約国会議」（ザンビア・ルサカ）に AAR 東京事務局の山本祐一郎と松本夏季がオブザーバーとして参加。サイドイベントで東南アジア地域での被害者支援に焦点を当て、AAR の支援活動について山本が発表。</li> </ul>
4 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>谷川真理理事によるミャンマー視察報告会を開催（日本記者クラブ）。また東京事務局の古川千晶が同席し、ミャンマーの地雷問題の現状と AAR の取り組みについて報告。</li> </ul>
8 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「加藤タキ・チャリティサロンコンサート」開催（JT アートホール アフィニス）。           <b>第 7 回ゲスト：碓井俊樹さん（ピアノ）、上野由恵さん（フルート）、北川森央さん（フルート）。</b> </li> </ul>
11 月	2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 月から続く<b>大雨で水害に見舞われたスーダン北部のリバーナイル州で緊急支援を実施</b>。スーダン政府と協力し、130 世帯に支援物資を配付。配付物資の内容（1 世帯あたり）は、政府からの支援物資に加え、毛布 3 枚と蚊帳 1 張。</li> </ul>
8 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビア・ルサカ州のマウントマクル・クリニックとナンゴングウェ・クリニックに ART（抗レトロウィルス療法）センターを建設、保健局に譲渡。「抗レトロウィルス（ARV）薬」による治療を必要とする患者がプライバシーの守られた環境で診察を受けられるセンター。</li> <li>口ポット兵器の専門家であるピーター・アサロ博士（キャンペーン技術専門家）を招いてキラーポット（殺傷口ポット）講演会を開催（国際文化会館）。</li> <li><b>フィリピン超大型台風ハイエンが直撃</b>。14 日に緊急支援チーム第 1 陣、東京事務局の五十嵐豪と杉澤芳隆が現地入り。被害が特に甚大だったレイテ島タクロバン市、パロ町、離島を含むセブ島北部で「障がい者の戸別調査と行政への働きかけ」「食料配付」「家屋補修資材提供」「教育再開支援」を柱に支援を行った。障がい者宅を一軒一軒訪問し、合計 5,687 名の情報をデータベース化して市町村に提供。障がい者のいる 3,393 世帯（約 17,000 人）に食料を配付。12 月中旬からはトタン板や工具などの家屋修繕資材を計 2,492 世帯（約 12,460 人）に届けた。またタクロバン市とパロ町にある特別支援学校 5 校に教科書や AV 機器、机・いすなどを届け、ほか 2 校の校舎修繕を行った。2014 年 12 月終了。</li> </ul>
22 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオジブリの最新作「かぐや姫の物語」の先行上映会を開催（相馬市総合福祉センター『はまなす』）。配給元の東宝株式会社、東宝アド株式会社の協力のもと、NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンと共同での開催。</li> </ul>
27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>アフガニスタン女性スタッフによる報告会を開催</b>（明治学院大学白金キャンパス）。カブル事務所女性スタッフ、シャリファ・カールとムスカ・カールによる地雷対策活動報告の後、トークセッション「アフガニスタンの平和と安定のために何ができるか」を開催。</li> </ul>
28 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「スマイル・プロジェクト」第 3 弹として、トルコ東部ワン市内のシェーリヴァ</li> </ul>

12月 3日	ン特殊教育リハビリセンターに診察用ベッド、歩行器、教材やおもちゃなどを支援。これをもって、「スマイル・プロジェクト」を終了した。
20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>フィリピン台風緊急報告会を開催</b>（ミズホビル 3FAAR 会議室）。フィリピンで台風被災者支援に従事した東京事務局の杉澤芳隆が報告。</li> <li>・ 南スーダンの治安悪化に伴い、20日に国際スタッフ全員が国外へ退避。ケニア・ナイロビ事務所を拠点として遠隔管理で事業を実施していたが、治安が回復しないことから、予定していた事業を終了し、<b>2015年12月5日にカポエタ事務所を閉鎖</b>した。</li> </ul>

## 2014（平成26）年

北京行きマレーシア機が消息絶つ／STAP細胞論文に不正／ロシアがクリミア編入・ウクライナ危機深刻化／消費税8%に／ロシアを排除してサミット開催／第一次世界大戦勃発100年／イスラエル軍がガザ侵攻／ウクライナでマレーシア機撃墜／エボラ出血熱でWHOが非常事態宣言／「武装組織IS」に米軍が空爆開始／全米テニスで錦織圭が準優勝／御嶽山噴火で死者・行方不明者63人／ノーベル物理学賞に青色LEDで日本人3さん／ベルリンの壁崩壊から25年／ユーキヤン流行語大賞「ダメよ～ダメダメ」

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>アフガニスタンで地雷回避教育指導員養成を開始。</b></li> <li>・ 岩手、宮城、福島の3県で、飲食業や弁当の製造・販売を行う34の障がい者福祉事業所を対象に料理研究家・浜内千波先生による料理教室を開催（～2月まで）。職員と利用者合計63名が参加。その後、NPO法人三の丸ひまわり「町家の食べ処・福わらし」（岩手県）、社会福祉法人ぽっけコミュニティーネットワーク「ポッケの森」（宮城県）、社会福祉法人ほっと福祉記念会「CAFE Sweet hot」（福島県）で、浜内先生とともに弁当を商品化。</li> <li>・ <b>スーダンにて「感染症（マイセトーマ*）対策事業」開始。</b></li> </ul> <p>*マイセトーマは最も顧みられない熱帯病（NTDs）のひとつ。土壤から特殊な菌が手足の傷口を経由して体内に入ると考えられており、筋肉や骨を徐々に侵していく感染症。</p>
17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告会「朝カフェ de ハイチ」を開催（ミズホビル 3FAAR 事務所交流スペース）。駐在員 平間亮太がハイチにおける衛生教育支援活動の成果と国際協力の難しさについて報告。</li> </ul>
2月 2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「リレーマラソン地球～地雷ではなく花をください～」（日産スタジアムとその周辺）開催。大会アドバイザーは谷川真理理事。</li> </ul>
3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年12月から続く戦闘により<b>南スーダンからの難民の流入が続くケニア北西部のカクマ難民キャンプ</b>に南スーダン駐在員 梅田直希と土川大城を派遣。ケニア・カクマ難民キャンプに5月末までに南スーダンから逃れてきた子どもたちのため、突風や砂嵐などに耐える強度のある学校用テント30張を設置し、黒板40枚、机といす500セット、プラスチックのイス300脚、黒板消し40個、チョーク60箱を提供して、3,000人以上の初など教育に必要な設備と備品を整えた。またサンダル3,500足も配付して、子どもの衛生環境の改善やけが・病気の予防に貢献した。また給水支援として他団体が掘削した井戸からキャンプ近くの給水塔までパイプラインを敷設し、キャンプに住む30,000人の難民に1日1人平均18.7リットルの水を供給できるようにした。</li> </ul>
10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>谷川真理理事・地雷廃絶キャンペーン大使が健康づくり講習会とマラソン講習会を開催</b>（岩手県釜石市）。</li> </ul>

17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「AAR 創立 35 周年記念チャリティ・コンサート#1」開催（サントリーホール大ホール）。ピアニスト中村紘子さんと指揮者の山田和樹さんの初共演が実現（管弦楽：横浜シンフォニエッタ）。皇后陛下（現上皇后陛下）ご臨席。日本ロレックス株式会社が特別協賛。</li> </ul>
2月 21 日	
-3月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン株式会社と一般財団法人イオン 1% クラブが、東北の復興・活性化の一環としてグループ 60 社約 8,000 の店舗・事業所で「障がい者 ものづくり応援募金」を実施。寄せられた募金に一般財団法人イオン 1% クラブがマッチング寄付。</li> </ul>
25日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>スーダン活動報告会を開催</b>（ミズホビル 3FAAR 事務所交流スペース）。駐在員川越東弥がスーダンの地雷問題の現状や活動の様子を報告。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>チャリティ・コンサート「天満敦子ヴァイオリン・リサイタル『明日に繋ぐ祈り 2014』を開催。</b>ヴァイオリンの天満敦子さんとピアノの吉武雅子さんをお迎えし、東北 4 会場（3 月 17 日南相馬市文化会館〈ゆめはっと〉大ホール/18 日福島市音楽堂大ホール/20 日リアスホール/21 日郡山市民文化センター中ホール）と「AAR 創立 35 周年記念チャリティ・コンサート#2」（日本ロレックス株式会社が特別協賛）として東京（25 日紀尾井ホール）で開催。純益はすべて AAR の東日本大震災復興支援活動に。</li> </ul>
1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災復興支援活動報告会を開催（立教大学）。竹下敦子さん（ハックの家施設長）、障子上喜一さん（ハックの家利用者）、東北事務所長の加藤亜季子と AAR 相馬事務所の横山恵久子が東日本大震災から 3 年を迎える被災地の現状を、「障がい者」「原発事故の影響下にある方々」に焦点をあてて報告。</li> </ul>
5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「『紛争の中でも、夢はあきらめない』22 歳のシリア難民女性が見た内戦と避難生活」開催（AAR 事務所 3F 交流スペース）。シリア難民のムナ・アルバドランさんが内戦や避難生活の様子などを報告。7 日には大阪大学中之島センターでも開催。</li> </ul>
20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「朝活 de ハイチ」開催（AAR 事務所 3F 交流スペース）。駐在員 池上亜沙子が支援活動について報告。</li> </ul>
24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>在スーダン日本国大使館の堀江良一駐箚特命全権大使が、AAR が地雷回避教育を行っているスーダン東部カッサラ州の事業地を訪問。AAR は地域住民とともに地雷回避教育について紹介するイベントを実施。</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフガニスタン・スーダンの両事務所から現地職員 4 名が研修のため来日。10 日には対人地雷全面禁止推進議員連盟（小坂憲次会長、小渕優子幹事長）総会で地雷の現状や両国での活動を紹介。11 日には報告会「地雷対策の現場から」を開催（株式会社グローバルユースビューロー本社多目的サロン）。</li> <li>タジキスタンの普通学校の校長、障がい者教育に取組む民間 2 団体（ルシュディ・インクルージヤ、イローダ）代表ら 4 名が研修のため来日。上菅田特別支援学校（横浜市）を訪問するなど、特別支援教育の現場で研修を実施。</li> <li>フィリピン・レイテ島タクロバン市で、大工と一般住民を対象に「災害に強い家づくり」講習会を開始。</li> </ul>
3-4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地雷被害者と障がい者の権利に関する会議」（コロンビア・メデジン）に東北事務所長の加藤亜季子と東京事務局の古川千晶が参加。</li> </ul>
18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ「NGO 職員のやりがいも苦労も全部見せます！ただいま東南アジアで奮闘中」開催（ミズホビル 3FAAR 事務所交流スペース）。ラオス事務所駐在の安藤典子、カンボジア事務所駐在の園田知子、東京事務局の山本祐一郎が参加。</li> </ul>
26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO 主催のイベント「パン de ボランティア」などを開催（目黒区民センタ</li> </ul>

		ー社会教育館ほか)。
5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィリピン・レイテ島タクロバン市とパロ町で、杖など歩行器具 27 台を障がい者に提供。7 月には車いす 40 台を届けた。</li> </ul>
	13-16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<b>特定通常兵器使用禁止制限条約（CCW）の非公式専門家委員会合</b>（スイス・ジュネーブ）に理事長 長 有紀枝と東京事務局の松本夏季が参加。キラーロボット（殺傷ロボット）の規制に向けた初めての国際会議。キラーロボット反対キャンペーンの一員として。</li> </ul>
	20-27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>アフガニスタン北部の水害</b>を受けて、アフガニスタン・カブール事務所のバシール・バーセルとサデク・アリアンファーが現地で調査。バダフシャン州アルゴ地区の 350 世帯に蚊帳、石鹼、食器洗剤、洗濯用洗剤の支援物資を配付。</li> </ul>
	29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケニア・カクマ難民キャンプに、国連機関や他の国際 NGO とも協力し、給水施設が完成。</li> </ul>
6月	6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外務省「NGO 相談員」事業「あなたの町でお話します！国際協力の最前線」キャンペーンを開始。11 月 17 日まで計 12 回の外部講演を実施。</li> </ul>
	21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014 年度通常総会（日本プレスセンタービル）.</li> <li>・ <b>総会後、創立 35 周年イベント「35 周年の集い」を開催。</b>アジア統括・ラオス駐在代表の岡山典靖による活動報告、ミャンマー、アフガニスタン、スーダン各事務所現地スタッフからのビデオメッセージの後、社会福祉法人さぼうと 21 高橋敬子事務局長による講演、支援者・ボランティアの長濱明美さん、石原裕久さん、斎藤指揮さんによる「今後の AAR に期待すること」と題したミニトークと、理事長 長 有紀枝による講演が行われた。</li> </ul>
	23-27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<b>対人地雷禁止条約（オタワ条約）第 3 回再検討会議</b>」（モザンビーク・マプト）に、アフガニスタン・カブール事務所の現地職員バシール・バーセル、スーダン・ハルツーム事務所駐在員 川越東弥、東京事務局の本多麻純を派遣。地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）のメンバーとして。</li> </ul>
	30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ラオス・シェンクワン事務所閉鎖。</b>シェンクワンの不発弾対策事業を終了。</li> </ul>
7月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本との外交関係樹立 50 周年を祝う行事のため、ザンビアを訪問された秋篠宮同妃両殿下が、マウントマクル・クリニックをご訪問され、AAR が建設した ART センターと VCT センターをご見学。</li> <li>・ トルコ・シャンルウルファ県シャンルウルファ市に、シリア難民の定住を支援するコミュニティセンターを開館。コンピューターや理容などの職業訓練コース、トルコ語・英語・アラビア語の語学教室、心理カウンセラーによるグループセッション、行政サービスなどの情報提供や法律相談を実施。チャイルド・フレンドリー・スペースも運営。シリア人とトルコ人が交流できるイベントも企画。8 月 19 日にオープニングセレモニーを実施し、事務局長 堀江良彰が出席した。</li> </ul>
	2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南スーダン活動報告会「独立から 3 年 南スーダンの平和をあきらめない—駐在員 梅田直希とジャーナリストからの報告—」を開催（TIP*S/3×3 Labo・東京都千代田区）。中坪央暁さん（国際開発ジャーナル編集委員）をゲストに迎え、元南スーダン事務所駐在の梅田直希が南スーダン難民の現状と求められる支援について報告。</li> </ul>
	10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ラオス・ビエンチャンで障がい者の小規模起業支援事業開始。</b>ラオス障がい者協会（L D P A）と連携し、ビエンチャン市、ビエンチャン県、サヤブリー県の合計 300 人を対象に、障がい者が自宅でできる、ナマズ養殖、キノコ栽培、裁縫の 3 事業を支援。2016 年 12 月 9 日事業終了。</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィリピン・レイテ島タクロバン市で、地域の家屋の再建と技術の定着のために</li> </ul>

		建築経験者を含む地域住民による「大工委員会」を組織。大工委員会に工具と費用の一部を提供して、家屋の再建と自分自身で家を補修する一般住民の補助を依頼し、2カ月で260世帯の建築・補修を終えた。
29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み小学生向けイベント「みんなちがうね、でもいっしょだね一障がいと国際協力について考えよう」開催 (3331 Arts Chiyoda)。参加者34人。</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>9月初旬にインド北部のジャンム・カシミール州とパキスタン北東部において、豪雨による洪水や土砂崩れ</b>が発生し、400人以上が死亡、60万人以上が被災するなど甚大な被害を受けたため、AARからは、理事会の協議と稟議書の回覧を経て、「見舞金」として3,000USD(33万円相当)を現地の協力団体へ送った。</li> </ul>
27日		<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO主催のイベント「トルコパンでシリアラパン教室」を開催 (目黒区民センター社会教育館)。</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニクロなどのブランドを展開する株式会社ファーストリテイリングが古着25万2,000着をケニアのカクマ難民キャンプへ寄贈。</li> <li><b>トルコ南東部・ガジアンテプ県ガジアンテプ市に事務所開設。</b></li> </ul>
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>武装組織「IS」の攻撃により、シリア北部アインアルアラブ(クルド名コバニ)からトルコに逃れるシリア難民が大量発生したことを受け、東京事務局の山本祐一郎と内藤裕子を現地に派遣。11月末までに難民の多くが暮らすシャンルウルファ県スルチュ郡で1,050世帯に食料や生活必需品を配付。</li> </ul>
31日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>フィリピン・タクロバン事務所を閉鎖。</b></li> </ul>
11月	3日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>「藤村実穂子 メゾソプラノ特別リサイタル」を開催</b>(東京オペラシティコンサートホール: タケミツメモリアル)。ピアノはヴォルフラム・リーガーさん。日本ロレックス株式会社が特別協賛。</li> <li><b>相馬第1事務所を閉鎖。</b>12月以降、相馬第2事務所は常駐職員なしの連絡所に。</li> </ul>
20日		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界盲人連合アジア太平洋ブロック中期総会(中国・香港)に田畠美智子理事、東京事務局の野際紗綾子とラオス駐在員 岡山典靖が出席。AARのファンドレイジングについて発表し、参加団体との交流を行った。</li> </ul>
21-24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>APDF会議(アジア太平洋障害フォーラム)(ベトナム・ハノイ)に東京事務局の五十嵐豪とカンボジア駐在員 園田知子が出席。</li> </ul>
26-29日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>「AAR創立35周年記念シンポジウム: 池上彰さんをお迎えして」を開催</b>(国連大学ウ・タント国際会議場)。第一部はジャーナリストの池上彰さんによる特別講演、第二部は理事長 長 有紀枝がコーディネーターを務め、三好真理さん(外務省領事局長)、関正雄さん(CBCC&lt;企業市民協議会&gt;企画部会長/損保ジャパン日本興亜CSR部上席顧問)、副理事長 伊勢崎賢治(東京外国语大学教授)をパネリストとして、池上彰さんをコメンテーターとして、パネルディスカッションを行った。</li> </ul>
12月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定NPO法人の認定主体が、国税庁から東京都に変更。認定NPO法人の認定作業が国税庁ではなく、各NPO法人の所在自治体が行うことになったため。</li> </ul>
	5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型台風ハグピートがフィリピンを直撃する可能性が強まることから、迅速な緊急支援を行うため、東京事務局の五十嵐豪をマニラに派遣し、事前調査を実施。ジャパン・プラットフォーム(JPF)とその加盟NGOによる合同チームで実施したもの。台風の勢力が弱まることなどから被害は限定的だったため、緊急支援の実施は見送り。</li> </ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビア・ルサカ州ムウェンベシ地域のART(抗レトロウィルス療法)センター譲渡式。</li> </ul>
	13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO主催のイベント「Year End Party 2014 for Syrian Refugees」を開</li> </ul>

17-19 日

- 催（目黒区青少年プラザ）。
- 写真展「女性と地雷～対人地雷禁止条約発効から 15 年を記念して～」を開催（憲政記念会館）。18 日に行われた記念式典には、対人地雷全面禁止推進議員連盟の小坂憲次会長、岡田克也副会長、山口那津男顧問、外務省の杉山晋輔外務審議官や地雷対策に関心を寄せる 18 カ国の大使・代表を含む計 49 名が参加。対人地雷全面禁止推進議員連盟、外務省の後援と、国連広報センター、セールスフォース・ドットコム ファンデーションの協力を受けて開催。

### 2015（平成 27）年

パリ同時テロ 130 人死亡／仏新聞社で銃撃テロ／ネパールで大地震約 9,000 人死亡／欧州でシリアなどからの難民が急増／米国とキューバが 54 年ぶり国交回復／ミャンマー総選挙で NLD が圧勝／英国のウィリアム王子に長女誕生／ノーベル生理学・医学賞に大村智さん、ノーベル物理学賞に梶田隆章さん／「イスラム国」が日本人 2 人を拘束、殺害／マイナンバー制度がスタート／安全保障関連法が成立／関東・東北豪雨、茨城などで 8 人死亡／ユーキヤン流行語大賞「爆買い」「トリプルスリー」

1月	14 日	<ul style="list-style-type: none"><li>障がい者支援についての新しいブックレット「障がいのある人もない人も共に生きる地球社会へ」が完成。外務省 NGO 相談員の助成金活用。</li></ul>
	30 日	<ul style="list-style-type: none"><li>姉妹団体「さぼうと 21」の活動をまとめた記録冊子『36 年目からの挑戦 外国出身者への支援』を出版。</li></ul>
	31 日	<ul style="list-style-type: none"><li>「フォトジャーナリストが見た世界一地を這うのが仕事ー」の刊行を記念し、著者であるフォトジャーナリスト川畠嘉文さんと東京事務局の景平義文によるトークイベントを開催。（吉祥寺パルコ）</li></ul>
2月	11 日	<ul style="list-style-type: none"><li>FUNVO 主催のイベント「北欧雑貨と手作りパンのワークショップ」を開催（目黒区民センター社会教育館）。</li></ul>
	25 日	<ul style="list-style-type: none"><li>「東日本大震災から 4 年 活動報告会」を開催（TIP*S/3×3 Labo・東京都千代田区）。東北事務所長の加藤亜季子がこれまでの支援活動を報告。富永美保さん（JDF 被災地障がい者支援センターふくしま支援員）をゲストに迎え、東京事務局の宮崎佐和子とともに、福島の障がい者の復興へのチャレンジについて語っていただいた。</li></ul>
3月	3 日	<ul style="list-style-type: none"><li>「なぜぼくらは「イスラム国」と向き合うのか？」開催。フォトジャーナリスト川畠嘉文さんと東京事務局景平義文のトークショー。（八重洲ブックセンター）</li></ul>
	4 日	<ul style="list-style-type: none"><li>参議院「政府開発援助などに関する特別委員会」に理事長 長 有紀枝が、薬師寺泰蔵さん（慶應義塾大学名誉教授）とともに参考人として出席。</li></ul>
	13-14 日	<ul style="list-style-type: none"><li><b>バヌアツを大型サイクロン「パム」が直撃。</b>19 日に東京事務局の柿澤福郎が現地入り。首都ポートビラのあるエファテ島東部の村々で、306 世帯（約 1,530 人）に衣類や生活用品などを配付したほか、4 月以降は現地協力団体「VFHA（Vanuatu Family Health Association）」を通じて、離島での簡易診療サービスを行った。2016 年 6 月終了。</li></ul>
	15-16 日	<ul style="list-style-type: none"><li>「被災地応援コンサート 原田直之（民謡）×江戸家猫八（講演）」（相馬市民会館、15 日）、「相馬地方防災シンポジウム」（同、16 日）を開催。シンポジウム開会式では理事長 長 有紀枝の開会あいさつ、康 京和（カン・キョンファ）さん（国連事務次長補〈人道問題担当〉兼緊急援助副調整官）の来賓あいさつの後、立谷秀清相馬市長の基調講演。また、15 日から 16 日にかけてコンサートとシンポジウムへの来場を含む 1 泊 2 日の「被災地の『今』を知り、『これから』を考えるバスツアー」を開催。</li></ul>
	22 日	<ul style="list-style-type: none"><li>第 2 回「リレーマラソン 地球～地雷ではなく花をください～」を開催（千葉県立</li></ul>

		柏の葉公園総合競技場とその周辺)。大会アドバイザーは谷川真理理事。
28日		<ul style="list-style-type: none"> <li>葉祥明美術館×AAR ワークショップ「シリア難民の子どもたちの声をきいてください」を開催(葉祥明美術館・神奈川県鎌倉市)。トルコ駐在員 柳澤カールウーロフ朋也が支援活動について報告。</li> </ul>
4月	15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR 現場 TALK 第1弾を開催(モンベル渋谷店)。元南スーダン駐在員 角谷亮がこれまで駐在した各国で携わってきた支援活動について報告。参加者21人。</li> </ul>
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ネパール地震発生。</b>29日に緊急支援チーム第1陣、ラオス駐在員 岡山典靖と東京事務局の柿澤福郎が現地入り。首都カトマンズの西に位置するダティン郡南部のタサルプー村で、全1,299世帯に米や塩、油などの食料と、床敷用マット、蚊帳などの生活必需品、また、雨季に備えてテント用資材を配付。ダティン郡では多くの学校が半壊もしくは全壊したことから、2016年3月までに29校で仮設校舎42棟と仮設トイレ1棟(4基)を建設し、約7,630名の子どもたちが安心して授業を受けることができる環境を整備した。2017年1月事業終了。</li> </ul>
29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>チャリティ朗読コンサート「地雷ではなく花をください」を開催(サントリーホール)。ゲストは女優の宮沢りえさん(朗読)、萩原麻未さん(ピアノ)、プラジャイク弦楽四重奏団、池松 宏さん(コントラバス)、IPCM Special Chorus 風花フルワーマダムの会(駐日大使・大使夫人合唱団)、めばえ幼稚園母の会コーラス、加藤洋朗さん(指揮)、碓井俊樹さん(ピアノ)。来場者1,450人。</li> </ul>
13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR 現場 TALK 第2弾「変えられる!を伝えたい in ラオス」を開催(AAR事務所6F交流スペース)。元ラオス駐在員 太田夢香が支援活動について報告。参加者15名。</li> </ul>
5月	18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネパール大地震・緊急報告会開催(AAR6F交流スペース)。現地での活動に従事し帰国した松本夏季と東京事務局で対応にあたった野際紗綾子より、山間地域の状況と、これから求められる支援について報告した。参加者46名。</li> </ul>
20・22-23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>トークイベント「日本人とシリア難民とイスラム国」を開催。長崎書店(熊本県熊本市、20日)、カフェ&amp;ギャラリー・キューブリック(福岡県福岡市、22日)、アルトスブックストア(島根県松江市、23日)。東京事務局の景平義文とフォトジャーナリストの川畠嘉文さんが現状報告。</li> </ul>
24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO 主催のイベント「趣味から広がる難民支援 Part2～戸越銀座商店街 de チャリティオリンピング」を開催(戸越銀座商店街)。参加者10人。</li> </ul>
6月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオス・ビエンチャンで車いすバスケットボール普及支援事業を開始。車いすバスケットボール技術向上の講習会やクラシフィケーション講習会を実施したほか、大会を2回開催。2016年5月31日終了。事業終了に伴い、協力団体である医療リハビリセンター(CMR:Center for Medical Rehabilitation)障がい者スポーツ用体育館に、事業で使用してきた車いす30台を供与。</li> </ul>
10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR 現場 TALK 第3弾「アフリカンナイト@新宿区荒木町 Tribes」を開催(Tribes・新宿荒木町)。ザンビア駐在員 粟村友美が支援活動について報告。参加者27人。</li> </ul>
13日		<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度(平成27年度)通常総会を開催(AAR事務所6F交流スペース)。</li> </ul>
21-30日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地中海沿岸諸国への密航者が急増したことを受け、イタリアとギリシャに調査団を派遣。</b>調査団メンバーは山田 寛(さぼうと21理事)、水鳥真美(AAR理事・セインズベリー日本藝術研究所統括役所長)、東京事務局の五十嵐豪。</li> </ul>
7月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>AC ジャパンの1年目のキャンペーン開始。キャッチコピーは「MADE IN JAPAN の思いやりを、世界へ」。撮影地はザンビア・ルサカ。モデルはザンビア駐在員 粟村友美、平間亮太、櫻井佑樹。</li> </ul>

- |            |  |
|------------|--|
| 7-9 日      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ケニア・カクマ難民キャンプで中等教育支援事業を開始。</b></li> <li>・ シリア難民支援をテーマにトークイベントを開催。フォトジャーナリストの川畠嘉文さんと東京事務局の景平義文が活動報告。大阪大学中之島センター（7日）、立命館大学（8日）、モンベル神戸三宮店（9日）。来場者合計 114 人。</li> </ul>   |
| 10 日       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地中海密航船人道危機調査に関する報告会」を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。山田 寛（さぼうと 21 理事）、水鳥真美（AAR 理事・セインズベリー日本藝術研究所統括役所長）、東京事務局の五十嵐豪が調査内容を報告。参加者 10 人。</li> </ul>   |
| 23 日       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後 70 周年記念トークイベント「これからの戦争と平和を考える 紛争・復興・平和構築の現場から探る日本の行く道」を開催（有楽町朝日スクエア）。理事長 長有紀枝、伊勢崎賢治（AAR 副理事長・東京外国语大学大学院総合国際学研究科教授）のほか、特別ゲストに宮家邦彦さん（キヤノングローバル戦略研究所研究主任）を迎える、安全保障と人道支援をめぐってディスカッションを行った。来場者 180 人。</li> </ul>  |
| 8 月        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ミャンマーの大雨による洪水の被災者支援を実施。</b>現地の障がい者支援団体 MILI と協力し、ヤンゴン地域やラカイン州など 10 カ所で、障がい者のいる世帯を中心とした計 1,445 世帯（約 8,000 人）および 5 つの避難所（3,378 人）に、飲料水や食料、洗剤など緊急に必要な生活物資に加え、トイレの便座やソーラーランタンなどを配付。また障がいのある 169 人のもとを個別に訪問し、障がいに合わせて松葉づえや車いすなどの補助具を届けた。（2015 年 9 月 30 日終了。）</li> <li>・ <b>パキスタンの大雨による洪水</b>で、パンジャブ州の教育局からの依頼を受けて、校舎用の大型テント計 40 張（1 張に 40 人収容可）を 17 校に提供。</li> <li>・ 現地 NGO・Metaction（現地名 Metadrası）を通じ、<b>ギリシャで、保護者のいない未成年の密航者の保護事業を開始。</b>（2015 年 11 月終了。）</li> </ul> |
| 3-9 日      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションブランド「JAMMIN（ジャミン）」を通して、AAR のチャリティ T シャツやパーカー、トートバッグを限定販売。テーマはハイチ。</li> </ul>  |
| 6・9 日      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休み体験型イベント「地震発生！チャレンジ緊急支援」を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。参加者小中学生 31 人、保護者 26 人。</li> </ul>  |
| 13 日       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AAR 現場 TALK 第 5 弹「ラオス駐在員の赤裸々トーク！」を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。ラオス駐在員 大城洋作が支援活動について報告。参加者 23 人。※AAR 現場 TALK 第 4 弹は報告者の体調不良のため中止。</li> </ul>  |
| 22 日       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>スーパー・ダンス・エンタインメント「Dance and Music for PEACE 〈真夏の夜のゆめ〉」を開催</b>（新国立劇場オペラパレス）。デヴィ・スカルノさん（NPO 法人 アースエイド・ソサエティ代表・元インドネシア大統領夫人）、加藤タキ（AAR 副会長・株式会社タキ・オフィス代表取締役）、オペラ歌手の佐藤美枝子さん、林美智子さん、宮里直樹さん、河野克典さんほか、公益財団法人日本ボールルームダンス連盟と公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の協力を得て、石原正幸さんら有名ダンサーが出演。司会はオペラ・ナビゲーターのウーロン亭ちゃ太郎さんが務めた。日本ロレックス株式会社が特別協賛。来場者 1,360 人。</li> </ul>  |
| 30 日       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 華道家の假屋崎省吾さんが私邸でチャリティ・コンサート「心の花を贈りましょう」を開催。ゲストにジャズ・ピアニストで前仏首相の弟のドミニク・フィヨンさん。オークション収益を AAR にご寄付。</li> </ul>   |
| 9 月 9-11 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>関東東北水害発生。</b>2015 年 9 月に発生した大雨により鬼怒川の堤防が決壊し被災した茨城県常総市に、発生 4 日後に、東京事務局の五十嵐豪、大室和也を派遣。食料、簡易トイレ、下着、マスクやアルコール消毒液など感染症予防のための物</li> </ul>   |

		品や、ほうき・モップなどの掃除用具を各避難所にて供与した。また、児童施設および障がい者福祉施設には遊具や電化製品などを提供し、運営再開を支援した。現地 NPO が実施する移動支援への資金提供を実施した。渋井川の決壊で被災した宮城県大崎市民に対し、義援金を送るとともに食料を提供した。受益者 2,744 名（物資配付をした常総市の避難所避難者 626 名、児童施設・障がい福祉施設利用者 289 名、移動支援受益者のべ 1,781 名、大崎市避難者 48 名）。
10月		
	29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>シリア国内避難民を含むシリア人への食糧の配布を実施</b>するとともに、悪化した学習環境改善のため、机、いす、ホワイトボード、文房具などを供与。また、防寒ジャケット、手袋などの越冬支援物資を配布した。</li> </ul>
11月	2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AAR 現場 TALK 第 6 弾「あれから半年ー私が見たネパール地震ー」を開催（モンベル渋谷店）。東京事務局の松本夏季が支援活動について報告。参加者 32 人。</li> <li>・ <b>ラオス・ポンサリー事務所開設</b>。ラオス・ポンサリー県ポンサリー郡で母子保健サービス強化事業を開始。2019 年 9 月事業終了とともに事務所閉鎖。</li> <li>・ 目黒駅前で募金活動を実施。</li> </ul>
11月 24日 -12月 4日		
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>インド・カシミールにおける女性支援事業開始</b>。現地協力団体との仲介役との間で 8 ル月間の業務委託契約を締結。インド側で支援対象者 10 名および刺繍技術専門家を選定し、日本側でも専門家および疑似顧客 10 名の選定を進めることになった。</li> </ul>
12月 7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トークイベント「シリア・今世紀最大の人道危機～支援の現場で目撲したこと～」を開催（共同通信会館）。宮田 律さん（現代イスラム研究センター理事長・静岡県立大学准教授）をゲストに迎え、東京事務局のシリア難民支援統括・景平義文が登壇した。73 名参加。</li> </ul>
	16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トークイベント「弱みを強みにかえる仕事づくり－福島の障がい者たちの挑戦－」を開催（アーツ千代田 3331・東京都千代田区）。「魔法のおかし・ぼるぼろん」やバッグなどを製造・販売する「福島発障がい者協働プロジェクト」の事務局を務める NPO 法人しんせいの富永美保さん、ぼるぼろん作りに参加する事業所・コーヒータイムの橋本由利子さん、バッグ製作に携わる事業所・ふたばの里の早川千枝子さんをゲストにお迎えした。35 名参加。</li> </ul>
	23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FUNVO 主催のイベント「趣味から広がる国際支援～トルコ家庭料理作り＆シリア人と交流～」を開催（目黒区民センター社会教育館）。45 名参加。</li> </ul>

### 2016（平成 28）年

米大統領にトランプさん／英国が国民投票で「EU離脱」を選択／米大統領が広島訪問・安倍首相が真珠湾訪問／熊本地震で 50 人死亡／天皇陛下が退位のご意向示唆／東京都知事に小池百合子さん／18 歳選挙権施行／障がい者施設で 19 人刺殺／南米で初となる五輪がリオで開催／ミャンマーにウン・サン・スー・チーさん率いる新政権が発足／ノーベル文学賞にボブ・ディランさん／ノーベル生理学・医学賞に大隅良典さん／キューバのカストロ前議長死去／韓国・朴槿恵大統領の友人による国政介入事件／ユーリヤン流行語大賞「神ってる」

2月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>スーダン・カッサラ州で水衛生環境改善事業を開始</b>。2019 年 8 月 31 日終了。受益者：村落住人など約 132,000 人。</li> <li>・ <b>パキスタンのハイバル・パフトゥンバー州で女子小学校の学習・衛生環境改善事業を開始</b>。アフガニスタン難民キャンプ内にある学校とパキスタン人の通う学校両方が対象。2019 年 9 月 30 日終了。受益者：対象校児童・教師・保護者会メンバー合わせて約 53,000 人。</li> </ul>
-------	--

15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー「インクルーシブ教育 経験からひも解く成功のカギ～途上国の現場から～」を開催 (ECOM 駿河台 2F・東京都千代田区)。河野 真 (AAR 理事・国際医療福祉大学成田保健医療学部教授) がファシリテーターを務め、カンボジア駐在員 園田知子、元ハイチ事務所駐在員 池上亜沙子、タジキスタン駐在員 荒木梢が、各国でのインクルーシブ教育支援活動について報告。参加者 43 人。池上と荒木は 16 日に筑波大学附属中学校、17 日に 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 (全知P連)、18 日に神奈川県教育委員会でも出張報告会を行った。</li> </ul>
24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR 現場 TALK7 弾「充実度 2 倍！妻と一緒に駐在員生活 in スーダン」を開催 (AAR6F 交流スペース)。駐在員 宇治川貴史が、パートナーとともに赴任したスーダンでの地雷対策や水衛生事業を紹介した。参加者 35 人。</li> </ul>
3月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「震災から 5 年『帰る。帰らない。福島の葛藤』」を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。仙台事務所の大原真一郎が東北被災地での支援活動について報告したほか、ゲストに和田庄司さん (社会福祉法人にんじん舎の会・サービス管理責任者)、設楽俊司さん (きょうされん福島支部支部長)、古市貴之さん (NPO 法人シェルパ代表) をお迎えした。参加者 59 人。</li> </ul>
11日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビア・カフエ郡チサンカーネ地域で母子保健サービス強化事業を開始。</b> 2019 年 3 月 10 日終了。車両などを現地政府へ譲渡した。3 月 22 日にンゴンベの事業を現地で活動する日本の NGO 「礎の石」へ譲渡し、3 月 30 日に事務所を閉鎖した。受益者：妊産婦を含む地域の女性・5 歳未満児、地域保健委員計約 4,520 人と地域住民約 11,635 人。</li> </ul>
14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>トークイベント「シリア危機 5 年：450 万の難民はどこへ向かうのか」を開催 (日本記者クラブ)。二村 伸さん (NHK 解説副委員長) をゲストに迎え、東京事務局のシリア難民支援統括・景平義文が登壇、理事長 長 有紀枝がモダレーターを務めた。来場者 172 人。</li> </ul>
19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケニア・カクマ難民キャンプで建設した、カクマ 4 では初となる中等教育校「ヴィジョン中等学校」を UNHCR (国連高等難民弁務官事務所) に引き渡した。</li> </ul>
25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会「ロボットが人を殺す未来」／Evening Forum: Future in which Robots Kill Humans を開催 (文京シビックセンター・東京都文京区)。メアリー・ウェアハムさん (キラーロボット反対キャンペーングローバル・コーディネーター／ヒューマン・ライツ・ウォッチ兵器局アドボカシー・ディレクター) の基調講演の後、永吉昭一さん (外務省軍縮不拡散・科学部通常兵器室上席専門官) もゲストとして加わり、理事長 長 有紀枝が司会兼コメンテーターを務めて、ディスカッションを行った。62 名参加。</li> </ul>
4月 9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「『みんなでいっしょに学べるって楽しい』－カンボジアの学校現場から」を開催 (葉祥明美術館・神奈川県鎌倉市)。東京事務局の大室和也が支援活動について報告。</li> </ul>
14日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>熊本地震発生。</b> 15 日に緊急支援チーム第 1 陣、加藤勉 (AAR 理事・株式会社イングラム代表取締役、NPO 法人ピースプロジェクト理事長)、東北事務所の大原真一郎、東京事務局の岡田正幸、大室和也が現地入り。同日夜より、避難所となっていた益城町の飯野小学校などで炊き出しを開始し、5 月 5 日までに豚汁やカレーなど約 17,000 食を提供した。(ピースプロジェクトと共同で実施。) 障がい者や高齢者、その家族が避難のために身を寄せている福祉施設に、おむつや生活必需品を配付。その後、福祉施設の修繕や資機材の提供も行った。南阿蘇村では、自宅が全・半壊した約 40 世帯の方々に冷蔵庫、洗濯機、電子レンジを提供了。</li> </ul>
15日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ネパール事務所閉鎖。</b> 3 月 31 日事業終了後、現地の障がい者支援団体、Center</li> </ul>

		for Independent Living Independent Living Center for Persons with Disabilities (CIL) と連携し、遠隔で、「カトマンズ周辺における障がい者支援」を実施。地震で障がいを負った人や自宅が倒壊するなどして生活できなくなった障がい者とその家族 80 人に、食料や水などを 4 カ月にわたって配付した。また、ネパールでは初となる国産車いす 100 台を製造・配付したほか、50 名に対し、CIL を通じ、リハビリなどの理学療法や、さまざまな相談を受けるピアカウンセリングなどの生活全般を支えるプログラムを実施した。(2017 年 1 月終了)
17 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• FUNVO 主催のイベント「東京まるっとイスラム体験～ハラールランチとモスク見学～」を開催 (つつじの里児童遊園)。30 名参加。</li> </ul>
23 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ハイチ事務所閉鎖。</b>「カルフル地区における障がい児の就学支援事業」の活動は、3 月 31 日に終了し、フォローアップ事業として、障がい児教育を専門とする現地団体 CES (Centre D'education Spéciale) とともに同地区 4 校の教職員を対象とした研修を 8 月 1 日～3 日に実施した。学校運営や、障がい児就学に必要な教材なども併せて供与した。2017 年 12 月 31 日終了。</li> </ul>
27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「<b>3.11 被災者のためのチャリティ・コンサート</b>」を開催 (紀尾井町ホール)。出演は、<b>ギターの村治佳織さんと村治奏一さんご姉弟、ヴァイオリンの川久保賜紀(たまき)さん</b>。天皇皇后両陛下 (現上皇上皇后両陛下) ご臨席。日本ロレックス株式会社が特別協賛。来場者 771 人。</li> <li>• 地中海沿岸諸国への密航者の現状を調査するため、ギリシャに東京事務局のシリアル難民支援統括・景平義文とフォトジャーナリストの川畠嘉文さんを派遣。</li> </ul>
5 月 1-11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 熊本地震緊急報告会を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。東京事務局の五十嵐豪が支援活動について報告。18 名参加。</li> <li>• <b>ケニア・カクマ難民キャンプ (カクマ 4) で建設した小児病棟がオープン。</b></li> <li>• 報告会「翻弄されるギリシャの難民はいま」を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。東京事務局のシリアル難民支援統括・景平義文がギリシャ現状調査について報告。48 名参加。</li> </ul>
9 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「シリアル難民支援報告会ーその苦しみと希望を日々見つめて」を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。トルコ駐在員 宮越清美と東京事務局の柳田純子が支援活動について報告。54 名参加。</li> </ul>
11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラオスで WFP (World Food Programme 国連世界食糧計画) 学校給食普及事業のパイロット事業を開始。学校給食のためのナマズの養殖を、北部のウドムサイ県 10 校、ルアンパバーン県 6 校の小学校で実施。2017 年 2 月 28 日終了。受益者：対象校 10 校の児童・教師、地域住民など約 935 人。知的障がい児デイケアセンターの児童 50 人。2017 年 8 月よりメイン事業に移行。</li> </ul>
12 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>スーダン地雷被害者支援事業開始。</b></li> <li>• 『難民の日』トークイベント「吹き荒れる暴力～テロの背景にあるもの」を開催 (共同通信会館)。黒木英充さん (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)、岡本道郎さん (読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員) をゲストに迎え、理事長 長 有紀枝がモデレーターを務めた。来場者 96 人。</li> </ul>
30 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2016 年度 (平成 28 年度) 通常総会を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。</li> <li>• <b>ウガンダに南スーダンからの難民が大量に流入したことを受け緊急支援を開始。7 月にカンパラ事務所、9 月にユンベ事務所を開設。</b></li> <li>• ウガンダ北部のビディビディ難民居住地およびインヴェピ難民居住地において、南スーダン難民とウガンダの子どもたちへの教室建設などのハード面と、教員研修などのソフト面における教育支援を実施。受益者：南スーダン難民及びホスト</li> </ul>
6 月 1 日		
8 日		
14 日		
18 日		
7 月		

		コミュニティ計 47,662 人。
1 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>AC ジャパンの 2 年目のキャンペーン開始。キャッチコピーは「『日本人の心はつめたい…』それが始まりでした。」。撮影地はケニア・カクマ難民キャンプ。モデルはケニア事務所駐在の兼山優希と東京事務局の雨宮知子。</li> </ul>
10 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO 主催イベント「アウトドアで中東料理！ シリアを身近に感じよう」を開催（舎人公園バーべキュー広場）。11 名参加。</li> </ul>
28 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「南スーダン独立 5 年：新しい国造りは挫折したのか」を開催（日本教育会館・東京都千代田区）。栗本英世さん（大阪大学大学院人間科学研究科教授）の基調講演の後、理事長 長 有紀枝がコーディネーターを務め、栗本さん、白戸圭一さん（三井物産戦略研究所中東アフリカ室主席研究員、元毎日新聞記者）、元南スーダン駐在員 角谷亮をパネリストとして「私の見た独立と国造り」と題したパネルディスカッションを行った。来場者 125 人。</li> </ul>
30 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>FUNVO 主催の映画「グッド・ライ～いちばん優しい嘘～」上映会＆トークイベントを開催（東京ウィメンズプラザ）。元南スーダンおよびケニア駐在員 角谷亮と梅田直希がゲストとして出演。来場者 124 人。</li> </ul>
8 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>佐賀事務所を開設。</b>事務所長は久保田雅文。首都圏で大型地震が発生した場合の事業継続の拠点として。</li> <li><b>絵本『サニーちゃん、シリアへ行く』刊行</b>（絵・葉 祥明、文・長 有紀枝、発行・自由国民社）。地雷廃絶キャンペーン絵本『地雷ではなく花をください』シリーズの第 1 巻の出版から 20 年を記念して。</li> </ul>
8-14 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>ファッショングランプリ「JAMMIN（ジャミン）」を通して、AAR のチャリティ T シャツやパーカー、トートバッグを限定販売。テーマは東北。</li> </ul>
10 日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>スーダン・カッサラ州</b>において、6 月からの断続的な大雨による<b>洪水の被災者支援</b>のため、1,000 枚の毛布を提供した。</li> <li>夏休み小学生向けイベント「ワタシが難民になったら…」を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。45 名参加。</li> </ul>
19 日		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ギリシャでの保護者のいない未成年の密航者の保護事業を再開。</b>現地協力団体 MetAction が運営するキオス島の保護施設での活動に対する AAR の支援について、8 月 19 日付で覚書を交わし、資金として 10,000 ヨーロ提供。</li> </ul>
9 月	5-7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>2016 年 8 月に発生した台風 10 号による土砂災害</b>で被災した岩手県久慈市、岩泉町において、NPO 法人ピースプロジェクトと共同で炊き出しを実施。生活用水確保のためポンプ、テレビやファンヒーターを提供。また、福島県の仮設住宅の皆さま、岩手県室根町の一般社団法人「ほまれの会」から寄贈頂いた防寒着、下着を避難所になっていた岩泉町民会館に提供したほか、岩手県久慈市の障がい者グループホーム「ハウス潮騒」に生活必需品一式を支援。受益者 のべ 1310 人（岩泉町の避難者のべ 1303 人、久慈市グループホームの利用者 7 人）</li> </ul>
10 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>トルコ・イスタンブールでシリア難民への情報提供・個別支援事業を開始。</b></li> </ul>
	4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ハイチを大型ハリケーン・マシューが直撃。</b>13 日に緊急支援チーム第 1 陣、東京事務局の大室和也と池上亜沙子が現地入り。甚大な被害を受けた南部、グランダンス県のジェレミー市と南県のレ・カイ市で、障がい者のいる 1,000 世帯に支援物資を配付。2016 年 11 月 22 日終了。</li> </ul>
	13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪トークイベント「変わりゆく世界の難民問題」を開催（大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール）。二村 伸さん（NHK 解説副委員長）が世界の難民の潮流について、東京事務局のシリア難民支援統括・景平義文がシリア難民支援の現場から見える現代の難民の姿について講演した。来場者 118 人。</li> </ul>

11月	4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀事務所開設記念イベント「シリア難民の現実と私たちにできること一」を開催（佐賀県国際交流プラザ・佐賀県佐賀市）。東京事務局のシリア難民支援統括・景平義文が登壇した。来場者 76 人。</li> </ul>
	12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「再燃する地雷・クラスター爆弾問題」を開催（TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター・東京都新宿区）。アニエス・マカイユさん（国連地雷対策サービス部部長）、廣田 司さん（外務省国際協力局緊急・人道支援課長）、出川 展恒さん（ＮＨＫ解説委員）、東京事務局の景平義文の講演の後、理事長 長 有紀枝がコーディネーターを務め、Q&amp;A に基づきパネルディスカッションを行った。来場者 113 人。</li> </ul>
12月	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイチ・ハリケーン緊急報告会を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。東京事務局の池上亜沙子が支援活動について報告。22 名参加。</li> </ul>
	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ラオス・障がい者の小規模起業支援事業終了。</b> 受益者：計 264 名（男性 148 名女性 116 名）。キノコ栽培 84 名（男性 53 名女性 31 名）、ナマズ養殖 110 名（男性 69 名女性 41 名）、コオロギ養殖 16 名（男性 9 名女性 7 名）、カエル養殖 22 名（男性 14 名女性 8 名）、裁縫 32 名（男性 3 名女性 29 名）。</li> </ul>

### 2017（平成 29）年

米国トランプ大統領就任／東芝が原子力事業で巨額損失／北朝鮮最高指導者の兄金正男さん暗殺／韓国朴槿恵前大統領逮捕／韓国文在寅大統領就任／天皇生前退位特例法成立／フィギュア・浅田真央選手引退／将棋・藤井四段 29 連勝／香港民主派大規模デモ／ミャンマー避難民（ロヒンギヤ）大量流出／ユーキャン流行語大賞「忖度」「インスタ映え」

1月	17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「南スーダン難民支援報告会—ウガンダの受け入れのかたちと、難民の今」を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。東京事務局の平間亮太がウガンダでの南スーダン難民支援活動について報告。69 名参加。</li> </ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>アフガニスタン・ナンガハル県でパキスタンからのアフガニスタン帰還民への緊急支援を開始。</b> 初動対応として、ナンガハル県に滞在している、これまで他支援団体から現金や物資といった支援を受けたことがない非登録帰還民 580 世帯に対し、金券およびソーラー充電器セットを配付。また、越冬支援として、非登録帰還民のうち、寡婦世帯、障がい者のいる世帯、テントや家畜小屋に居住している世帯などの脆弱性の高い 715 世帯に対し、毛布およびソーラー充電器セットを配付した。2018 年 1 月 23 日終了。</li> </ul>
	18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント「私が出会ったシリア難民の子どもたち」を開催（葉祥明美術館・神奈川県鎌倉市）。絵本『サニーちゃん、シリアへ行く』の原画展が 1 月 21 日から 3 月 10 日まで北鎌倉の葉祥明美術館で行われるのに合わせ、絵本を執筆した理事長 長 有紀枝が同館で講演。講演後には葉祥明さんと長によるサイン会も。</li> </ul>
22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>参議院「国際経済・外交に関する調査会」に 理事長 長有紀枝が、ピースウィンズ・ジャパン代表理事の大西健丞さん、国際協力 NGO センター理事長の大橋正明さんとともに参考人として出席。テーマは、「NGO など多様な主体との連携」。</li> </ul>
	27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフガニスタン帰還民 緊急支援のための募金開始。</li> </ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビア・メヘバ事務所再開。元難民地域統合化事業開始。</b></li> </ul>
	10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ラオスにおける障がい者のための小規模起業支援の報告会」実施（JICA 東京国際センター 別館 2F セミナールーム C/D）。JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）として実施してきた、ナマズやコオロギの養殖など、障がいのある方が自宅でできる起業支援について、ラオス駐在員 大城洋作が報告。</li> </ul>
	12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災イノベーターズフォーラム 2017」に東北事業統括の加藤亜季子が登壇。</li> </ul>

- (仙台国際センター展示棟 会議室 1・2)。
- 報告会「震災から 6 年『知ってほしい、あなたのそばにいる避難者のこと』」を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。仙台事務所の大原真一郎が東北被災地での支援活動について報告したほか、ゲストに加納佑一さん (広域避難者支援連絡会 in 東京)、福島市から子どもを連れて東京で避難生活を続けている岡田めぐみさん (むさしのスマイル代表) をお迎えした。54 名参加。
- 4月 6日
- DNDi (顧みられない病気の新薬開発イニシアティブ) 主催のトークセッション 「アフリカ・スーダンとマイセトーマ(真菌性菌腫)を患う顧みられない患者さん」に東京事務局の梶野杏奈が登壇し、スーダンで行っているマイセトーマ対策活動の詳細と現地の患者の方々の生の声を報告した。(JICA 市ケビル 6F セミナールーム 600)。
- 26日
- 南スーダンなど支援現場への渡航制限による人道支援の空洞化とその改善への要望書を、NGO 安全管理イニシアティブ (JaNISS) など 19 団体とともに、各政党に提出。
- 5月 26-27日
- 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 主催の「災害時の連携を考える全国フォーラム」の分科会に東京事務局の五十嵐豪と大室和也が登壇。「現場で活かせる世界の共通ルール～進化する支援の国際基準～」(五十嵐)、「災害時における支援に必要な情報の集約」(大室) (国際ファッションセンター3F KFC ホール)。来場者 312 人。
- 6月 1日
- シリア国内避難民を含むシリア人に衛生用品配布を開始。2018年 7 月終了。
  - 研究会 「開発途上国における社会福祉サービス提供型事業の持続可能性を考える ~ラオス車いす事業を通じて~」を開催。ラオス駐在員 岡山典靖が過去の車いす事業について報告するとともに、参加者とディスカッションを行った。(AAR 事務所 6F 交流スペース) 27 名参加。
- 3日
- トークイベント「文学で語る難民問題」を開催。芥川賞作家の小野正嗣さんと理事長 長 有紀枝が難民問題について対談した。(都市センターホテル・東京都千代田区) 来場者約 100 人。
- 17日
- 2017年度 (平成 29 年度) 通常総会を開催 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。
- 24日
- 東日本大震災で被災し、2013年よりプレハブで活動していた福祉作業所「かたつむり」の新事業所が完成し、竣工式を行った。戸田公明市長をはじめ大船渡市の関係者や、「かたつむり」の理事、職員や施設利用者、工事業者などの関係者約 120 名参加。
- 7月
- シリア国内の紛争被害の実態調査報告書「Vulnerability Multiplied in Syria-- Report on the Survivors of Explosive Devices-- (シリア危機：紛争被害者の実態調査報告書～爆発性兵器の脅威と支援の提言)」発表。
  - アフガニスタン地雷回避教育、地雷被害者を含む障がい者支援事業を、パキスタン・イスラマバード事務所に担当駐在員をおき、遠隔管理により展開することとした。(ISO : Islamabad Satellite Office)
  - AC ジャパンの 3 年目のキャンペーン開始。キャッチコピーは「寄り添う支援を。日本から。」。撮影地はウガンダ・ビディビディ難民居住地。モデルは東京事務局の平間亮太、ウガンダ駐在員 雨宮知子と河津志貴保、ケニア駐在員 兼山優希。
  - **九州北部豪雨水害発生。** 6 日朝より調査開始。7 日には緊急支援チーム (東京事務局の高木卓美、大室和也、三木 将) が福岡県朝倉市に入り、朝倉市内 6 カ所の、避難者のべ 975 人に対し食料や生活必需品を含む物資を配付。以後、災害

		対策本部、自治体、現地 NPO や県外 NGO などの支援活動団体と情報を共有しながら、2018年3月までの間に、延べ2,136人への支援を行った。
10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NHK「視点・論点」に、理事長 長有紀枝が出演。「世界とつながる私たちの消費」と題して、先進国の消費者としての日本人が、世界の紛争や貧困の問題に積極的に関わるための視点を、エシカル・ファッショニや、NGO の事例などをもとに解説した。</li> </ul>
22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐賀 NGO ネットワーク公開講座（佐賀県国際交流プラザ）に佐賀事務所長の久保田雅文が登壇し、AAR の感染症対策活動について講演。</li> </ul>
8月 1日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ラオス・ウドムサイ県において、WFP 学校給食事業として、カエルの養殖事業開始</b>（2月に終了したパイロット事業からの移行）。</li> </ul>
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「国際支援の現状」について、東京事務局の大室和也が京都府舞鶴市にて講演。市内および近郊在住のジャーナリストや教員など約 20 名参加。</li> </ul>
21・28日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヨコハマトリエンナーレ 2017 にて、国際理解講座「ワタシが難民になったら」を主催。東京事務局の穂積武寛、柳田純子、ラガド・アドリによるシリア難民の現状についての講演とワークショップ（横浜美術館）。31名参加。</li> </ul>
23-25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本県益城町の赤井仮設、安永東仮設、広崎、津森の 4 カ所の仮設住宅にて住民同士の交流を図るため、株式会社虎玄さまのご協力のもと、羊羹と抹茶を楽しみながらお話をする「お茶っこ会」を実施。3日間で計 60 名参加。</li> </ul>
23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「夏休み子どもイベント ワタシが難民になったら...2 ~シリア出身・ラガドさんに聞いてみよう！~」開催。東京事務局ラガド・アドリによる平和だったシリアと現状についての講演とワークショップ(AAR6F 交流スペース)。親子 49 名参加。</li> </ul>
10月 7日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FUNVO 主催「トルコ家庭料理作り＆トルココーヒー占い体験」（目黒区東山社会教育会館）。19名参加。</li> </ul>
9-29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>宝塚歌劇団花組オリジナルミュージカル『ハンナのお花屋さん -Hanna's Florist』</b>に、絵本『地雷ではなく花をください』が重要なモチーフとして登場。宝塚歌劇団の脚本家、植田景子さんの書き下ろし作品。主演は明日海りおさん、仙名彩世さん。（TBS 赤坂 ACT シアター）。</li> </ul>
14日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンポジウム「シリア紛争にみる人道支援の限界と挑戦」開催。シリア危機に対する人道支援活動の実態と課題について、シリア国内で活動する NGO 関係者を招き、研究者、日本の NGO 関係者とともに討議。（立教大学池袋キャンパス 14 号館）来場者約 270 人。</li> </ul>
18日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラオス・ザンビア活動報告会「2人の看護師の挑戦—お母さんと赤ちゃんの命を守るために—」開催。ラオス駐在員 安藤典子とザンビア駐在員 有原美智子が、現地の活動と課題について講演（AAR 事務所 6F 交流スペース）。48名参加。</li> </ul>
21日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「さが国際フェスタ月間」に出演。東京事務局のラガド・アドリが「メディアで見ないシリア」と題して講演（佐賀県国際交流プラザ）。36名参加。</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ミャンマー避難民（ロヒンギャ難民）緊急支援事業開始。</b>ミャンマー北部で 2017 年 8 月末に発生した武装勢力と軍との衝突により、2カ月間に 60 万以上の人々がミャンマーから隣国バングラデシュに避難（2019 年 1 月現在 80 万人超）。11月初旬、緊急支援チーム（東京事務局の古川千晶、大室和也、柿澤福郎、中坪央暁）が、バングラデシュ人民共和国チッタゴン管区コックスバザール県ウキアにて調査を開始し、現地 NGO と協力しながら越冬支援物資などを配付。12月に事務所を開設。以後、難民キャンプ内にトイレ、水浴び室、井戸、し尿処理施設などの衛生設備を建設するとともに、チャイルド・フレンドリー・スペース</li> </ul>

		(CFS) およびウーマン・フレンドリー・スペース (WFS) を設置し、音楽、図画工作、手芸活動のクラスの定期的な運営を通して子どもや女性への教育と啓発活動を行った。受益者：水・衛生施設利用者 4,724 世帯（約 20,000 人）、チャイルド・フレンドリー・スペース登録者 200 人、ウーマン・フレンドリー・スペース登録者 199 人。
27 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急報告会「ミャンマー避難民支援の現場から」開催（AAR6F 交流スペース）。帰国直後の緊急支援チームのメンバー（東京事務局の古川千晶、大室和也、柿澤福郎、中坪央暁）が、避難民のおかれた現状とこれから求められる支援について報告。60 名参加。</li> </ul>
12 月 14 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「東日本大震災復興支援のためのチャリティ・コンサート」開催。トランペット奏者のエリック・オービエさんとパイプオルガン奏者の梅千野安未（ほやの あみ）、三原麻里（みはら まり）両さんが出演。皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。（東京オペラシティコンサートホール）。来場者約 1,300 人。</li> </ul>
26 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>国連グローバル・コンパクト（UNGC）*に署名。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）に加入。 *1999 年の世界経済フォーラム（ダボス会議）の席上でコフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱した、各企業・団体が責任ある創造的リーダーシップを發揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組み。</li> </ul>

## 2018（平成 30）年

米朝首脳史上初の会談/米、イラン核合意離脱/韓国最高裁、徴用工への賠償命じる/米国抜き TPP11 発効/米国大使館エルサレムに移転/EU、英国離脱案正式決定/西日本豪雨、北海道地震など災害相次ぐ/オウム死刑囚執行（13 人すべて）/森友学園をめぐる財務省文書改ざん/陸自イラク日報見つかり公表/日産ゴーン会長特別背任罪で逮捕拘留/日大アメフト悪質タックルなどスポーツ界不祥事多発/平昌五輪でフィギュアスケート羽生結弦 2 連覇/大阪なおみテニス全米オープン初制覇/ユーキヤン流行語大賞「そうだねー」

2 月 1 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>水鳥真美理事が退任し、防災担当国連事務次長補兼事務総長特別代表に就任。国連の国際防災戦略事務局の代表として、国際的な防災・減災枠組の実施に関する活動を担う。</li> </ul>
11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2018 分科会 24 被災者支援／人道支援～「人」を支援するという意味～」（飯田橋セントラルプラザ 10F）に東京事務局の五十嵐豪が登壇。20 名参加。</li> </ul>
25 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「遊びながら学ぼう！ 写真で見る国際協力と、駐在経験スタッフのお話」（AAR 事務所 6F 交流スペース）開催。AAR の現地での活動の写真を使ってカルタの要領で楽しみながら、国際協力について学ぶイベント。14 名参加。</li> </ul>
3 月 15 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「遺贈のイロハ、聞いてみませんか？」（AAR 事務所 6F 交流スペース）開催。AAR の理事でもある沼田美穂弁護士から遺贈の法律面についても詳しく説明。11 名参加。</li> </ul>
21 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「震災から 7 年—故郷へ帰る喜び、帰らない決意—」開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。NPO 法人富岡町 3.11 を語る会代表の青木淑子さんをゲストに迎え、福島の現状について考えるトークイベント。65 名参加。</li> </ul>
28 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「春休み子どもイベント ワタシが難民になったら～シリア出身・ラガドさんに聞いてみよう！～」（AAR 事務所 6F 交流スペース）開催。東京事務局のラガド・アドリによる戦下のシリアで生きる人々、避難先で難民として暮らす人々について</li> </ul>

		ての講演とワークショップ。親子 20 名参加。
4月	10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「シリア危機から 8 度目の 4 月：堀潤さんと語る難民支援～GARDEN Journalism × クーリエ・ジャポン × AAR 共催イベント」（株式会社講談社 2F セミナールーム）共催。ジャーナリストの堀潤さん、東京事務局のラガド・アドリ、小田隆子によるシリア難民支援についてのトークイベント。来場者 104 人。</li> <li>「特別報告会～地雷ではなく花をください～」開催。東京事務局の紺野誠二によるアフガニスタンにおける地雷回避、地雷被害者支援事業についての講演（佐賀県国際交流プラザ）。22 名参加。</li> </ul>
	17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キラーロボット反対キャンペーン」に賛同する NGO と超党派の国会議員による「キラーロボットのない世界に向けた日本の役割を考える勉強会」が、衆議院第一議員会館で行われた。遠山清彦議員（呼びかけ人・公明党）、平井卓也議員（自由民主党）、小林史明議員（自由民主党）他約 100 名が参加。</li> </ul>
	26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ドキュメンタリー映画「ラジオ・コバニ」上映を通じて考えるシリアの再生」立教大学主催のシンポジウムに、理事長 長 有紀枝と東京事務局ラガド・アドリが登壇。</li> </ul>
5月	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援事業部長 名取郁子が国連の難民グローバル・コンパクト（UNGCR）第 4 回公式協議にオブザーバー参加。</li> </ul>
6月	22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年紛争の続くアフガニスタンで、2018 年 6 月 15 日から 17 日の 3 日間、政府とタリバンの間ではじめての停戦が実現。日本の NGO5 団体*が、停戦の延長、暴力の停止、和平プロセスの進展を求め、共同声明を発表した。*AAR、NPO 法人カレーズの会、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、NPO 法人日本国際ボランティアセンター、NPO 法人日本国際ピースウィンズ・ジャパン。</li> <li>2018 年度（平成 29 年度）通常総会を開催（AAR 事務所 6F 交流スペース）。</li> </ul>
	30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「シリア難民写真展 ギャラリートーク フォトジャーナリスト×AAR」開催（キヤノンギャラリー銀座）。フォトジャーナリスト川畠嘉文さんのシリア難民をテーマにした写真展「Displaced: unknown hardship of Syrian refugees」の会期中、川畠さんと東京事務局の伊藤かおりによるギャラリートークイベント。来場者約 50 人。</li> </ul>
7月	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>西日本を中心とする記録的な大雨の被害</b>に対し、緊急支援チーム（東京事務局の高木卓美・田中晴子）を岡山県倉敷市に派遣。倉敷市真備町で炊き出しを実施。（NPO 法人ピースプロジェクト 加藤勉理事長、AAR 理事と共同実施。）並行して、岡山県、愛媛県、広島県の障害福祉施設を訪問し、緊急支援物資を配布するとともに被災状況の調査を行った。調査結果を基に、施設の修繕や什器備品の提供を行った。受益者：炊き出し支援：のべ 6,472 人、緊急物資配布：約 500 人、障害福祉施設の復旧支援：2,315 人、地縁団体の活動継続支援：のべ 3,285 人、支援金の送付：1,353 人。</li> </ul>
	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「4 つの視点を通して見る SDGs が目指す世界 ナッジ的 SDGs 体感セミナー 第 1 回」（薬樹株式会社 青山オフィス）開催。「NGO」「企業」「行政」「社会起業家」の 4 つの視点から SDGs を捉える連続セミナーを開催。SDGs 市民社会ネットワークの新田英理子さんと東京事務局の木下聰による、現地支援活動を通して考える SDGs への具体的な取り組みと課題。45 名参加。</li> </ul>
	26日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビア・メヘバ駐在代表の直江篤志さんが、マラリア感染により逝去。44 歳。</b></li> <li>岩手県大船渡市の障がい者の通所施設「かたつむり」と AAR が共同開発した「トマさんソース」が、「岩手うんぬ～もん！！グランプリ 2018」（岩手県ふるさと食品コンクール）にて、優秀賞ならびに「さんてつ特別賞」をダブル受賞。盛</li> </ul>

		岡市の老舗百貨店「川徳」グループのアネックスカワトク 30 周年記念祭の特別企画商品にも選ばれた。
7 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「西日本豪雨 緊急報告会」開催。緊急支援チームの高木卓美、田中晴子と鎌田舞衣が、現地での最新の状況を報告 (AAR 事務所 6F 交流スペース)。37 名参加。</li> </ul>
18 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>福島第一原発事故の影響で避難を余儀なくされた浪江町出身の方が多く暮らす福島県二本松の石倉団地で夏祭りの開催を支援。来場者約 400 人。</li> </ul>
22 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「夏休み子どもイベント『ワタシが難民？トモダチが難民？』」開催。難民を知るためのグループワーク (AAR 事務所 6F 交流スペース)。親子 17 名参加。</li> </ul>
9月 7 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>9月 6 日未明に発生した<b>北海道胆振東部地震</b>を受け、翌 9月 7 日から 12 日にかけて北海道厚真町の避難所で炊き出しを実施。(NPO 法人ピースプロジェクト 加藤勉理事長、AAR 理事と共同実施。) 計 980 食を提供。9月 10 日には調査チームを派遣し、札幌市清田区、むかわ町、安平町、追分町、日高町において、被災状況の調査を開始。障がい福祉施設 6 施設および役場や避難所などを訪問し、ニーズのあったむかわ町、日高町の 2 カ所の障がい施設に対して、修繕費用や什器備品の供与などの支援を行った。受益者：被災者約 1,000 人。</li> </ul>
11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「4 つの視点を通して見る SDGs が目指す世界 ナッジ的 SDGs 体感セミナー 第 2 回」開催。エーザイ株式会社 ESG 推進部の飛弾隆之さんによる「製薬企業の取り組み。顧みられない熱帯病から学んでいること」、一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長の黒田かをりさんによる「企業活動における社会的責任、サステナビリティ」と題したトークイベント (薬樹株式会社 青山オフィス)。25 名参加。</li> </ul>
15 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「直江 篤志さんをおくる会」を国際文化会館（東京都港区）で開催。直江さんのご家族やご友人、支援者の皆さま、東日本大震災復興支援活動の中で直江さんとともに活動した福祉施設の方々や JICA の皆さま、AAR のボランティアや役職員、元職員など約 150 名が参列。</li> </ul>
10 月 6-7 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>TICAD（アフリカ開発会議）閣僚級会合の 4 つの会合のうち、「全体会合 3：人間の安全保障のための健康で、持続可能で安定した社会」に、市民社会代表枠（各会合 10 人）の一員として東京事務局の広谷樹里が参加。</li> </ul>
11 月 9 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「4 つの視点を通して見る SDGs が目指す世界 ナッジ的 SDGs 体感セミナー 第 3 回」(薬樹株式会社 青山オフィス) 開催。厚生労働省の水野嘉郎さんによる「日本政府の SDGs に関する取り組みの全体像と今後の展望」、株式会社オルタナ代表取締役社長兼編集長の森摂さんによる「政府を含めた多様なアクターの活躍ぶりや、国内の貧困問題について」と題したトークイベント。35 名参加。</li> </ul>
13 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「AAR 創立 40 周年記念チャリティ・コンサート」(紀尾井ホール) 開催。仲道郁代さんと金子三勇士さんによるピアノデュオ。皇后陛下（現上皇后陛下）ご来臨。来場者 800 人。</li> </ul>
20 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「キラーロボットのない世界に向けた日本の役割を考える勉強会」第 2 回を衆議院議員第二会館の一室にて開催。一般市民や外務省、防衛省、政府関係者、専門家、NGO 職員など約 40 名参加。</li> <li>パキスタンの小学校で、AAR が設置した井戸や水道タンク、トイレを同校へ引き渡す式典を開催。日本大使館の倉井高志特命全権大使、ハイバル・パフトゥンハーリー州教育局初等中等教育局長、ハリプール郡長が来賓として列席。</li> <li>ミャンマー・ヤンゴン事務所は、CSR（企業の社会的責任）の推進などに取り組む現地団体「責任ある事業のためのミャンマー・センター (MCRB)」とともに、</li> </ul>

	同国初となる企業向けの「障がい者雇用の手引き」を発行。ミャンマー政府による式典などで公式に配布され、ILO（国際労働機関）のホームページで無料ダウンロードできるようになっている。
4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「カンボジア障がい者支援活動報告会一心のバリアを取り除くー」（東京ウィメンズプラザ 視聴覚室 B・C）開催。東京事務局の園田知子（直近までカンボジア駐在員）と野際紗綾子による、カンボジアの小学校におけるインクルーシブ教育推進事業の成果報告。30名参加。</li> </ul>
17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連総会において「難民グローバル・コンパクト」の文書が合意された。</li> </ul>

## 2019（平成31・令和元）年

テニス大阪なおみが全豪オープン初制覇/NZ のモスクで銃乱射 49 人死亡/平成天皇陛下生前退位、上皇へ/令和天皇陛下即位/元号は平成から令和へ/米朝首脳第2回会談合意できず/スリランカで連続爆弾テロ。日本人一人を含む258人が死亡/ボーイング社の最新型機737MAX が相次いで墜落事故/ノートルダム大聖堂が火災により焼失/はやぶさ2が小惑星りゅうぐうに着陸成功/

1月 11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「4つの視点を通して見る SDGs が目指す世界 ナッジ的 SDGs 体感セミナー 第4回」（薬樹株式会社 青山オフィス）開催。NPO 法人テラ・ルネッサンス創設者の鬼丸昌也さんが「途上国の課題の本質と日本の日常生活においてできる貢献」をテーマに、紛争の原因と私たち先進国の暮らしとの関わりや消費のあり方について、自分ごととして考えるためのヒントを語った。また、NPO 法人 CANPAN センター代表理事の山田泰久さんとともに、国内の NPO の動向や、私たちができる身近な貢献について議論した。34名参加。</li> </ul>
2月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーダンでのマイセトーマ対策事業にてエーザイ株式会社と協働契約を締結。2013年から、マイセトーマの症状及び重症化予防のための知識を伝える活動や、スーダンの首都にあるハルツーム大学マイセトーマ リサーチセンター（MRC）を通じた手術チームの派遣、義肢・リハビリの提供を行ってきた。一方、エーザイ株式会社は、2015年より非営利研究開発機関である Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi) とともに、マイセトーマの新規治療薬の共同開発をしており、現在、この臨床試験を MRC において実施している。マイセトーマの治療薬開発に取り組むエーザイ株式会社のパートナーシップを活用し、情報や医薬品が届きにくいスーダンという地で、通院や服薬を継続できる体制づくりを目指す。</li> </ul>
19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「キラーロボットのない世界に向けて」（立教大学 池袋キャンパス 8号館）開催。キラーロボットとも呼ばれる自律型致死兵器システム（LAWs）の規制に向けたアジア地域会合が本年2月に日本で開催されるのを機に、「キラーロボット反対キャンペーン（Campaign to stop killer robots）」の創設者らを講師に迎えた、最新の禁止運動の現状や課題についての講演。来場者約100人。</li> </ul>
3月 11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>AAR 支援企業（法人サポーター）交流会（AAR 事務所 6F 交流スペース）開催。9社11名参加。</li> </ul>
30日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ザンビア・ルサカ事務所閉鎖。</b>3月10日をもって「母子保健サービス強化事業」を終了。現地職員へ退職金を支払い、車両等を現地政府へ譲渡。3月22日にンゴンベの事業を礎の石へ譲渡。</li> </ul>
21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動報告会「震災から8年—逆境を乗り越えた復興の軌跡ー」（JICA 地球ひろば セミナールーム 600）開催。岩手、宮城、福島の3県福祉施設職員が、再起のきっかけや、どのような取り組みが成果をもたらしたのかを語る。また、とも</li> </ul>

		に新商品の開発などを進めてきた 東京事務局の浅野武治と高木卓美が、被災者支援の概要などを報告。38名参加。
12日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーダンにて、4月11日、軍が実権を掌握、バシール大統領は拘束され、辞任。翌12日、駐在員は全員ケニア・ナイロビ事務所へ退避。</li> </ul>
5月	24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO法人日本障害者協議会（Japan Council on Disability）理事に東京事務局の野際紗綾子が就任。</li> </ul>
29日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「忍足謙朗によるミャンマー避難民 現地視察報告会」（聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ3F ブリット記念ホール）開催。元WFPアジア地域局長であり、緊急支援のスペシャリストである忍足謙朗（AAR常任理事）がミャンマー避難民キャンプを視察。現地で活動するAARスタッフと共に、避難民の現状と、求められる支援について報告。来場者154人。</li> </ul>
6月	11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イギリスの地雷除去NGOヘイロー・トラストと「2025年までに世界から地雷をなくそう！—6/11「地雷ゼロを目指すタベ」（帝国ホテル本館中2F光の間）共同開催。ヘンリー王子によるビデオメッセージが上映され、外務省の辻清人政務官、猪口邦子参議院議員、山口那津男衆議院議員、デイヴィッド・エリス英国臨時代理大使からの挨拶が続いた。また、地雷被害によって両足と左腕を失った紛争ジャーナリストのジャイルズ・ドゥーリーさんの講演も行われた。アフガニスタンやアンゴラの大使をはじめとする各国大使館の方々、国会議員およびメディア、イギリスから来日したヘイロー・トラストの職員やAAR職員も合わせ、88名参加。</li> <li>・ 2019年度通常総会実施（日本プレスセンタービル）。</li> <li>・ 総会後、創立40周年記念イベント「40周年の集い、懇親会を開催。60名参加。</li> </ul>
22日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ザンビア報告会   顧みられない"元"難民に寄り添う」（JICA東京別館セミナールームD）開催。内戦終結後、さまざまな事情で祖国アンゴラやルワンダに戻らなかつた"元"難民2万2千人に対して、ザンビア政府と国連は再定住地内に土地と居住許可を与える政策を実施。1984年以来20年間、北西部州にある国内最大の難民居住区メヘバの地域作りを支援してきたAARの活動について、東京事務局の栗村友美が報告。約60人参加。</li> </ul>
26日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マカオで開催された「RI（Rehabilitation International：国際リハビリテーション協会）アジア太平洋地域会合」に東京事務局の野際紗綾子が参加。障がいインクルーシブな防災・減災のガイドラインの作成や東日本大震災以降の国内外の動きについて発表。</li> </ul>
26-28日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNHCR-NGO協議会年次会合に支援事業部長 名取郁子、バングラデシュ駐在員の兼山優希が参加。</li> </ul>
7月	3-5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トルコ駐在員によるシリア難民支援活動報告・交流会（AAR事務所6F交流スペース）開催。トルコ駐在員 景平義文より、シリア難民の現状を報告。マンスリーサポーター3名参加。</li> </ul>
23日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ナッジ的SDGs実践セミナー 第1回」（薬樹株式会社 青山オフィス）開催。「社会課題を自分ごととして行動するための"手段"」としてのSDGsについて考えるセミナー。35名参加。</li> </ul>
24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ナッジ的SDGs実践セミナー 第1回」（薬樹株式会社 青山オフィス）開催。「社会課題を自分ごととして行動するための"手段"」としてのSDGsについて考えるセミナー。35名参加。</li> </ul>
30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河野太郎外務大臣（現防衛大臣）が、バングラデシュ・コックスバザール県にあるミャンマー避難民キャンプ（クトゥパロン）を訪問し、AARが水・衛生改善事業で建設したし尿処理施設を視察。</li> </ul>
8月	21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休み子どもイベント 「親子で学ぶSDGs—きみの得意技で世界を変えよう」実施。サッカー・料理など、自分の得意なことや好きなことでSDGsの目標</li> </ul>

		達成に貢献できることを、ゲームやワークショップを通じて学ぶ試み（AAR 事務所 6F 交流スペース）。親子 52 名参加。
31 日		・ <b>スーダン・カッサラ事務所閉鎖。</b>
27 日		・ 2019 年 8 月 28 日から 30 日、横浜で開催された TICAD*7（第 7 回アフリカ開発会議）に先立つ 8/27（火）に、2 つの公式サイドイベントを実施。 *TICAD (Tokyo International Conference on African Development) 「難民×スポーツアフリカの難民キャンプの現場から—TICAD 7」（パシフィコ横浜 展示ホール B04）開催。AAR が取り組んできたスポーツによる地域住民と難民との平和的共存を目指す活動を報告。リオ五輪難民選手団の一員であるローズ・ナティケ・ロコニエンさんの講演も。来場者 81 人。 「バリアを取り除く—アフリカ開発への地雷・不発弾の影響—TICAD 7」（パシフィコ横浜 2F アネックス F203）イギリスに本部を置く地雷除去団体ヘイロー・トラスト、マイン・アドバイザリー・グループ（MAG）との共同開催。アフリカ開発と地雷問題の関わりをテーマに、アフリカ連合委員会（AUC）の平和安全保障委員であるスメイル・チャルギさん、JICA 国際協力専門員小向絵理さん、地雷除去の機械開発に携わる株式会社日建社長の雨宮誠さん、AAR と長く協力関係にあり、自身が地雷の被害者でもあるマーガレット・アレチ・オレチさん（地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）大使、ウガンダ地雷生存者協会代表）が、パネリストとして登壇し、より平等な発展を目指す政策の立案と実施を提議した。35 名参加。
28 日		・ <b>九州北部の大雨による被災を受け、8 月 28 日から緊急支援チームのメンバー（佐賀事務所長 大室和也と東京事務局の生田目充）</b> が佐賀市金立地区、久保泉地区、および武雄市の障がい者・高齢者福祉施設を回り、被害状況とニーズの確認を行った。福祉施設の被害状況やニーズの聞き取りをしながら、スポーツドリンクや衛生用品などを配付。武雄市北方町久津具地区に所在する宅幼老施設「笑びす」に対しては、水浸しになった家具や床などを早急に乾燥させるための送風機 3 台を提供。同施設が、高齢者世帯を中心に片づけや清掃作業を進める拠点を立ち上げるために必要な物資支援や技術サポートも行った。
9 月 4 日		・ 「ナッジ的 SDGs セミナー第 2 回」（薬樹株式会社 青山オフィス）開催。「SDGs がつなぐ、シンクロニシティ（意味のある偶然の一致）」と題して、実践セミナーを実施。事務局長 堀江良彰より AAR の活動と SDGs との関連を、姉妹団体さぼうと 21 の高橋敬子事務局長（AAR 常任理事）より日本国内での外国人支援と SDGs との関連を報告。薬樹ウィル株式会社代表取締役の吉澤靖博さんから薬樹グループの SDGs に関する取り組みについて発表した。30 名参加。
6 日		・ <b>ラオス・ポンサリー事務所を閉鎖。</b>
9 日		・ <b>台風 15 号が関東地方を直撃。</b> 千葉県を中心に大規模な被害が発生したことを受け、緊急支援チーム（東京事務局の生田目充、櫻井佑樹、平山泰弘）を派遣し、千葉県の 6 市 1 町（館山市、南房総市、鋸南町、鴨川市、富津市、木更津市、千葉市）で福祉施設を中心にニーズを聞き取りながら、衛生用品や飲料水、高齢者向けレトルト食品や栄養食品など、喫緊に必要とされた支援物資を提供。また、特に被害が深刻な地域（千葉県南房総市、木更津市）の 2 つの障がい福祉施設に対し、障がいのある利用者が日中活動を行うために必要な什器備品の提供、資材運搬のための車両の修繕、農業用ハウスや休憩所の設備の再建を支援した。
18 日		・ 「障がい者の就労支援体制強化事業完了報告会」（JICA 東京）を開催。ミャンマーにおいて JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）として実施してきた、

		職業訓練校での取り組みや、障がい者の就労機会の拡大の働きかけなどについて、ミャンマー駐在員中川善雄が報告した。29名参加。
25日		<ul style="list-style-type: none"> <li>「デヴィ夫人が語る ミャンマー避難民支援の現場」(AAR事務所 6F 交流スペース) 開催。デヴィ・スカルノ夫人が9月8日～12日にかけバングラデシュを訪れ、AARが実施する支援活動を視察し、子どもたちと交流。長期化する難民の今を報告。36名参加。</li> </ul>
10月	12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「元難民が教えてくれたこと—ザンビア共和国メヘバの現状と課題」(佐賀県国際交流プラザ 佐賀商工ビル1F) 開催。17名参加。</li> </ul>
11月	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム「難民が開く日本社会—インドシナ難民の受け入れから40年を経て—」(上智大学四谷キャンパス2号館 401室) 開催。日本で唯一の難民受け入れの先行事例であるインドシナ難民受け入れの40年間をふりかえり、多様化・国際化する日本社会を考える。</li> </ul>
12月	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「障がい者と取り組む 地域づくりシンポジウム」(日比谷図書文化館 コンベンションホール 大ホール) 開催。「地域に根差したインクルーシブ開発(CBID=Community-based Inclusive Development)」の活動について、ミャンマー、カンボジア、日本での事例を報告。</li> </ul>